

第六 抵當權

右地役權ハ所有權ノ從タル物權ニシテ留置權以下ハ人權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權ナリ

第三條 人權即チ債權ハ定マリタル人ニ對シ法律ノ認ムル原因ニ由リテ其負擔スル作爲又ハ不作爲ノ義務ヲ盡サシムル爲メ行ハルルモノニシテ亦主タル有リ從タル有リ

從タル人權ハ債權ノ擔保ヲ爲ス保證及ヒ連帶ノ如シ

第四條 著述者ノ著書ノ發行、技術者ノ技術物ノ製出又ハ發明者ノ發明ノ施用ニ付テノ權利ニ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第五條 權利ハ物權ト人權トヲ問ハス目的物ノ種種ノ區別ニ從ヒテ其様ヲ變ス此區別ハ物ノ性質、人ノ意思又ハ法律ノ規定ヨリ生ス即チ下ニ掲グル如シ

第六條 物ニ有體ナル有リ無體ナル有リ

有體物トハ人ノ感官ニ觸ルルモノヲ謂フ即チ地所、建物、動物、器具ノ如シ無體物トハ智能ノミヲ以テ理會スルモノヲ謂フ即チ左ノ如シ

第一 物權及ヒ人權

第二 著述者、技術者及ヒ發明者ノ權利

第三 解散シタル會社又ハ精算中ナル共通ニ屬スル財産及ヒ債務ノ包括

第七條 物ハ其性質ニ因リ又ハ所有者ノ用方ニ因リ遷移スルコトヲ得ルト否トニ從

ヒテ動産タリ不動産タリ此他法律ノ規定ニ因リテ動産タリ不動産タル物アリ

第八條 性質ニ因ル不動産ハ左ノ如シ

第一 耕地、宅地其他土地ノ部分

第二 池沼、溜井、溝渠、堀割、泉源

第三 土手、棧橋其他此類ノ工作物

第四 土地ニ定著シタル浴場、水車、風車又ハ水力、蒸氣ノ機械

第五 樹林、竹木其他ノ植物但第十二條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第六 果實及ヒ收穫物ノ未タ土地ヨリ離レサルモノ但第十二條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第七 礦物、坑石、泥炭及ヒ肥料土ノ未タ土地ヨリ離レサルモノ

第八 建物及ヒ其外部ノ戸扉但第十二條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第九 塙、籬、柵

第十 水ノ出入又ハ瓦斯、温氣ノ引入ノ爲メ土地又ハ建物ニ附著シタル管

第十一 土地又ハ建物ニ附著シタル電氣機器

此他總テ性質ニ因リテ移動ス可キモノト雖モ建物ニ必要ナル附屬物

第九條 動産ノ所有者カ其土地又ハ建物ノ利用、便益若クハ粧飾ノ爲メニ永遠又ハ

不定ノ時間其土地又ハ建物ニ備附ケタル動産ハ性質ノ何タルヲ問ハス用方ニ因ル

不動産タリ即チ左ノ如シ但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第一 土地ノ耕作、利用又ハ肥料ノ爲メニ備ヘタル獸畜

第二 耕作ニ備ヘタル器具、種子、糞草及ヒ肥料

第三 養蠶場ニ備ヘタル繭種

第四 樹木ノ支持ニ備ヘタル棚架及ヒ杭柱

第五 土地ニ生スル物品ノ化製ニ備ヘタル器具

第六 工業場ニ備ヘタル機械及ヒ器具

第七 不動産ノ常用ニ備ヘタル小舟但其水流カ公有ニ係リ又ハ他人ニ屬スルトキモ亦同シ

第八 園庭ニ裝置シタル石燈籠、水鉢及ヒ岩石

第九 建物ニ備ヘタル疊、建具其他ノ補足物及ヒ毀損スルニ非サレハ取離スコトヲ得サル匾額、玻璃鏡、彫刻物其他各種ノ粧飾物

第十 修繕中ノ建物ヨリ取離シテ再ヒ之ニ用ユ可キ材料

第十一 法律ノ規定ニ因ル不動産ハ左ノ如シ

第一 上ニ列記シタル不動産ノ上ニ存スル物權

第二 不動産ノ上ニ存スル物權ヲ取得セントシ又ハ取回セントスル人權

第三 建築師ノ材料ヲ以テ建物ヲ築造セシムル債權

第四 動産債權ニシテ法律カ不動産ト爲シ又ハ各人カ法律ノ規定ニ依リテ不動産ト爲シタルモノ

第十二 條 自力又ハ他力ニ因リテ遷移スルコトヲ得ル物ハ性質ニ因ル動産タリ但第八條及ヒ第九條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第十三 條 假ニ土地ニ定著セシメタル物ハ用方ニ因ル動産タリ即チ左ノ如シ

第一 建築ノ足場及ヒ支柱

第二 建築ヲ爲スノ間其用ニ備ヘタル小屋

第三 植木師及ヒ園丁カ賣ル爲メニ培養シ又ハ保存シタル草木

第四 取毀ツ爲メニ讓渡シタル建物其他ノ工作物又ハ收去スル爲メニ讓渡シタル樹木及ヒ收穫物

第十三 條 法律ノ規定ニ因ル動産ハ左ノ如シ

第一 上ニ指定シタル動産ノ上ニ存スル物權

第二 有體動産ヲ取得シ又ハ取回セントスル債權但不動産ヲ以テ其擔保ニ充ツルトキモ亦同シ

第三 所爲ヲ成就セシメ又ハ權利ノ行使ヲ止メシムル債權縱令其權利カ不動産タルトキモ亦同シ

第四 法人タル會社存立ノ間社員カ其會社ニ對シテ有スル權利縱令不動産カ會社ニ屬スルトキモ亦同シ

第五 著述者、技術者及ヒ發明者ノ權利

第十四 條 解散シタル會社又ハ清算中ナル其通ニ屬スル財産ノ一分ニ付テ有スル權利ノ動産タリ不動産タル性質ハ分割ニ於テ各利害關係人ノ受クル財産ノ性質ニ因リテ定マル

第十五 條 當事者ノ一方ノ選擇エ任スル動産又ハ不動産ヲ目的トスル擇一債權ノ性質モ亦其辨濟ニ付キ選擇シタル物ノ性質ニ因リ定マル

第十六 條 物ハ他ニ附屬セスシテ完全ナル効用ヲ爲スト否トニ從ヒテ主タル有リ從用方ニ因ル不動産ハ性質ニ因ル不動産ノ從ナリ地役ハ要役地ノ從ナリ債權ノ擔保ハ債權ノ從ナリ

第十六 條 物ハ左ノ如ク之ヲ視ルコトヲ得

第一 特定物即チ某家、某田、某獸ノ如キ殊別ナル物

第二 定量物即チ金幾圓、米幾石、布幾反ノ如キ數量尺度ヲ以テ算フル物

第三 聚合物即チ群畜、書庫ノ書籍、店舖ノ商品ノ如キ増減シ得ヘキ多少類似ナ

ル物

第四 包括財産即ち相續ノ總動産若クハ總不動産又ハ相續ノ全部若クハ一分ノ如キ資産ノ全部又ハ二分ヲ組成スル物

第十七條 物ハ其性質ニ因リ一回ノ使用ニテ消費スルト否トニ從ヒテ消費物タリ不消費物タリ

第十八條 物ハ當事者ノ意思又ハ法律ノ規定ニ因リ同種ノ物ヲ以テ代フルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ代替物タリ不代替物タリ

第十九條 物ハ其性質、當事者ノ意思又ハ法律ノ規定ニ因リ形體上又ハ智能上分割スルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ可分物タリ不可分物タリ

或ル地役及ヒ或ル作為又ハ不作爲ノ義務ハ性質ニ因リ不可分物ナリ

物ノ一分ノ供與ヲ以テ合意ノ目的タル便益ヲ與フルコト能ハサルトキハ其物ハ當事者ノ意思ニ因リ不可分物ナリ

抵當及ヒ債權ノ物上擔保ハ法律ノ規定ニ因リ不可分物ナリ

第二十條 物ハ所有ニ屬スルモノ有リ所有ニ屬セサルモノ有リ

所有ニ屬セサル物トハ公私ノ資産ノ部分ヲ爲スモノヲ謂フ

第二十一條 公ノ法人ニ屬スル物ニ公有及ヒ私有ノ二種アリ

第二十二條 公ノ法人ニ屬シ國用ニ供シタル物ハ公有ノ部分ヲ爲ス即チ左ノ如シ

第一 國領ノ海及ヒ海濱但海濱ハ春分、秋分最高潮ノ到ル處ヲ以テ限ト爲ス

第二 道路、舟若クハ筏ノ通ス可キ川又ハ掘割及ヒ其床地

第三 城砦、壘壁其他陸海防禦ノ工作物

第四 軍用ノ工廠、船艦、兵器、機械其他ノ物品

第五 官廳ノ建物

第二十三條 公ノ法人カ各人ト同一ノ名義ニテ所有スル物ニシテ金錢ニ見積ルコトヲ得ル收入ヲ生ス可キモノハ其私有ノ部分ヲ爲ス即チ國、府縣、市町村有ノ海瀉、樹林、牧場ノ如シ

所有者ナキ不動産及ヒ相續人ナクシテ死亡シタル者ノ遺産ハ當然國ニ屬ス

第二十四條 無主物トハ何人ニモ屬セスト雖モ所有權ノ目的ト爲ルコトヲ得ルモノヲ謂フ即チ遺棄ノ物品、山野ノ鳥獸、河海ノ魚介ノ如シ

第二十五條 公共物トハ何人ノ所有ニモ屬スルコトヲ得スシテ總テノ人ノ使用スルコトヲ得ルモノヲ謂フ即チ空氣、光線、流水、大洋ノ如シ

第二十六條 物ハ私ノ所有權又ハ債權ノ目的ト爲ルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ融通物タリ不融通物タリ

公ノ秩序ノ爲メ法律ニ於テ處分ヲ禁シタル物及ヒ公有ノ財産ハ不融通物ナリ

第二十七條 物ハ讓渡スコトヲ得ルモノ有リ讓渡スコトヲ得サルモノ有リ

所有權ヨリ支分シタル使用權又ハ住居權、要役地ヨリ分離セルモノト看做シタル地役及ヒ政府ノ與ヘタル開坑ノ特許其他ノ特權ハ概シテ融通物ナリト雖モ讓渡スコトヲ得サルモノナリ

第二十八條 物ハ法律ニ定メタル條件ヲ具備スル占有ニ附著セル取得ノ推定ヲ受クルト否トニ從ヒテ時効ニ罹ルコトヲ得ルモノ有リ時効ニ罹ルコトヲ得サルモノ有

第二十九條 物ハ其所有者ノ債權者カ強制賣却ヲ請求スルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ差押フルコトヲ得ルモノ有リ差押フルコトヲ得サルモノ有リ

不融通物、讓渡スコトヲ得サル物其他法律ノ規定又ハ人ノ處分ニテ差押ヲ禁シタル物ハ差押フルコトヲ得サルモノナリ即チ無償ニテ設定シタル終身年金權ノ如シ

第一部 物權

第一章 所有權

第三十條 所有權トハ自由ニ物ノ使用、收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ謂フ此權利ハ法律又ハ合意又ハ遺言ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ制限スルコトヲ得ス

第三十一條 不動産所ノ有者ハ適法ニ認メ及ヒ宣言シタル公益ニ因由シ且公用徵收法ニ從ヒテ定メタル償金ノ拂渡ヲ豫メ受クルニ非サレハ其所有權ノ讓渡ヲ強要セラルルコト無シ

動産ノ公用徵收ハ毎回定ムル特別法ニ依ルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス國又ハ官廳ニ屬スル先買權及ヒ徵發令ヲ以テ定メタル物ノ徵發又ハ凶災ノ時ニ行フ物ノ徵求ニ付テハ本條ノ例ヲ用キス

第三十二條 所有者ハ償金ヲ得ルニ於テハ公益工事ノ便利ノ爲メ所有物ノ一時ノ占據ヲ強要セラルルコト有リ

第三十三條 物料ノ探掘、道路ノ劃線、樹木ノ採伐、水其他ノ物ノ收取ニ付キ一般又ハ一地方ノ公益ノ爲メ設ケタル地役ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三十四條 土地ノ所有者ハ其地上ニ一切ノ築造、栽植ヲ爲シ又ハ之ヲ廢スルコトヲ得

又其地下ニ一切ノ開鑿及ヒ探掘ヲ爲スコトヲ得右孰レノ場合ニ於テモ公益ノ爲メ行政法ヲ以テ定メタル規則及ヒ制限ニ從フコトヲ要ス

此他相隣地ノ利益ノ爲メ所有權ノ行使ニ付シタル制限及ヒ條件ハ地役ノ章ニ於テ之ヲ規定ス

第三十五條 礦物ノ所有權及ヒ其試掘若クハ開坑ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三十六條 所有者其物ノ占有ヲ妨ケラレ又ハ奪ハレタルトキハ所持者ニ對シ本權訴權ヲ行フコトヲ得但動産及ヒ不動産ノ時効ニ關シ證據編ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

又所有者ハ第九十九條乃至第二百十二條ニ定メタル規則ニ從ヒ占有ニ關スル訴權ヲ行フコトヲ得

第三十七條 數人ニ物ヲ共有スルトキハ持分ノ均不均ニ拘ハラズ各共有者其物ノ全部ヲ使用スルコトヲ得但其用方ニ從ヒ且他ノ共有者ノ使用ヲ妨ケサルコトヲ要ス各共有者ノ持分ハ之ヲ相均シキモノト推定ス但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

天然又ハ法定ノ果實及ヒ產出物ハ各共有者ノ權利ノ限度ニ應シ定期ニ於テ之ヲ分割ス

各共有者ハ其物ノ保存ニ必要ナル管理其他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得各共有者ハ其持分ニシテ諸般ノ負擔ニ任ス

右規定ハ使用、收益又ハ管理ヲ格別ニ定ムル合意ヲ妨ケス

第三十八條 處分權ニ付テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾アルニ非サレハ其物ノ形

様ヲ變スルコトヲ得ス又自己ノ持分外ニ物權ヲ付スルコトヲ得ス
共有者ノ一人其持分ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ他ノ共有者ニ對シ讓渡人ニ代ハ
リ其地位ヲ有ス

第三十九條 各共有者ハ如何ナル合意アルモ常ニ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得
然レトモ共有者ハ五個年ヲ超エサル定期ノ時間分割セサルヲ約スルコトヲ得
此合意ハ何時ニテモ之ヲ更新スルコトヲ得但其時間ハ亦五個年ヲ超ユルコトヲ得
ス

右規定ハ數箇ノ所有地ニ共通ナル通路、井戸、籬壁、溝渠ノ互有ヨリ生スル共有權
ニ之ヲ適用セス

第四十條 數人ニテ一家屋ヲ區分シ各其一部分ヲ所有スルトキハ相互ノ權利及ヒ
義務ハ左ノ如ク之ヲ規定ス

各所有者ハ離隔セル所有物ノ如クニ自己ノ持分ヲ處分スルコトヲ得
諸般ノ租稅及ヒ建物並ニ其附屬物ノ共用ノ部分ニ係ル大小修繕ハ各自ノ持分ノ價
格ニ應ジテ之ヲ負擔ス

各自ハ己レニ屬スル部分ニ係ル費用ヲ一人ニテ負擔ス

第四十一條 所有權ハ當事者ノ間ニ於ケルモ第三者ニ對スルモ本編及ヒ財產取得編
ニ記載シタル原因及ヒ方法ニ依リ之ヲ取得シ保存シ及ヒ轉付ス

主タル物ノ處分ハ從タル物ノ處分ヲ帶フ但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第四十二條 所有權ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス
第一 任意又ハ強要ノ讓渡
第二 他人ノ物ニ自己ノ物ノ添附

第三 法律ニ依リテ宣告シタル沒收

第四 取得ノ解除、銷除又ハ廢罷

第五 物ヲ處分スル能力アル所有者ノ任意ノ遺棄

第六 物ノ全部ノ毀滅

第四十三條 動產及ヒ不動產ノ所有權ノ取得及ヒ消滅ニ關スル時効ノ性質及ヒ効力
ニ付テハ證據編ノ規定ニ從フ

第二章 用益權、使用權及ヒ住居權

第一節 用益權

第四十四條 用益權トハ所有權ノ他人ニ屬スル物ニ付キ其用方ニ從ヒ其元質本體ヲ
變スルコト無ク有期ニテ使用及ヒ收益ヲ爲スノ權利ヲ謂フ

第一款 用益權ノ設定

第四十五條 用益權ハ法律又ハ人意ニ因リテ設定スルモノトス

法律ニ因ル用益權ノ設定ハ別ニ定ムル法律ノ規定ニ從フ

人意ニ因ル用益權ノ設定ハ所有權ノ取得及ヒ移轉ニ關スル規則ニ從フ

又用益權ハ有償又ハ無償ニテ讓渡シタル財產ノ上ニ之ヲ留存シテ設定スルコトヲ
得

時効ヲ以テ用益權ノ取得ヲ證スル條件ハ時効ヲ以テ完全ノ所有權ノ取得ヲ證スル
條件ニ同シ

第四十六條 用益權ハ動產ト不動產ト有體物ト無體物トヲ問ハス一切ノ融通物ノ上
ニ之ヲ設定スルコトヲ得

又用益權ハ他ノ用益權ノ上、終身年金權ノ上又ハ包括權原ニテ資產ノ上ニ之ヲ設

定スルコトヲ得

第四十七條 用益權ハ始時若クハ終時ヲ定メ又ハ期限ヲ定メスシテ之ヲ設定スルコトヲ得

又用益權ハ其始時又ハ終時ヲ未必條件ノ成就ニ繫ケテ之ヲ設定スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ其期間ハ用益者ノ終身ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十八條 用益權ハ一人又ハ數人ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得數人ノ終身ヲ期シテ設定シタルトキハ數人同時ニ又ハ順次ニ之ヲ行フ

右孰レノ場合ニ於テモ用益權ハ其權利發開ノ時既ニ出生シ又ハ胎内ニ在ル者ノ爲メニスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第二款 用益者ノ權利

第四十九條 用益者ハ其權利ノ發開シタルトキ若シ始時ノ定アラハ其期限ノ到來シタルトキハ次款ニ定メタル不動産形狀書、動産目錄ヲ作り及ヒ保證ヲ立ツル義務ヲ履行シタル後其用益權ノ存スル物ノ占有ヲ要求スルコトヲ得

用益者ハ用益物ヲ其現狀ニテ受取ル可シ修繕又ハ恰好ヲ求ムルコトヲ得ス但權利發開ノ後設定者若クハ其相續人ノ過失ニ因リ又ハ發開ノ前ト雖モ其惡意ニ因リテ用益物ヲ毀損シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十條 用益者カ收益ヲ始ムルコトヲ得ルヨリ以後ニ虛有者ノ收取シタル果實ハ用益者ニ屬ス縱令用益者カ自ラ其收益ヲ遲延シタルモ亦同シ但其果實ノ收取及ヒ保存ノ費用ヲ虛有者ニ償還スルコトヲ要ス

用益者ハ收益ヲ始ムル時根枝ニ由リテ土地ニ附著スル果實ヲ其成熟ニ至リ收取スル權利ヲ有ス但耕耘、種子、栽培ノ費用ヲ虛有者ニ償還スルコトヲ要セス

第五十一條 用益者ハ其權利ノ繼續間用益物ヨリ生スル天然及ヒ法定ノ一切ノ果實ニ付キ所有者ニ同シキ權利ヲ有ス

第五十二條 天然ノ果實ハ自然ニ生シタルト栽培ニ因リテ得タルト問ハス土地ヨリ之ヲ離シタル時直チニ用益者ニ屬ス縱令事變又ハ盜奪ニ因リテ離レタルモ亦同シ

然レトモ果實カ其成熟前ニ土地ヨリ離レ且用益權カ通常ノ收取季節前ニ消滅シタルトキハ其利益ハ虛有者ニ歸ス

第五十三條 獸畜ノ子ハ其產出ノ時ヨリ用益者ニ屬ス乳汁、肥料及ヒ剪毛季節ニ剪取シタル絨毛モ亦同シ

第五十四條 法定ノ果實ハ其拂渡時期ノ如何ヲ問ハス收益ヲ始ムルコトヲ得ル時ヨリ用益權ノ消滅スルマテ用益者日割チ以テ之ヲ取得ス

法定ノ果實ハ用益物ニ付キ第三者ヨリ金錢ヲ以テ拂フ可キ納額即チ土地、建物ノ借貸、借入金ノ利息、會社ノ配當金、年金權ノ年金、石坑ノ借料ノ類ナリ

第五十五條 用益物中ニ金穀其他日用品ノ如キ消費スルニ非サレハ使用シ及ヒ收益スルコトヲ得サル動産アルトキハ用益者ハ之ヲ消費シ又ハ讓渡スコトヲ得但用益權消滅ノ時同數量、同品質ノ物ヲ返還シ又ハ收益ヲ始ムル以前ニ評價ヲ爲シタルニ於テハ其代價ヲ返還スルコトヲ要ス

右規定ハ用益權ヲ設定シタル商業資産ヲ組成スル商品ト其他ノ代替物トニ之ヲ適用ス

第五十六條 住居用ノ器具其他使用ニ因リテ毀損ス可キ用益物ニ付テハ用益者ハ其用方ニ從ヒテ之ヲ使用シ且用益權消滅ノ時其現狀ニテ之ヲ返還スルコトヲ得但用

益者ノ過失又ハ懈怠ニ因リテ重大ノ毀損ヲ致シタルトキハ此限ニ在ラス
又賃貸スルコトヲ得ヘキ性質ノ用益物ニ非サレハ用益者ハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ
賃貸スルコトヲ得ス

第五十七條 終身年金權ノ用益者ハ年金權者ト同シク其年金ヲ收取スルノ權利ヲ有
ス但反對ノ條件アルトキハ此限ニ在ラス
既ニ設定シタル用益權ニ付キ更ニ用益權ヲ得タル者ハ原用益者ニ屬スル一切ノ權
利ヲ行フ

第五十八條 種類及ヒ員數ノミヲ以テ定メタル畜群ノ用益者ハ保存ヲ要セサル部分
ヲ毎年處分スルコトヲ得但其子ヲ以テ全數ヲ保持スルコトヲ要ス
第五十九條 用益者ハ大小木ノ樹林及ヒ竹林ニ付テハ從來ノ所有者ノ慣習及ヒ採伐
方ニ從ヒ定期ノ採伐ヲ爲シテ收益ス

採伐方ノ未タ確ニ定マラサルトキハ用益者ハ近傍ノ重モナル所有者又ハ國、府縣、
市町村ニ屬スル樹林ノ慣習ニ從フ但採伐スル一ヶ月前ニ豫告スルコトヲ
要ス

第六十條 從來ノ所有者ノ定期採伐ヲ爲ササリシ保存木及ヒ大樹木ニ付テハ用益
者ハ其樹林ノ定期產出物ノミヲ得ル權利ヲ有ス
然レトモ用益權ノ存スル建物ノ大修繕ヲ要スルトキハ用益者ハ枯レ又ハ倒レタル
大樹木ヲ之ニ用ユルコトヲ得若シ生木ヲ要スルトキハ用益者立會ニテ其必要ヲ證
セシ後之ヲ採伐スルコトヲ得

第六十一條 用益者ハ用益樹木ヲ支持スルニ必要ナル棚架、支柱又ハ杭柱ニ用ユル
竹木ヲ何時ニテモ其用益地ノ樹林及ヒ竹林ヨリ採取スルコトヲ得

第六十二條 用益者ハ用益樹木ヲ植續キ又ハ植増ス爲メ其用益地ノ苗木ヨリ苗木ヲ
採取スルコトヲ得
又用益者ハ其苗木ノ苗木ヲ定期ニ賣ルコトヲ得但從來此用方アルトキ又ハ其生殖
力用益地ノ需用ニ餘ルトキニ限ル

右孰レノ場合ニ於テモ用益者ハ苗木又ハ種子ヲ以テ苗木ヲ保持スルコトヲ要ス
第六十三條 用益地ニ既ニ採掘ヲ始メ且特別法ニ從フヲ要セサル石類、石灰類其他
ノ物ノ石坑アルトキハ用益者ハ從來ノ所有者ノ如ク其收益ヲ爲ス

右石坑ヲ未タ採掘セス又ハ其採掘ヲ廢止シタル片ハ用益者ハ其用益物中ノ建物、
鐵壁其他ノ部分ノ大小修繕ニ必要ナル材料ノミヲ採取スルコトヲ得但其土地ヲ損
傷セス且第六十條ニ記載シタル如ク豫メ其必要ヲ證スルコトヲ要ス

又用益者ハ前二項ノ區別ニ從ヒ其用益地ノ泥炭及ヒ肥料土ニ付キ收益スルコトヲ
得
第六十四條 用益者ハ用益不動産ニ於テ第三者ノ發見シタル埋藏物ニ付キ權利ヲ有
セス

第六十五條 用益者ハ用益地ニ於テ狩獵及ヒ捕漁ヲ爲ス權利ヲ有ス
第六十六條 用益者ハ用益不動産ニ屬スル一切ノ地役權ヲ行フ若シ不使用ニ因リテ
之ヲ消滅セシメタルトキハ用益者ニ對シテ其責ニ任ス

第六十七條 用益者ハ用益者ハ用益者及ヒ第三者ニ對シ直接ニ其收益權ニ關スル占有及ヒ本
權ノ物上訴權ヲ行フコトヲ得
又用益者ハ用益不動産ノ傷方又ハ受方ノ地役ニ付キ自己ノ權利ノ範圍内ニ於テ占
有ニ係ルト本權ニ係ルトヲ問ハス要請又ハ拒却ノ訴權ヲ行フコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ第九十八條ノ規定ヲ適用ス

第六十八條 用益者ハ有償又ハ無償ニテ其用益權ヲ讓渡シ賃貸シ又ハ用益ニ付スルコトヲ得且用益物カ抵當ト爲ル可キモノナルトキハ其權利ヲ抵當ト爲スコトヲ得如何ナル場合ニ於テモ用益者ノ付與シタル權利ハ其用益權ト同シキ期間、制限及ヒ條件ニ從フ但賃貸借ノ期間及ヒ其更新ニ付テハ第九十九條乃至第二百二十二條ノ規定ヲ適用ス

第六十九條 用益者ハ用益權消滅ノ時猶ホ土地ニ附著シテ其收取セサリシ果實及ヒ產出物ノ爲メ償金ヲ求ムル權利ヲ有セス

又用益物ニ改良ヲ加ヘテ價格ヲ増シタルトキト雖モ其改良ノ爲メ虛有者ニ對シテ償金ヲ求ムルコトヲ得ス

用益者ハ自己ノ設ケタル建物、樹木、粧飾物其他ノ附加物ヲ收去スルコトヲ得但其用益物ヲ舊狀ニ復スルコトヲ要ス

第七十條 用益權消滅ノ時用益者又ハ其相續人カ前條ニ從ヒテ收去スルコトヲ得ヘキ建物及ヒ樹木等ヲ賣ラントスルトキハ虛有者ハ鑑定人ノ評價シタル現時ノ代價ヲ以テ先買スルコトヲ得

用益者ハ虛有者ニ右先買權ヲ行フヤ否ヤヲ述フ可キノ催告ヲ爲シ其後十日内ニ虛有者カ先買ノ陳述ヲ爲サス又ハ之ヲ拒絕シタルトキニ非サレハ其收去ニ著手スルトトヲ得ス

虛有者カ先買ノ陳述ヲ爲シタルト雖モ鑑定ノ後裁判所ノ處決ノ確定シタル時ヨリ一个月内ニ其代金ヲ辨濟セサルトキハ先買權ヲ失フ但損害アルトキハ賠償ノ責任ス

用益者又ハ其相續人ハ代金ノ辨濟ヲ受クルマテ建物ヲ占有スルコトヲ得

第三款 用益者ノ義務

第七十一條 用益者ハ用益物ノ占有ヲ始ムル前ニ虛有者ト立會ヒ又ハ合式ニ之ヲ召喚シ完全精確ニ動産ノ目録、不動産ノ形狀書ヲ作ルコトヲ要ス

第七十二條 當事者カ雙方出會シ共ニ能力アルトキ又ハ有効ニ代理セラレタルトキハ目録及ヒ形狀書ハ私署ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得反對ノ場合ニ於テハ公吏之ヲ作ル

第七十三條 目録ニ記シタル代替物ノ評價ハ賣買ニ同シキ効力ヲ有ス但反對ノ明言アルトキハ此限ニ在ラス不代替物ノ評價ハ賣買ニ同シキ効力ヲ有スルコトヲ目録ニ明示スルニ非サレハ其効力ヲ有セス

有償ニテ用益權ヲ設定シタルトキハ目録及ヒ評價ノ費用ハ用益者、虛有者各其半額ヲ負擔シ無償ノ場合ニ於テハ用益者之ヲ負擔ス

第七十四條 用益權設定ノ時用益者ノ目録又ハ形狀書ヲ作ル義務ヲ免除シタルト雖モ虛有者ハ常ニ用益者ト立會ヒ又ハ合式ニ之ヲ召喚シ自費ヲ以テ目録又ハ形狀書ヲ作ルコトヲ得但此事ニ付キ虛有者ハ十一日以上收益ヲ妨グルコトヲ得ス

第七十五條 用益者ハ目録又ハ形狀書ヲ作ル義務ヲ履行セスシテ收益ヲ始メタルトキハ定好ナル形狀ニテ不動産ヲ受取リタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

動産ニ付テハ虛有者ハ通常ノ證據ハ勿論世評ヲ以テ其實體及ヒ價格ヲ證スルコトヲ得

第七十六條 用益者ハ用益權消滅ノ時負擔ス可キ返還及ヒ償金ノ爲メ保證人ヲ立テ又ハ他ノ相應ナル擔保ヲ供スルニ非サレハ收益ヲ始ムルコトヲ得ス

第七十七條 擔保ノ性質ニ付キ當事者ノ間ニ議協ハサルトキハ裁判所ハ顯然資力アル第三者ノ引受ヲ認許シ又ハ供託所若クハ當事者ノ認諾スル第三者ニ金錢若クハ有價物ヲ寄託スルヲ認許シ又ハ質若クハ抵當ヲ認許スルコトヲ得

第七十八條 擔保ス可キ金額ニ付テハ裁判所ハ用益權ノ直接ニ存スル金額未滿ニ其金額ヲ定ムルコトヲ得ス又動産ノ評價力賣買ニ同シキ効力ヲ有スルトキハ其評價ノ全額未滿ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス又評價力賣買ニ同シキ効力ヲ有セザルトキハ其評價ノ半額未滿ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス

然レトモ右ノ末ノ場合ニ於テ若シ用益者カ評價セシ動産ニ係ル權利ヲ用益權ノ繼續間ニ讓渡シ又ハ賃貸シタルトキハ虛有者ハ常ニ評價ノ全額ニ對シテ擔保ヲ要求スルコトヲ得

不動産ノ擔保金額ノ多寡ハ裁判所之ヲ定ム

第七十九條 擔保ノ設定證書ニハ前條ニ定メタル金額ニ對スル保證人又ハ用益者ノ一身ノ引受ヲ併記ス

第八十條 用益者カ動産又ハ不動産ニ對シテ相應ナル擔保ヲ供スル能ハス且當事者ノ間ニ別段ノ合意ナキトキハ左ノ如ク處辨ス

日用品其他ノ代替物ハ之ヲ競賣シ其代金ハ虛有者、用益者連名ニテ用益權ノ直接ニ存スル金錢ト共ニ供託所ニ供託シ又ハ之ヲ國債券ニ換ヘ用益者ハ其利息ヲ收取ス此他ノ動産ハ虛有者之ヲ占有ス

不動産ハ之ヲ第三者ニ賃貸シ又ハ虛有者カ貸借ノ名義ニテ之ヲ保存シ用益者ハ保持費用及ヒ第八十九條ニ記載シタル負擔ヲ扣除シテ貸賃ヲ收取ス

第八十一條 用益者カ擔保ノ一分ニ非サレハ供スル能ハサルトキハ引渡ヲ受ク可キ用益物ニ付キ其擔保ノ限度ニ應シテ選擇ヲ爲ス

第八十二條 用益者ノ保證人ヲ立ツル義務ハ設定ノ權原又ハ其後ノ合意ヲ以テ之ヲ免除スルコトヲ得但用益者ノ無資力ト爲リタルトキハ此免除ハ其効ヲ失フ若シ用益者カ既ニ收益ヲ始メタルトキハ其用益物ヲ虛有者ニ返還シ且前二條ニ從ヒテ處辨ス

第八十三條 贈與物ニ付キ贈與者カ自己ノ利益ノ爲メ留存シタル用益權ニ付テハ保證人ヲ立ツル義務ナシ

第八十四條 用益者カ收益ヲ始メタルトキハ善良ナル管理人ノ如ク用益物ノ保存ニ注意スルコトヲ要ス

用益者ハ其過失又ハ懈怠ヨリ生スル用益物ノ滅失又ハ毀損ノ責ニ任ス但虛有者ノ權利ヲ保護スル爲メ用益者ニ對シテ第四百四條ニ許可シタル處置ヲ爲スヲ妨ケス

第八十五條 用益物ノ全部又ハ一分カ火災ニテ滅失シタルトキハ用益者ニ過失アリト推定ス但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第八十六條 用益者ハ動産及ヒ不動産ノ小修繕ヲ負擔シ其求償權ヲ有セス
大修繕ハ用益者ノ過失ニ因リ又ハ小修繕ヲ爲ササルニ因リテ必要ト爲リタルトキニ非サレハ用益者之ヲ負擔セス
屋根若クハ重モナル牆壁ノ修繕又ハ重モナル梁柱若クハ基礎ノ變更ヲ建物ノ大修繕トス
石垣、土手及ヒ牆壁ノ改造モ亦之ヲ大修繕ト看做ス

第八十七條 過失又ハ懈怠ノ場合ノ外用益者ハ虛有者ヲ立會ハシメ鑑定人ヲシテ大修繕ノ必要ヲ證セシメタル後虛有者其大修繕ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ自ラ之ヲ爲スコトヲ得

用益權消滅ノ時虛有者ハ右修繕ヨリ生シタル現時ノ增價額ヲ用益者ニ辨償スル責ニ任ス

若シ虛有者カ大修繕ヲ爲ストキハ用益者ヲ立會ハシメ鑑定人ヲシテ其必要及ヒ費用ヲ證セシメ用益者ハ毎年其費用ノ利息ヲ虛有者ニ辨償ス

第八十八條 前條ノ規定ハ建物カ朽敗ノ爲メ崩壊シ又ハ事變ニ因リテ破壊シタル場合ニモ之ヲ適用ス但第百六條ニ定メタル如ク此等ノ事ニ因リテ用益權ノ消滅ヲ致ストキハ此限ニ在ラス

第八十九條 用益物ニ賦課セラルル毎年通常ノ租稅及ヒ公課ハ其一般ニ係ルモノト一地方ニ係ルモノトチ問ハス用益者之ヲ負擔シ其求償權ヲ有セス

用益權ノ繼續間用益物ニ賦課セラルルコト有ル可キ非常ノ公課又ハ租稅ニ付テハ虛有者ハ其元本ヲ拂ヒ用益者ハ此時間毎年ノ利息ヲ辨償ス

非常ノ公課又ハ租稅ト看做スモノハ左ノ如シ
第一 強要ノ借入

第二 增稅又ハ新稅但其臨時又ハ非常ノ性質カ法令ニ明示アルトキ又ハ明ニ事情ヨリ生スルトキニ限ル

第九十條 用益者又ハ虛有者ノ通常又ハ非常ノ租稅ヲ納メサルトキハ不動産ハ完全ノ所有權ニ於テ之ヲ差押ヘ且賣却シ其代金ヲ怠納租稅ニ充ツ若シ殘額アラハ其元本ハ虛有者ニ屬シ其收益ハ用益者ニ屬ス

第九十一條 虛有者カ用益權設定ノ前ニ火災ニ對シテ建物ヲ保險ニ付シタルトキハ用益者ハ毎年保險料ノ利息ヲ拂フノ責ニ任ス但火災ノ場合ニ於テ得タル償金ハ虛有者ニ屬シ其收益ハ用益者ニ屬ス

虛有者カ用益權ノ繼續間ニ完全ノ所有權ヲ保險ニ付シタルトキハ用益者ハ保險料ノ利息ヲ負擔セス其償金ニ關シテハ虛有者カ自己ノ拂ヒタル保險料ノ金額ヲ扣除シタル殘餘ニ付キ收益ス又虛有者カ其虛有權ノミチ保險ニ付シタルトキハ用益者ハ償金ニ付キ權利ヲ有セス

海上ノ危險ニ對シ保險ニ付シタル船舶ニ付キ用益權ヲ設定シタルトキモ亦右ノ規定ヲ適用ス

第九十二條 用益者ハ自己及ヒ虛有者ノ利益ノ爲メ自費ヲ以テ保險ヲ約スルコトヲ得此場合ニ於テハ用益者ハ償金ノ額内ヨリ自己ノ拂ヒタル保險料ヲ控除シ其殘額ニ付テ收益ス

又用益者ハ用益權ノ價格ノミニ付キ建物ヲ保險ニ付シタルトキハ一人ニテ保險料ヲ負擔シ災害アリシトキハ其償金ヲ取得ス凍、雹其他天然ノ事變ニ對シ用益者カ收穫物又ハ產出物ヲ保險ニ付シタルトキモ亦同シ

第九十三條 遺言ニテ包括財産ノ用益權ヲ得タル者ハ其得益ノ割合ニ應シテ相續ノ債務ノ利息ヲ負擔ス

此他相續ノ負擔タル養料又ハ終身年金權ノ年金モ亦同上ノ割合ニ應シテ之ヲ負擔ス

第九十四條 特定財産ノ用益者ハ其用益財産カ抵當又ハ先取特權ヲ負擔スルトキト雖モ設定者ノ債務ノ辨濟ヲ分擔セス

用益者カ所持者トシテ訴追ヲ受ケタルトキハ債務者ニ對スル求償權ヲ有ス但用益權ノ設定者又ハ其相續人ニ對スル追奪擔保ノ訴權ヲ妨ケス

第九十五條 虛有者カ元本ヲ負擔シ用益者カ其利息ヲ負擔ス可キ諸般ノ場合ニ於テハ左ノ方法ノ一ニ依リテ處辨ス

第一 虛有者カ元本ヲ拂ヒ用益者カ其毎年ノ利息ヲ拂フ

第二 用益者カ元本ヲ立替ヘ虛有者カ用益權消滅ノ時之ヲ用益者ニ償還ス

第三 要求ヲ受ク可キ金額ニ滿ツルマテ用益物ノ一分ヲ賣却ス

第九十六條 用益權ノ繼續間用益不動産ニ第三者カ虛有者ノ權利ヲ害ス可キ侵奪又ハ作業ヲ爲ストキハ用益者ハ其實事ヲ虛有者ニ告發スルコトヲ要ス若シ此告發ヲ爲ササルトキハ爲メニ生シタル總テノ損害及ヒ第三者ノ取得スル時効又ハ占有權ニ付キ其責ニ任ス

第九十七條 虛有者カ原告又ハ被告トシテ用益物ノ完全ノ所有權ニ係ル訴訟ヲ爲ストキハ用益者ヲ其訴訟ニ召喚スルコトヲ要ス

用益者ハ右訴訟費用ノ利息及ヒ收益ノミニ關スル訴訟費用ヲ負擔ス然レトモ用益權ノ設定證書ヲ以テ用益者ニ追奪擔保ヲ爲シタルトキハ用益者ハ總テノ訴訟費用ヲ負擔セス

如何ナル場合ニ於テモ用益者ハ虛有權ノミニ關スル訴訟費用ヲ分擔セス

第九十八條 訴訟ニ參加ス可クシテ之ニ參加セシメラレサリシ虛有者又ハ用益者ハ其判決ノ害ヲ受クルコト無シ然レトモ事務管理ノ規則ニ從ヒテ其利ヲ受クルコトヲ得

第四款 用益權ノ消滅

第九十九條 用益權ハ第四十二條ニ記載シタル所有權消滅ノ原因ト同一ノ原因ニ由リテ消滅スルノ外尙ホ左ノ原因ニ由リテ消滅ス

第一 用益者ノ死亡

第二 用益權ヲ設定シタル期間ノ經過

第三 用益者ノ明示シタル用益權ノ拋棄

第四 三十个年間繼續シタル不使用

第五 用益權ノ廢罷

第一百條 數人ノ終身ヲ期シテ同時ニ且不分ニテ用益權ヲ設定シタルトキハ死亡者ノ持分ハ生存者ヲ利ス其用益權ハ最後ノ死亡者ノ死亡ニ因ルニ非サレハ消滅セス

第一百一條 法人ノ爲メニ設定シタル用益權ハ三十个年ノ期間ヲ以テ消滅ス但三十个年ヨリ短キ期間ヲ以テ設定シタルトキハ此限ニ在ラス

第一百二條 用益者ハ用益權ノ拋棄ヲ以テ其拋棄前ニ履行セサリシ義務ヲ免カルルコトヲ得ス

又其拋棄ハ用益者ノ權ニ基キ物ノ上ニ權利ヲ取得シタル第三者ヲ害スルコトヲ得ス

第一百三條 不使用ハ未成年者ニモ其他ノ人ニシテ之ニ對シ時効ノ經過スルコトヲ得サル者ニモ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

免責時効ニ關スル此他ノ規則ハ不使用ニ之ヲ適用ス

第一百四條 用益者カ用益物ニ重大ノ毀損ヲ加フルトキ又ハ保持ノ欠缺若クハ收益ノ濫妄ニ因リテ用益物ノ保存ヲ危フスルトキハ裁判所ハ用益權消滅ノ他ノ原因ノ一ノ生スルマテ用益者ノ費用ヲ以テ用益物ヲ保管ニ付シ又ハ此時間虛有者ヨリ毎年

用益者ニ拂フ可キ金額若クハ果實ノ部分ヲ定メ虛有者ノ爲メ用益權ノ廢罷ヲ宣告スルコトヲ得

裁判所ハ右ト同時ニ其年ノ果實及ヒ產出物ノ分割ヲ定ム

將來ニ於テ用益者ニ拂フ可キ金額又ハ果實ノ價額ハ用益者日割ヲ以テ之ヲ取得ス

第一百五條 用益權ノ廢罷ハ其廢罷前ニ用益者ノ加ヘタル損害ノ賠償ヲ妨ケス

第一百六條 專變又ハ朽敗ニ因リテ用益權ノ存スル建物ノ全部カ毀滅シタルトキハ用

益者ハ土地ニ付テモ材料ニ付テモ收益スルコトヲ得ス但建物カ用益權ノ存スル土地ノ從タルトキハ此限ニ在ラス

第一百七條 用益物カ公用徵收ヲ受ケタルトキハ用益者ハ其價金ニ付キ收益ス此場合

ニ於テ用益者ハ其收益スル元本ニ對シテ相應ナル擔保ヲ供スルコトヲ要ス但此場合ヲ豫見シテ特ニ其義務ヲ免除シタルトキハ此限ニ在ラス

第九十條乃至第九十二條ニ規定シタル場合ニ於テモ亦同シ

第一百八條 池沼ノ用益權ハ水ノ乾涸シテ舊狀ニ復スル見込ナキトキハ消滅ス

又土地ノ用益權ハ水ノ浸没シテ舊狀ニ復スル見込ナキトキハ消滅ス

第一百九條 第一百四條ニ掲ケタル場合ヲ除ク外用益權消滅ノ時猶ホ土地ニ附著スル果

實及ヒ產出物ハ虛有者ニ屬ス其栽培又ハ作業ノ費用ハ之ヲ償還スルコトヲ要セス

但不動産賃借人カ果實ニ付キ既ニ得タル權利ヲ妨ケス

第二節 使用權及ヒ住居權

第一百十條 使用權ハ使用者及ヒ其家族ノ需用ノ程度ニ限ルノ用益權ナリ

住居權ハ建物ノ使用權ナリ

使用權及ヒ住居權ハ用益權ト同一ノ方法ニ因リテ成立シ及ヒ同一ノ原因ニ由リテ

消滅ス

第一百一十條 使用權及ヒ住居權ノ程度ヲ定ムル爲メ使用者ノ家族ト看做ス可キ者ハ

使用者ト共ニ住居スル配偶者卑屬親尊屬親及ヒ使用者又ハ此等ノ親族ノ隨身雇人

ナリ

第一百十二條 設定ノ權原又ハ其後ノ合意ヲ以テ土地ノ使用權ヲ行フノ方法ヲ定メス

又ハ住居權ヲ行フ可キ建物ヲ定メサルトキハ當事者立會ノ上裁判所其意見ヲ聽キ

テ之ヲ定ム

第一百十三條 使用權及ヒ住居權ハ之ヲ讓渡シ又ハ賃貸スルコトヲ得ス

第一百十四條 使用權又ハ住居權ヲ有スル者ハ用益者ト同シク動産ノ目錄及ヒ不動産

ノ形狀書ヲ作り且保證人ヲ立ツル責ニ任ス

又用益者ト同一ノ注意ヲ爲シ及ヒ自己ノ過失ニ付テハ之ト同一ノ責ニ任ス

又其收益ノ割合ニ應シ用益者ト同シク修繕費用、租稅、公課及ヒ訴訟費用ヲ分擔ス

第三章 賃借權、永借權及ヒ地上權

第一節 賃借權

第一百十五條 動産及ヒ不動産ノ賃貸借ハ賃借人ヨリ貸借人ニ金錢其他ノ有價物ヲ定

期ニ拂フ約ニテ賃借人ニ或ル時間賃借物ノ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利ヲ與フ但後ノ

第二款及ヒ第三款ニ定メタル如ク合意ニ因リ又ハ法律ノ効力ニ因リテ當事者ノ負

擔スル相互ノ義務ヲ妨ケス

第一百十六條 國、府縣、市町村及ヒ公設所ニ屬スル財産ノ賃貸借ハ行政法ヲ以テ之ヲ

規定ス

第一款 賃借權ノ設定

第十七條 賃借權ハ賃借契約ヲ以テ之ヲ設定ス

賃借權ヲ遺贈シタル場合ニ於テハ相續人ハ遺言書ニ記載シタル項目及ヒ條件ニ從ヒテ受遺者ト賃借契約ヲ取結フコトヲ要ス
賃借權ヲ豫約シタル場合ニ於テモ諾約者ハ要約者ト賃借契約ヲ取結フコトヲ要ス

第十八條 賃借契約ハ有償且變務ノ契約ノ一般ノ規則ニ從フ但後ニ揭ケタル變例ヲ妨ケス

第十九條 法律上又ハ裁判上ノ管理人ハ其管理スル物ヲ賃貸スルコトヲ得然レトモ管理人カ期間ニ付キ特別ノ委任ヲ受ケスシテ賃貸スルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第一 獸畜其他ノ動産ニ付テハ一十年

第二 居宅、店舗其他ノ建物ニ付テハ三十年

第三 耕地、池沼其他土地ノ部分ニ付テハ五十年

第四 牧場、樹林ニ付テハ十年

第二十條 管理人ハ前條ニ記載シタル賃貸物ノ區別ニ從ヒ現期間ノ満了ニ先ダツ一ヶ月、二ヶ月、六ヶ月又ハ一十年内ニ非サレハ同一ノ期間ヲ以テ賃借借ヲ更新スルコトヲ得ス

然レトモ右ノ時期ニ先ダチ爲シタル更新ハ新期間ノ始マリシ後尙ホ管理人ノ委任ノ止マサリシトキハ無効ナラス

第二十一條 管理人ハ金錢外ノ有價物ヲ賃貸ト爲シテ賃貸スルコトヲ得ス然レトモ耕地ニ付テハ其產出物ヲ賃貸ト爲シテ賃貸スルコトヲ得

第二十二條 前三條ノ規定ハ代理人ニ之ヲ適用ス但代理委任ノ書面ヲ以テ其權限ヲ伸縮シタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條 自己ノ財産ヲ管理スルコトヲ得ル婦及ヒ自治産ノ未成年者モ亦管理人ト同一ノ條件ニ從フニ非サレハ其財産ヲ賃貸スルコトヲ得ス

第二十四條 賃借人ハ前數條ニ反シタル賃借又ハ其更新ノ無効又ハ短縮ヲ請求スルコトヲ得ス

然レトモ所有者其權利ヲ自在ニスルコトヲ得ルニ至リタルハ賃借人ハ所有者ノ認諾スルヤ否ヤノ意思ヲ第十九條ニ區別シタル賃借物ノ性質ニ從ヒ五日、八日、十五日又ハ三十日ノ期間ニ述フルコトヲ常ニ要求スルコトヲ得

所有者カ其意思ヲ述フルコトヲ拒ムトキハ賃借人ハ起初又ハ更新ニ於テ定メタル如ク賃借期間ヲ維持セント述フルコトヲ得

第二十五條 所有者ノ爲シタル不動産ノ賃借力カ三十年ヲ超ユルトキハ其賃借借ハ永賃借ト爲リ此種ノ賃借借ノ爲メ後ノ第二節ニ定メタル規則ニ從フ

第二款 賃借人ノ權利

第二十六條 賃借人ハ賃借物ニ付キ用益者ト同一ノ利益ヲ收ムル權利ヲ有ス但其賃借借設定ノ契約及ヒ法律ノ規定ヨリ生スル權利ノ増減ハ此限ニ在ラス

第二十七條 賃借人ハ其收益ヲ始ムル爲メニ定メタル時期ニ於テ賃借物ノ占有ヲ賃借人ニ要求スルコトヲ得然レトモ其目錄又ハ形狀書ヲ作り及ヒ保證人ヲ立ツル責ニ任セス但契約ニ因リテ其責ニ任スルトキハ此限ニ在ラス

第二十八條 賃借人ハ物ノ引渡前ニ其用方ニ從ヒテ一切ノ修繕ヲ整フルコトヲ賃借人ニ要求スルコトヲ得

此他賃借人ハ賃借ノ期間大小修繕ヲ爲ス責ニ任ス但左ノ二項ニ掲ケタル修繕及ヒ賃借人又ハ其雇人ノ過失若クハ懈怠ニ因リテ必要ト爲リタル修繕ハ賃借人之ヲ負擔ス

賃借人ハ賃借ノ期間疊、建具、塗彩及ヒ壁紙ノ保持ヲ負擔セス
又井戸、用水溜、汚物溜又ハ水道管ノ疏浚及ヒ普通ニ賃借人ノ爲ス可キ修繕ヲ負擔セス

本條ノ規定ニ反對ノ慣習アルトキハ其慣習ニ從フコトヲ妨ケス

第二百二十九條 建物ニ必要ト爲リタル大修繕ハ賃借人ヨリ之ヲ要求セサルモ又此カ爲メ賃借人ニ多少ノ不便ヲ生セシム可キモ賃借人之ヲ爲スコトヲ得

然レトモ賃借人ハ右修繕ノ一月ヨリ長ク繼續スルトキハ借賃ノ減少ヲ要求スルコトヲ得又時間ノ如何ヲ問ハス右修繕ノ爲メ其賃借物中住居ス可キ全部又ハ商業若クハ工業ニ極メテ必要ナル部分ヲ失フ可キトキハ賃借人ハ賃借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第二百二十條 賃借人カ第三者ヨリ收益ノ權利ニ妨害又ハ爭論ヲ受ケ其原因賃借人ノ責ニ歸ス可カラサルトキ賃借人ヨリ合式ニ告知ヲ受ケタル賃借人ハ其訴訟ニ參加シテ賃借人ヲ擔保シ又ハ損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第二百一十一條 妨害カ戰爭、旱魃、洪水、暴風、火災ノ如キ不可抗力又ハ官ノ處分ヨリ生シ此カ爲メ毎年ノ收益ノ三分一以上損失ヲ致シタルトキハ賃借人ハ其割合ニ應シテ借賃ノ減少ヲ要求スルコトヲ得但地方ノ慣習之ニ異ナルトキハ其慣習ニ從フコトヲ妨ケス

又右ノ妨害カ引續キ三ヶ年ニ及フトキハ賃借人ハ賃借ノ解除ヲ請求スルコトヲ

得建物ノ一分ノ燒失其他ノ毀滅ノ場合ニ於テ所有者カ一个年内ニ之ヲ再造セサルトキモ亦同シ

第二百二十二條 土地又ハ建物ヲ以テ主タル目的物ト爲シタル賃借ニ於テ其現在ノ坪數カ契約ノ坪數ヨリ少ナク又ハ多キトキハ土地又ハ建物ノ賣買ニ於ケルト同一ノ條件ニ從ヒテ借賃ノ増減又ハ契約ノ銷除ヲ爲スコトヲ得

第二百二十三條 賃借人ハ賃借人ノ明許ヲ要セスシテ賃借地ニ適宜ニ建物ヲ築造シ又ハ樹木ヲ栽植スル事ヲ得但現在ノ建物又ハ樹木ニ何等ノ變更ヲモ加フル事ヲ得ス賃借人ハ舊狀ニ復スルコトヲ得ヘキトキハ其築造シタル建物又ハ栽植シタル樹木ヲ賃借ノ終ニ收去スルコトヲ得但第四百四十四條ヲ以テ賃借人ニ與ヘタル權能ヲ妨ケス

第二百二十四條 賃借人ハ賃借ノ期間ヲ超エサルニ於テハ其賃借權ヲ無償若クハ有償ニテ讓渡シ又ハ其賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得但反對ノ慣習又ハ合意アルトキハ此限ニ在ラス

賃借人ハ讓渡ノ場合ニ於テハ贈與者又ハ賣主ノ權利ヲ有シ轉貸ノ場合ニ於テハ賃借人ノ權利ヲ有ス

右孰レノ場合ニ於テモ賃借人ハ賃借人ニ對シテ其義務ヲ免カルコトヲ得ス但賃借人カ轉借人ト更改ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

果實又ハ產出物ノ一分ヲ以テ借賃ト爲シ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ許ササルトキハ賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ハ賃借人ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
第二百二十五條 不動産ノ賃借人ハ其權利ヲ抵當ト爲スコトヲ得但讓渡又ハ轉貸ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ限ル

第三百三十六條 賃借人ハ其權利ヲ保存スル爲メ賃貸人及ヒ第三者ニ對シテ第六十七條ニ記載シタル訴權ヲ行フコトヲ得

第三款 賃借人ノ義務

第三百二十七條 賃貸人其權利ヲ保存スル爲メ賃貸物ノ目錄又ハ形狀書ヲ作ラントスルトキハ賃借人ハ何時ニテモ賃貸人カ己レト立會ヒテ之ヲ作ルヲ許諾スルコトヲ要ス但其書類ノ費用ヲ分擔セス
賃借人モ亦賃貸人ヲ召喚シ立會ノ上自費ニテ右目錄又ハ形狀書ヲ作ルコトヲ得
形狀書ヲ作ラサリシトキハ賃借人ハ修繕完好ノ形狀ニテ賃借物ヲ受取リタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス
目錄ナキトキハ動産ノ實體及ヒ形狀ノ證據ハ賃貸人ノ責ニ歸シ通常ノ方法ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三百二十八條 金錢ヲ以テ借貸ト爲シタルトキハ賃借人ハ合意シタル時期ニ之ヲ拂ヒ合意ナキトキハ毎月末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但地方ノ慣習之ニ異ナルトキハ此限ニ在ラス
果實ヲ以テ借貸ト爲シタルトキハ收穫後ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

第三百二十九條 賃借人借貸ヲ拂ハス其他借貸借ノ特別ナル項目又ハ條件ヲ履行セサルトキハ賃貸人ハ賃借人ニ對シテ其履行ヲ強要シ又ハ損害アルトキハ其賠償ヲ得テ借貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第三百四十條 賃借人ハ賃借物ニ直接ニ賦課セラルル通常及ヒ非常ノ租稅其他ノ公課ヲ負擔セス若シ租稅法ニ依リテ賃借人ヨリ徵收スルコト有ルトキハ其借貸ヨリ之ヲ扣除シ又ハ賃貸人ヨリ賃借人ニ之ヲ償還ス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在

ラス

然レトモ賃借人ノ築造シタル建物ニ賦課セラレ又ハ賃借不動産ニ於テ賃借人ノ營業商業若クハ工業ニ賦課セラルル租稅其他ノ公課ハ賃借人ノ負擔ス

第三百四十一條 賃借人ハ明示ト默示トヲ問ハス合意ヲ以テ定メタル用方ニ從フニ非サレハ賃借物ヲ使用スルコトヲ得ス其合意ナキトキハ契約ノ時ノ用方又ハ賃借物ノ性質ニ相應シテ毀損セサル用方ニ從フニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三百四十二條 賃借人ハ賃借物ノ看守及ヒ保存ニ付キ用益者ト同一ノ義務ヲ負擔ス
第三者カ賃借物ニ侵奪又ハ作業ヲ爲ストキハ賃借人ハ第九十六條ニ記載シタル如ク用益者ト同一ノ責ニ任ス

第三百四十三條 賃貸借ノ終ニ於テ賃借人カ賃借物ヲ返還セサルトキハ賃貸人ハ其選擇ヲ以テ對人訴權又ハ物上訴權ニテ之ヲ訴追スルコトヲ得

第三百四十四條 賃貸人ハ賃貸借ノ終ニ於テ第三百三十三條ニ依リテ賃借人ノ收去スルヲ得ヘキ建物及ヒ樹木ヲ先買スルコトヲ得此場合ニ於テハ第七十條ノ規定ヲ適用ス

第四款 賃借權ノ消滅

第三百四十五條 賃借權ハ左ノ諸件ニ因リテ當然消滅ス

- 第一 賃借物ノ全部ノ滅失
- 第二 賃借物ノ全部ノ公用徵收
- 第三 賃貸人ニ對スル追奪又ハ賃貸物ニ存スル賃貸人ノ權利ノ取消但其追奪及ヒ取消ハ賃貸借契約以前ノ原因ニ由リ裁判所ニ於テ之ヲ宣告セシトキニ限ル

第四 明示若クハ黙示ニテ定メタル期間ノ滿了又ハ要約シタル解除條件ノ成就
 第五 初ヨリ期間ヲ定メサルトキハ解約申入ノ告知ノ後法律上ノ期間ノ滿了
 右ノ外貸借ハ條件ノ不履行其他法律ニ定メタル原因ノ爲メ當事者ノ一方ノ請求
 ニ因リ裁判所ニテ宣告シタル取消ニ因リテ終了ス

第四百四十六條 意欲又ハ不可抗ノ原因ニ由リテ賃借物ノ一分ノ滅失セシトキハ賃借
 人ハ第三百三十一條ニ記載シタル條件ニ從ヒテ賃借ノ解除ヲ要求シ又ハ賃借
 維持シテ賃借ノ減少ヲ要求スルコトヲ得
 公用ノ爲メ賃借物ノ一分ヲ徵收セラレタルトキハ賃借人ハ常ニ賃借ノ減少ヲ要求
 スルコトヲ得

第四百四十七條 期間ノ定アル賃借ノ終リシ後賃借人仍ホ收益シ賃借人ノ知リテ
 故障ヲ爲ササルトキハ新賃借暗ニ成立シ前賃借ト同一ノ負擔及ヒ條件ニ從フ
 然レトモ前賃借ヲ擔保シタル抵當ハ消滅シ保證人ハ義務ヲ免カル
 新賃借ハ下ノ數條ニ記載シタル如ク解約申入ニ因リテ終了ス

第四百四十八條 家具ノ附キタル建物ノ全部又ハ一分ノ賃借ニシテ其期間ヲ明示セ
 ス其賃借チ一年、二月又ハ一日ヲ以テ定メタルモノハ一年、一月又ハ一日ノ間賃借
 借ヲ爲シタリト推定ス但前條ニ記載シタル黙示ノ更新ヲ妨ケス
 動産ノミチ以テ目的ト爲シタル賃借ニ付テモ亦同シ

第四百四十九條 家具ノ附カサル建物ノ賃借ハ期間ヲ定メサルトキ又ハ之ヲ定メタ
 ルモ黙示ノ更新アリタルトキハ何時ニテモ當事者ノ一方ノ解約申入ニ因リテ終了
 ス
 解約申入ヨリ返却マテノ時間ハ左ノ如シ

第一 建物ノ全部ニ付テハ二个月但賃借人ノ造作ヲ附シタルトキハ二个月
 第二 建物ノ一分ニ付テハ一个月但賃借人ノ造作ヲ附シタルトキハ二个月
 第四百五十條 家具ノ附キタル建物ノ賃借ニ付キ黙示ノ更新アリタルトキハ解約
 申入ヨリ返却マテノ時間ハ左ノ如シ

第一 前賃借ノ期間チ三個月又ハ其以上ニ定メタルトキハ一个月
 第二 三個月未滿ノ賃借ニ付テハ原期間ノ三分一
 第三 日日ノ賃借ニ付テハ二十四時
 右規定ハ黙示ノ更新後ノ動産ノ賃借ニ付テモ亦之ヲ適用ス
 賃借セシ建物ニ備ヘタル動産又ハ用方ニ因ル不動産ト看做ス可キ動産ノ賃借ハ
 其建物ノ賃借ノ終了スルニ非サレハ終了セス

第四百五十一條 土地ノ賃借ニシテ期間ヲ定メサルモノ又ハ期間ヲ定メタルモ黙示
 ノ更新アリタルモノハ耕地ニ付テハ主タル收穫季節ヨリ六個月前又ハ不耕地其他牧
 場、樹林ニ付テハ返却セシム可キ時期ヨリ一个年前ニ解約申入ヲ爲スニ因リテ終
 了ス

第四百五十二條 解約申入及ヒ返却ノ時期ニ關スル前數條ノ規定ハ其時期ニ付キ地方
 ノ慣習ナキトキニ非サレハ之ヲ適用セス
 第四百五十三條 如何ナル場合ニ於テモ賃借人ノ權利ノ存スル一切ノ收穫物ヲ收去ス
 ル前ニ賃借ノ終了セシトキハ賃借人又ハ新賃借人ハ前賃借人ノ之ヲ收去スルニ
 委ヌルコトヲ要ス

又賃借人ハ土地ノ收穫物ヲ收去シタル部分ニ於テ賃借ノ終了前ニ急要ノ作業ヲ
 爲スコトヲ賃借人又ハ新賃借人ニ許スコトヲ要ス但賃借人此カ爲メ妨害ヲ受ク可

キトキハ此限ニ在ラス

第五百十四條 賃貸人カ賃貸物ヲ讓渡サントシ又ハ自己ノ爲メ若クハ他ノ特別ナル原因ノ爲メ之ヲ取戻サントスルトキハ期間ノ滿了前ト雖モ賃貸借ヲ解除スルコトヲ得ル權能ヲ留保シタル場合又賃借人カ賃貸借ノ無用ト爲ル可キ未定事故ヲ慮カリテ同一ノ權能ヲ留保シタル場合ニ於テハ前數條ニ定メタル時期ニ於テ各自豫メ解約申入ヲ爲スコトヲ要ス

第二節 永借權及ヒ地上權

第一款 永借權

第五百十五條 永貸借トハ期間三十個年ヲ超ユル不動産ノ賃貸借ヲ謂フ

永貸借ハ五十個年ヲ超ユルコトヲ得ス此期間ヲ超ユル賃借ハ之ヲ五十個年ニ短縮ス

永貸借ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ其更新ノ時ヨリ五十個年ヲ超ユルコトヲ得ス

當事者カ永貸借契約ナルコトヲ明示シ其期間ヲ定メサルトキハ其貸借ハ四十個年ニシテ終了ス

本法實施以前ニ期間ヲ定メテ爲シタル不動産ノ賃貸借ハ五十個年ヲ超ユルモノト雖モ其全期間有効ナリ

本法實施以前ニ期間ヲ定メスシテ爲シタル荒蕪地又ハ未耕地ノ賃貸借及ヒ永小作ト稱スル賃貸借ノ終了ノ時期及ヒ條件ハ日後特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第五百十六條 永貸借ハ永貸借契約ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス其遺贈又ハ豫約ニ付テハ第一百十七條ノ規定ニ從フ

第五百十七條 當事者相互ノ權利及ヒ義務ハ永貸借ノ設定契約ヲ以テ之ヲ定ム特別ノ合意ナキトキハ下ノ規定ニ從フ外通常賃貸借ノ規則ニ從フ

第五百十八條 永借人ハ永借地ノ形質ヲ變スルコトヲ得但永久ノ毀損ヲ生セシメサルコトヲ要ス

永借人ハ常ニ沼澤ヲ乾涸スルコトヲ得又永借地ノ作業ニ益ス可キトキハ其土地ヲ通過スル水流ヲ變轉スルコトヲ得

第五百十九條 永借人ハ原野ヲ開墾スルコトヲ得然レトモ所有者ノ承諾アルニ非サレハ定期採伐ニ供シタル小木林ノ樹木ヲ掘取ルコトヲ得又定期採伐ニ供セサル樹木ニシテ既ニ二十個年ヲ過キ且其成長ノ年期カ賃借ノ期間ヲ超ユ可キモノヲ採伐スルコトヲ得ス

第六十條 永借人ハ如何ナル場合ニ於テモ所有者ノ承諾アルニ非サレハ主タル建物ヲ取除クコトヲ得ス從タル建物ト雖モ其存立ノ時期カ賃借ノ期間ヲ超ユ可キモノハ亦同シ

第六十一條 前二條ニ從ヒ永借人カ建物又ハ樹木ヲ取除キタルトキハ其物料及ヒ材木ハ所有者ニ屬ス

第六十二條 永借人ハ地底ニ鑛物在ルトキ開坑ノ特許ヲ得タル者ヨリ所有者ニ拂ヘル償金ニ付キ何等ノ權利ヲ有セス然レトモ此特許ヲ得タル者ノ地上ニ加ヘタル損害ノ爲メ賠償ヲ受クル權利ヲ有ス

第六十三條 永借地ニ既ニ採掘ヲ始メ且特別法ニ從フヲ要セサル石類、石灰類其他ノ物ノ石坑アルトキハ永借人ハ其收益ヲ繼續ス
右石坑ヲ未ダ採掘セス又ハ其採掘ヲ廢止シタルトキハ永借人ハ永借地ノ改良

ノ石其他ノ物料ヲ採取スルコトヲ得

第六十四條 永貸人ハ永貸借契約ノ當時ノ現狀ニテ永貸物ヲ引渡スモノトス

永貸人ハ貸借ノ期間大小修繕ヲ負擔セス

第六十五條 意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ貸借ノ期間ニ起リタル毀損ハ借貸減

少ノ理由ト爲ラス但第六十九條ニ定メタル解除ノ權利ヲ妨ケス

第六十六條 永貸人ニ對シ永借物ニ賦課セラルル通常又ハ非常ノ租稅其他ノ公課

ハ永借人之ヲ永貸人ニ辨濟ス

第六十七條 數人カ一箇ノ契約ヲ以テ一箇ノ不動産ヲ永借シタルトキハ借貸ヲ拂

フ義務ハ各永借人又ハ其相續人ニ在テハ連帶ニシテ且不可分ナリ

第六十八條 永借人カ第六十六條ノ辨濟ヲ爲サス又ハ三箇年間引續キ借貸ノ拂

入ヲ爲ササルトキハ永貸人ハ永貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

又永借人カ他ノ債權者ノ訴追ニ因リテ破産又ハ無資力ノ宣告ヲ受ケタルトキハ永

貸人ハ辨濟ノ如何ナル不足ニ拘ハラズ解除ヲ請求スルコトヲ得但其債權者カ借貸

ヲ延滞ナク拂入ルルコトヲ擔保スルトキハ此限ニ在ラス

第六十九條 永借人ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ三箇年間引續キ全ク不動産

ノ收益ヲ得ル能ハス又ハ其一分ノ毀損ニ因リテ將來ノ收益カ借貸ノ年額ヲ超ユ可

キ見込ナキトキハ永貸借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第七十條 永借人カ永借地ニ加ヘタル改良及ヒ栽植シタル樹木ハ永貸借ノ満期

又ハ其解除ニ當リ賠償ナクシテ之ヲ殘置クモノトス

建物ニ付テハ通常貸借ニ關スル第四百四十四條ノ規定ヲ適用ス

第二款 地上權

第七十一條 地上權トハ他人ノ所有ニ屬スル土地ノ上ニ於テ建物又ハ竹木ヲ完全

ノ所有權ヲ以テ占有スル權利ヲ謂フ

第七十二條 地上權設定ノ時其土地ニ建物又ハ樹木ノ既ニ存スルト否トヲ問ハス

設定行爲ノ基本、方式及ヒ公示ハ不動産讓渡ノ一般ノ規則ニ從フ

第七十三條 地上權者カ讓受ケタル建物又ハ樹木ノ存スル土地ノ面積ニ應シテ土

地ノ所有者ニ定期ノ納額ヲ拂フ可キトキハ其權利及ヒ義務ハ其拂フ可キ納額ニ付

テハ通常貸借ニ關スル規則ニ從ヒ其繼續スル期間ニ付テハ第七十六條ノ規定

ニ從フ

右納額ニ付テハ新ニ建物ヲ築造シ又ハ樹木ヲ栽植スル爲メ土地ヲ賃借シタルトキ

モ亦同シ

第七十四條 既ニ存セル建物又ハ樹木ニ於ケル地上權ノ設定ニ際シ從トシテ之ニ

屬ス可キ周邊ノ地面ヲ明示セサルトキハ左ニ掲グル規定ニ從フ

建物ニ付テハ地上權者ハ其建坪ノ全面積ニ同シキ地面ヲ得ルノ權利ヲ有ス此配置

ハ鑑定人ヲシテ土地及ヒ建物ノ周圍ノ形狀ト建物ノ各部ノ用方トヲ斟酌セシメテ

之ヲ爲ス

樹木ニ付テハ地上權者ハ其最長大ナル外部ノ枝ノ蔭蔽ス可キ地面ヲ得ル權利ヲ有

有ス

第七十五條 地上權設定後ニ築造シタル建物又ハ栽植シタル樹木ニ付テハ地上權

者ハ此種ノ作業ノ爲メ法律ヲ以テ相隣者ノ爲メニ規定シタル距離及ヒ條件ヲ遵守

ス可シ縱令其隣人カ地上權ノ設定者ナルモ亦同シ

又地上權者ハ働方又ハ受方ニテ其他ノ地役ノ規則ニ從フ

第七十六條 既ニ存セル建物又ハ地上權者ノ築造ス可キ建物ニ付キ設定權原ヲ以テ地上權ノ繼續期間ヲ定メサルトキハ此建物存立ノ時期間其權利ヲ設定シタルモノト推定ス但其大修繕ハ土地ノ所有者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス既ニ存セル樹木又ハ地上權者ノ栽植ス可キ樹木ニ付テハ其地上權ハ樹木ヲ採伐スル時期マテ又ハ其有用ナル最長大ニ至ル可キ時期マテ之ヲ設定シタリト推定ス此他地上權ハ通常賃借權ト同一ノ原因ニ由リテ消滅ス但所有者ノ爲ス解約申入ハ此限ニ在ラス

地上權者ハ一个年前ニ豫告ヲ爲シ又ハ未タ拂期限ノ至ラサル納額ノ一个年分ヲ拂フトキハ常ニ解約申入ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 建物又ハ樹木ノ契約前ヨリ存スルト否トヲ問ハス地上權者之ヲ賣ラントスルトキハ土地ノ所有者ニ先買權ヲ行フヤ否ヤヲ述フ可キノ催告ヲ一个月前ニ爲スコトヲ要ス

右先買權ニ付テハ其他尙ホ第七十條ノ規定ニ從フ

第七十八條 本法實施ノ時ニ存スル地上權ハ左ノ規定ニ從フ

期限ヲ立テテ設定シタル地上權ハ其期限ニ至リ當然消滅ス

期限ヲ立テスシテ設定シタル地上權ハ第七十六條ニ從ヒテ建物存立ノ時期間繼續ス

右兩様ノ地上權ハ共ニ前條ニ規定シタル先買權ニ服ス

第四章 占有

第一節 占有ノ種類及ヒ占有スルコトヲ得ヘキ物

第七十九條 占有ニ法定、自然及ヒ容假ノ三種アリ

第八十條 法定ノ占有トハ占有者カ自己ノ爲メニ有スルノ意思ヲ以テスル有體物ノ所持又ハ權利ノ行使ヲ謂フ

權利ハ物權ト人權トヲ問ハス法定ノ占有ヲ受クルコトヲ得其種種ノ効力ハ場合ニ從ヒ下ニ之ヲ定ム

第八十一條 法定ノ占有カ占有ノ權利ヲ授付ス可キ性質アル權利行爲ニ基クトキハ讓渡人ニ授付ノ分限ナキヲ以テ其効力ヲ生スル能ハサルトキト雖モ其占有ハ正權原ノ占有ナリ

占有カ侵奪ニ因リテ成リタルトキハ其占有ハ無權原ノ占有ナリ

第八十二條 正權原ノ占有ハ權原創設ノ當時ニ於テ占有者カ其權原ノ瑕疵ヲ知ラザリシトキハ之ヲ善意ノ占有トシ此ニ反スルトキハ惡意ノ占有トス

法律ノ錯誤ハ善意ニ付テノ利益ヲ受クル爲メニ之ヲ申立ツルコトヲ許サス但第九十四條ノ規定ヲ妨ケス

善意タルコトハ權原ノ瑕疵ヲ覺知シタルトキハ止ム

第八十三條 強暴又ハ隱密ノ占有ハ之ヲ瑕疵ノ占有トス

占有カ暴行又ハ脅迫ニ因リテ成リ又ハ保持セラレタルトキハ其占有ハ強暴ノ占有ナリ

占有カ公然且外見ノ所爲ニ因リテ當事者ニ容易ニ見ハレサルトキハ其占有ハ隱密ノ占有ナリ

右占有カ平穩ト爲リ又ハ公然ト爲リタルトキハ其瑕疵ハ消滅ス

第八十四條 自然ノ占有トハ占有者カ自己ノ權利ヲ主張スル意ナクシテ有體物ヲ所持スルヲ謂フ

公有物ニ付テハ各人ハ自然ノ占有ノ外占有ヲ爲スコトヲ得ス

第百八十五條 容假ノ占有トハ占有者カ他人ノ爲メニ其他人ノ名ヲ以テスル物ノ所持又ハ權利ノ行使ヲ謂フ
容假ノ占有者カ自己ノ爲メニ占有ヲ始メタルトキハ其占有ノ容假ハ止ミテ法定ト爲ル

然レトモ占有ノ權原ノ性質ヨリ生スル容假ハ左ニ掲ケル場合ニ非サレハ止マズ

第一 占有ヲ爲サシメタル人ニ告知シタル裁判上又ハ裁判外ノ行爲カ其人ノ權利ニ對シ明確ノ異議ヲ含メルトキ

第二 占有ヲ爲サシメタル人又ハ第三者ニ出テタル權原ノ轉換ニシテ其占有ニ新原因ヲ付スルトキ

第百八十六條 占有者ハ常ニ自己ノ爲メニ占有スルモノトノ推定ヲ受ク但占有ノ權原又ハ事情ニ因リテ容假ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第百八十七條 正權原ノ證據アル占有ハ之ヲ善意ノ占有ナリト推定ス但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第百八十八條 強暴ノ證據ナキ占有ハ之ヲ平穩ノ占有ト推定ス
占有ノ公然ハ之ヲ推定セス必ス之ヲ證スルコトヲ要ス

前後二箇ノ時期ニ於テ證據アリタル占有ハ其中間繼續シタリトノ推定ヲ受ク但其占有ノ中斷又ハ停止ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第二節 占有ノ取得

第百八十九條 法定ノ占有ハ或ル物ノ所有權又ハ或ル權利ヲ自己ノ有ト爲ス意思ヲ以テ其物ヲ握取スル所爲ニ因リ又ハ其權利ヲ實行スルニ因リ之ヲ取得ス

第百九十條 物ノ所持又ハ權利ノ行使ハ之ヲ第三者ノ所爲ニ委メルコトヲ得但占有スルノ意思ハ占有ニ付キ利益ヲ得ント主張スル其人ニ存スルコトヲ要ス

然レトモ無能力者及ヒ法人ハ其代人ノ意思及ヒ所爲ニ因リテ占有ノ利益ヲ受クルコトヲ得

第百九十一條 物ノ握取ハ簡易ノ引渡又ハ占有ノ改定ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
初メ容假ノ權原ヲ以テ占有シタル物ヲ其占有者ニ爾後自己ノ物ト看做スコトヲ得
セシムル新權原ニ依リテ之ヲ保存セシメタルトキハ簡易ノ引渡アリタリトス

初メ物ヲ自己ニ屬ストシテ占有シタル者カ爾後他人ノ名ヲ以テ其他人ノ爲メ占有ヲ繼續スルコトヲ承諾シタルトキハ占有ノ改定アリトス

權利ノ行使ニ付テハ初メ他人ノ名ヲ以テ行使セル者カ爾後自己ノ爲メニ行使スルニモ亦當事者ノ意思ノミニテ足ル又初メ自己ノ爲メ行使セル者カ爾後他人ノ爲メ行使スルニ付テモ亦同シ

第百九十二條 占有ハ前主ニ於テ存シタル占有ノ性質及ヒ瑕疵ヲ以テ相續人其他包括權原ノ承繼人ニ移轉ス

物又ハ權利ノ特定權原ノ取得者ハ其利益ニ從ヒ或ハ自己ノ占有ノミヲ申立テ或ハ自己ノ占有ニ讓渡人ノ占有ヲ併セテ申立ツルコトヲ得

第三節 占有ノ効力

第百九十三條 法定ノ占有者ハ反對ノ證據アルニ非サレハ其行使セル權利ヲ適法ニ有スルモノトノ推定ヲ受ク其權利ニ關スル本權ノ訴ニ付テハ常ニ被告タルモノトス

第百九十四條 正權原且善意ノ占有者ハ天然ノ果實及ヒ產出物ニ付テハ自身又ハ代

人ヲ以テ土地ヨリ離シタル時ニ於テ之ヲ取得シ法定ノ果實ニ付テハ利益者ニ關シ
規定シタル如ク日割ヲ以テ之ヲ取得ス

占有者カ正權原ヲ有セスシテ事實又ハ法律ノ錯誤ニ因リテ惡意ナキトキハ其消費
シタル果實ニ付キ利益ヲ得サリシ證據ヲ舉グルニ於テハ之ヲ返還スル責ニ任セス
占有者カ其占有セシ物又ハ權利ノ自己ニ屬セサルコトヲ覺知シタルトキハ將來ニ
向ヒテ果實返還ノ責ヲ生ス又訴訟ニ於テ確定ニ敗訴シタルトキハ其出訴ノ時ヨリ
此責ヲ生ス

第九十五條 惡意ノ占有者ハ回復ノ請求ヲ受ケタル物又ハ權利ハ勿論現物ニテ仍
ホ占有スル果實及ヒ產出物ヲ返還シ且其既ニ消費シ又ハ過失ニ因リテ損傷シ又ハ
收取ヲ怠リタル果實及ヒ產出物ノ代價ヲ償還スル責ニ任ス
回復者ハ果實ノ通常ノ負擔タル費用ヲ占有者ニ償還スルコトヲ要ス
強暴又ハ隱密ノ占有者ハ其權原ノ正當ナルコトヲ自ラ信セシトキト雖モ果實ニ關
シテ常ニ之ヲ惡意ノ占有者ト看做ス

第九十六條 占有者ハ善意ナルト惡意ナルトヲ問ハス物ノ保存ノ爲メ又ハ物ノ増
價ノ爲メ費シタル金額ヲ回復者ヨリ償還セシムルコトヲ得
右孰レノ占有者モ其分限ノミニテハ奢靡ノ爲メ費シタル金額ノ償還ヲ求ムルコト
ヲ得ス

第九十七條 前二條ノ場合ニ於テ善意ノ占有者ハ回復者ノ言渡サレタル保存又ハ
増價ノ爲メノ費用ノ全價ヲ得ルマテ物ノ上ニ留置權ヲ有ス
惡意ノ占有者ハ保存ノミニノ費用ニ付キ留置權ヲ有ス

第九十八條 物ヲ毀損ヲ受ケ又ハ價格ヲ減シ其責ヲ占有者ニ歸ス可キトキハ惡意
ノ占有者ニ在テハ如何ナル場合ニ於テモ所有者ニ賠償ヲ爲シ善意ノ占有者ニ在テ
ハ其毀損又ハ減價ニ因リ己レヲ利シタル場合ニ於テ其利シタル限度ニ應シ賠償ヲ
爲スコトヲ要ス

第九十九條 占有者ハ占有ヲ保持シ又ハ回收スル爲メ下ノ區別ニ從ヒテ占有ニ關
スル訴權ヲ有ス

占有訴權ハ保持訴權、新工告發訴權、急害告發訴權及ヒ回收訴權ノ四種ナリ

第二百條 保持訴權ハ不動產ト包括動產ト特定動產トヲ問ハス其占有ニ關シ他人
ヨリ反對ノ主張ヲ含メル事實上又ハ權利上ノ妨害ヲ受クル占有者ニ屬ス
此訴權ハ妨害ヲ止マシメ又ハ賠償ヲ得ルヲ以テ其目的トス

第二百一條 新工告發訴權ハ占有ノ妨害ト爲ル可キ隣地ノ新工事ヲ廢止セシメ又ハ
變更セシムル爲メ不動產ノ占有者ニ屬ス

第二百二條 急害告發訴權ハ或ハ建物、樹木其他ノ物ノ傾倒ニ因リ或ハ土手、水溜、
水樋ノ破潰ニ因リ或ハ火、燃燒物、爆發物ノ必要ノ豫防ヲ爲ササル使用ニ因リテ隣
地ヨリ生スル損害ヲ懼ル可キ至當ノ事由アル不動產ノ占有者ニ屬ス
此訴權ハ右危險ニ對スル豫防ノ處分ヲ命令セシメ又ハ未定ノ損害ニ對スル賠償ノ
保證人ヲ立テシムルヲ以テ其目的トス

第二百三條 保持訴權及ヒ新工告發訴權ハ平穩且公然ナル法定ノ占有者ノミニ屬ス
但不動產又ハ包括動產ニ付テハ其占有ノ滿一箇年以來繼續シタルコトヲ要ス

第二百四條 回收訴權ハ暴行、脅迫又ハ詐術ヲ以テ不動產若クハ包括動產若クハ特
定動產ノ全部又ハ一分ノ占有ヲ奪ハレタル占有者ニ屬ス但占有者カ被告ニ對シテ
此等ノ瑕疵ノ一ヲモ帶ヒサルコトヲ要ス

此訴權ハ侵奪ノ占有ヲ特定權原ニテ承繼シタル者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス但
其者カ侵奪ノ不法ノ所爲ニ關與シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百五條 回收訴權及ヒ急害告發訴權ハ法定ノ占有者及ヒ容假ノ占有者ニ屬ス縱
令其占有カ未タ一个年ニ滿タサルモ亦同シ

第二百六條 保持及ヒ回收ノ訴ハ妨害又ハ侵奪ヲ受ケタルヨリ一个年内ニ非サレハ
之ヲ受理セス

新工告發ノ訴ハ其工事ノ竣成セサル間ハ之ヲ受理ス但其工事ニ付キ占有者カ妨害
ヲ受ケタルトキハ其工事竣成ノ前後ニ拘ハラヌ妨害ヨリ一个年内ニ於テ保持訴權
ノミヲ行フコトヲ得

急害告發ノ訴ハ危險ノ存スル間ハ之ヲ受理ス

第二百七條 占有ノ訴ハ本權ノ訴ト併行スルコトヲ得ス
判事ハ當事者ノ權利ノ基本ヨリ出テタル理由ニシテ其權利ヲ豫決ス可キモノニ基
キテ占有ノ訴ヲ裁判スルコトヲ得

又判事ハ本權ノ訴カ既ニ審理中ニ在ルモ占有ノ訴ノ判決ヲ猶豫スルコトヲ得ス

第二百八條 占有ノ訴ヲ起シタル後當事者ノ一方カ其裁判所又ハ他ノ裁判所ニ本權
ノ訴ヲ起シタルトキハ占有ノ訴ノ確定判決ニ至ルマテ本權ノ訴ノ訴訟手續ヲ中止
スルコトヲ要ス

本權ノ訴ノ被告カ第二百十條ニ定メタル如ク其訴訟中ニ占有ノ訴ノ原告ト爲リタ
ルトキモ亦同シ

第二百九條 本權ノ訴ノ原告ハ訴ヲ取下クルト雖モ其訴以前ノ事實ノ爲メニ更ニ占
有ノ訴ヲ起スコトヲ得ス然レトモ既ニ起シタル占有ノ訴ニ付テハ原告タルト被告

タルトヲ問ハス之ヲ繼續スルコトヲ得

本權ノ訴ニ於テ確定ニ敗訴シタル者ハ占有ノ訴ヲ起スコトヲ得ス

第二百十條 本權又ハ占有ノ訴ノ被告ハ其訴訟中反訴ニテ占有ノ訴ノ原告ト爲ルコ
トヲ得

第二百十一條 判事ハ占有ノ訴ヲ正當ナリト認ムルトキハ場合ニ從ヒ妨害ノ絶止、
侵奪物ノ返還、新工事ノ廢止若クハ變更又ハ急害ノ豫防處分ヲ命令ス可ク若シ損
害アラハ同時ニ其賠償ヲ言渡ス可シ

又判事ハ急害告發ノ訴ニ付テハ其將來未定ノ損害額ヲ斷定シ之ニ對スル保證人ヲ
立ツ可キコトヲ被告ニ命令スルコトヲ得

第二百十二條 占有ノ訴ニ於テ敗訴シタル原告ハ仍ホ本權ノ訴ヲ起スコトヲ得
占有ノ訴ニ於テ敗訴シタル被告モ亦仍ホ本權ノ訴ヲ起スコトヲ得但既ニ受ケタル
言渡ヲ履行セシ後ニ限ル若シ言渡ノ金額カ未定ナルトキハ其言渡ヲ履行スルニ相
應ナル金額ヲ裁判所書記課ニ供託ス可シ

第四節 占有ノ喪失

第二百十三條 占有ハ左ノ諸件ニ因リテ喪失ス

第一 自己又ハ他人ノ爲メニ占有スル意思ノ絶止

第二 物ノ所持又ハ權利ノ行使ノ任ノ拋棄又ハ法律上強要セラレタル拋棄

第三 不法ト否トヲ問ハス他人ノ占有ノ握取但其占有カ保持訴權又ハ回收訴權
ノ行使ヲ受ケルコト無クシテ一个年ヨリ長ク繼續シタルトキニ限ル

第四 占有ノ目的タル物ノ全部ノ毀滅又ハ其權利ノ消滅

第五章 地役

總則

第二百十四條 地役トハ或ル不動産ノ便益ノ爲メ他ノ所有者ニ屬スル不動産ノ上ニ設ケタル負擔ヲ謂フ

地役ハ法律又ハ人爲ヲ以テ之ヲ設定ス

第一節 法律ヲ以テ設定シタル地役

第一款 隣地ノ立入又ハ通行ノ權利

第二百五十五條 凡ソ所有者ハ土地ノ分界ニ於テ又ハ自己ノ土地ニ工事ヲ爲シ得ル餘地ナキ距離ニ於テ牆壁若クハ建物ヲ築造シ又ハ修繕スル爲メ隣地ニ立入ルヲ求ムルコトヲ得

第二百十六條 築造又ハ修繕ノ工事ハ收穫ヲ害ス可キ季節ニ於テモ隣地ノ所有者又ハ占有者ノ一時不在ノ場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ス但急要又ハ極メテ必要ノ場合ハ此限ニ在ラス

如何ナル場合ニ於テモ隣人ノ承諾アルニ非サレハ右工事ノ爲メ其住家ニ立入ルコトヲ得ス縱令其修繕ヲ要スル建物カ隣人ノ住家ニ連接スルモ亦同シ

第二百十七條 立入ヲ許諾セル隣人ハ工事ノ性質及ヒ時期ヲ酌量シテ其受ケタル妨害ニ相應スル償金ヲ求ムルコトヲ得

第二百十八條 或ル土地カ他ノ土地ニ圍繞セラレテ袋地ト爲リ公路ニ通スル能ハサルトキハ圍繞地ハ公路ニ至ル通路ヲ其袋地ニ供スルコトヲ要ス但下ニ記載シタル如ク二様ノ償金ヲ拂ハシムルコトヲ得

土地カ掘割若クハ河海ニ由ルニ非サレハ他ニ通スル能ハサルトキ又ハ崖岸アリテ公路ト著シキ高低ヲ爲ストキハ之ヲ袋地ト看做スコトヲ得

第二百十九條 袋地ノ利用又ハ其住居人ノ需用ノ爲メ定期又ハ不斷ニ車輛ヲ用ユルコトヲ要スルトキハ通路ノ幅ハ其用ニ相應スルコトヲ要ス

通行ノ必要又ハ其方法及ヒ條件ニ付キ當事者ノ議協ハサルトキハ裁判所ハ成ル可ク袋地ノ需用及ヒ通行ノ便利ト承役地ノ損害トヲ斟酌スルコトヲ要ス

第二百二十條 通路ノ開設及ヒ保持ノ工事ハ袋地ノ負擔ニ屬ス

承役地ノ建物又ハ樹木ヲ取除キ又ハ變更セシムルノ必要アルトキハ一回限ノ償金ヲ其所有者ニ辨償ス

此他承役地ノ使用又ハ耕作ヲ減シ及ヒ永ク其地ノ價格ヲ減スルニ付テノ償金ハ毎年之ヲ辨償ス

第二百二十一條 袋地タルコトノ止ミタルトキハ通行ノ權利及ヒ毎年ノ償金ノ義務ハ從ヒテ消滅ス

要役地ノ所有者ハ未タ拂期限ノ至ラサル償金ノ六個月分ヲ拂ヒテ常ニ通行ノ權利ヲ拋棄シ及ヒ之ニ對スル義務ヲ免カルコトヲ得

第二百二十二條 當事者ハ通行ヨリ生スル永久ノ損害ノ賠償又ハ毎年ノ償金ノ買戻ヲ隨意ニ元本ニテ定ムルコトヲ得

孰レノ場合ニ於テモ袋地ノ止ミシトキハ右元本ハ之ヲ全ク返還スルモノトス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第二百二十三條 土地ノ一分ノ讓渡又ハ共有者間ノ分割ニ因リテ袋地ノ生シタルトキハ讓渡人又ハ分割者ハ償金ヲ受クルコト無クシテ通路ヲ供スルノ義務ヲ負擔ス

此義務ハ公路ノ創設ニ因リテ袋地タルコトノ止ミシトキハ消滅ス

第二款 水ノ疏通、使用及ヒ引入

第二百二十四條 低地ノ所有者ハ人工ニ由ラスシテ自然ニ高地ヨリ流下スル雨水及

ヒ泉水ヲ承クル義務アリ

人工ヲ以テ水ノ疏通路ヲ創設シ又ハ變更セシト雖モ其工事力三十ヶ年前ニ在ルカ又ハ年月ヲ知ル可カラサルトキハ亦同シ

第二百二十五條 土手其他水ヲ湛フル工作物ノ破潰ニ因リ又ハ水樋、堀割ノ阻塞ニ因リ高地ノ水量ヲ増シテ衝激ヲ致シ又ハ方向ヲ變セントスルトキハ高地ノ所有者ハ第二百二條及ヒ第二百一十一條ニ從ヒテ急害ノ告發ヲ爲シ且高地ノ所有者ノ費用ヲ以テ其修繕ヲ爲スコトヲ得

事變ニ因リ低地ニ於テ水流ノ阻塞シタルトキハ高地ノ所有者ハ平常ノ疏通ニ復スル爲メ自費ヲ以テ必要ノ工事ヲ爲ス權利ヲ有ス然レトモ其義務ヲ負擔セス

第二百二十六條 所有者ハ雨水ノ直チニ隣地ニ落ツル如キ屋根其他ノ工作物ヲ設クルコトヲ得ス

第二百二十七條 泉源ノ所有者ハ隨意ニ之ヲ使用シ且自然ニ隣地ニ流ル可キ餘水ヲ隣人ニ與ヘサルコトヲ得但次條及ヒ第二百七十六條ノ規定其他鑿泉ノ利用、收益ニ關スル行政法ノ規定ヲ妨ケス

第二百二十八條 泉源ノ水カ一町村又ハ一部落ノ住民ノ家用ニ必要ナルトキハ所有者ハ其水ノ不用ノ部分ヲ流下セシムル責ニ任ス

又町村ハ自費ヲ以テ水ノ聚合及ヒ引入ニ必要ナル工事ヲ泉源ノ土地ニ施スコトヲ得但其工事ノ爲メ償金ヲ拂ヒ且其土地ニ永久ノ損害ヲ生セシメサルコトヲ要ス此他町村ハ水ノ使用ノ爲メ償金ヲ拂フコトヲ要ス但三十ヶ年間無償ニテ使用ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百二十九條 溝渠、水流、堀割又ハ池沼ノ沿岸者ニシテ其床地ヲ所有スル者ハ家

用及ヒ農工業用ニ其水ヲ使用スルコトヲ得然レトモ其水路及ヒ幅員ヲ變スルコトヲ得ス

同上ノ流水ノ通過スル土地ノ所有者ハ右ト同一ノ需用ノ爲メ其地内ニ於テ水路ヲ變轉スルコトヲ得然レトモ其水ノ出口ニ於テハ之ヲ自然ノ水路ニ復スルコトヲ要ス

右孰レノ場合ニ於テモ沿岸者ハ地方ノ規則ニ從ヒテ捕漁ノ權利ヲ有ス

沿岸者ハ對岸者ニ損害ヲ及ホス可キトキハ己レノ方ニ於テ水除ヲ築クコトヲ得ス

第二百三十條 前條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ其水ヲ利用ス可キ沿岸者又ハ低地ノ所有者ヨリ爭ヲ起シタルトキハ裁判所ハ地方ノ慣習ト衛生ノ需用ト農工業ノ利益トヲ斟酌シテ之ヲ決ス

第二百三十一條 右流水ニ關スル取締ハ地方廳ニ屬ス地方廳ハ其流水ノ疏通、保持及ヒ魚類ノ保育ニ付キ必要ノ處分ヲ令スルコトヲ得

第二百三十二條 一般又ハ一地方ノ公有又ハ私有ニ屬スル水ノ使用及ヒ取締ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二百三十三條 自己ノ土地外ニ在ル天然又ハ人工ノ水ヲ用ユル權利ヲ有スル所有者ハ家用又ハ農工業用ノ爲メ償金ヲ拂ヒ其水ノ通過ヲ中間ノ土地ニ要求スルコトヲ得

第二百三十四條 低地ノ所有者ハ浸水地ヲ乾カスニ因リ出水ノ疏通ノ爲メ及ヒ家用又ハ農工業用ノ餘水ノ排泄ノ爲メ公路、公流又ハ下水道ニ至ルマテ其通路ヲ供スル責ニ任ス

家用又ハ農工業用ノ爲メニ變質シタル水ノ通過ハ地下ニ於ケルニ非サレハ之ヲ要

求スルコトヲ得ス

第二百三十五條 水ノ通路ハ成ル可ク承役地ノ損害少ナキ場所ニ之ヲ設クルコトヲ要ス

如何ナル場合ニ於テモ建物ノ下ヲ經又ハ住家ニ連接シタル庭園ヲ經テ水ノ通過ヲ要求スルコトヲ得ス

第二百三十六條 水ノ通路ニ必要ナル工作物ノ築造及ヒ保持ハ其工作物ニ付キ利益ヲ得ル所有者ノ費用ニテ之ヲ爲ス

第二百三十七條 承役地ノ所有者ハ其土地ニ存スル掘割ヲ要役地ニ出入スル水ノ全部又ハ一分ノ通路ニ供スルコトヲ要求スルヲ得但從來其掘割ヲ通過スル水カ要役地ニ供シタル水ヲ變スルノ性質ナラサルトキニ限ル

又承役地ノ所有者ハ其土地ニ要役地ノ所有者ノ爲シタル工作物ヲ右ト同一ノ條件ニ從ヒテ水ノ通過ノ爲メ使用セント請求スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ他人ノ爲シタル工作物ヲ使用スル者ハ自己ノ利益ノ割合ニ應シテ其築造及ヒ保持ノ費用ヲ分擔ス

第二百三十八條 第二百二十九條第一項ニ從ヒ流水ヲ使用スル權利ヲ有スル所有者ハ堰ヲ設ケテ水ヲ高ムルノ要用アルトキハ償金ヲ拂ヒテ其堰ヲ對岸ニ支持セシムルコトヲ得

同一ノ權利ヲ有スル對岸地ノ所有者ハ前條ニ記載シタル如ク費用ヲ分擔シテ右ノ堰ヲ使用スルコトヲ得

第三款 經界

第二百三十九條 凡ノ相隣者ハ地方ノ慣習ニ從ヒ樹石杭杙ノ如キ標示物ヲ以テ其邊

接シタル所有地ノ界限ヲ定メント互ニ強要スルコトヲ得

第二百四十條 經界訴訟ハ建物ニ付キ及ヒ土屏、垣、柵等ノ圍障アル土地ニ付テハ行ハレス分路又ハ公流ニテ隔テタル土地ニ付テモ亦同シ

第二百四十一條 經界訴訟ハ協議上又ハ裁判上ニテ界限ノ定マラサル間ハ時効ニ罹ルコト無シ

經界ノ訴ニ付キ被告カ原告ノ土地ノ全部又ハ一分ニ對シ取得時効又ハ一年以上ノ占有ヲ申立ツルトキハ原告ハ先ツ回復又ハ回收ノ訴ヲ爲スコトヲ要ス

第二百四十二條 經界ハ界限ノ確定セサルトキ又ハ爭論アルトキハ所有權ノ證書ニ記載シタル坪數及ヒ界限ニ從ヒテ之ヲ爲ス其證書ナキトキハ之ニ代フルニ足ル他ノ證據又ハ書類ニ依リテ之ヲ爲ス

所有權ニ付キ爭論アルトキハ先ツ其裁判ヲ受クルコトヲ要ス

第二百四十三條 當事者カ協議ヲ以テ界限ヲ定メタルトキハ其證書ヲ作ルコトヲ要ス此證書ハ坪數及ヒ界限ニ付キ確定權原ノ効ヲ有ス

當事者ノ議協ハサルトキハ判決ヲ以テ坪數及ヒ界限ヲ定メ其判決書ニ圖面ヲ添フ此圖面ニハ界標ヲ指示シ且各界標ノ距離及ヒ其近傍ノ移動ナキ目標ト名界標トノ距離ヲ記載ス

第二百四十四條 樹石杭杙ノ代價其設置ノ費用及ヒ證書竝ニ訴訟ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス然レトモ判決ニ因リテ不當ト爲リタル爭論ノミニ關スル訴訟費用ハ敗訴者之ヲ負擔ス

測量費用ハ當事者其土地ノ廣狹ニ應シテ之ヲ分擔ス

第四款 圍障

第二百四十五條 凡ノ所有者ハ適宜ノ材料ヲ用ニ適宜ノ高サニ於テ自己ノ不動產ノ圍障ヲ設クルコトヲ得但其不動產カ法律又ハ人爲ニテ隣人ノ立入又ハ通行ノ地役ニ服スルトキハ其地役ヲ行フ權能ヲ妨グルコトヲ得ス

第二百四十六條 二箇ノ住家又ハ農工業用建物ノ間ニ在ル中庭又ハ圍圍ノ土地カ各箇ノ所有者ニ分屬スルトキハ各自其隣人ニ分界圍障ノ分擔ヲ強要スルコトヲ得當事者ノ議協ハサルトキハ其圍障ハ板屏又ハ竹垣ノ類ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

其高サハ分界線ノ平面ヨリ少ナクトモ六尺タル可シ

第二百四十七條 圍障ノ設置、保持及ヒ修繕ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス

相隣者ノ一人ハ前條ニ定メタル材料ヨリ良好ナル他ノ材料ヲ用ニ又ハ高サヲ増シテ圍障ヲ築造スルコトヲ得但築造費用ノ差額ヲ拂ヒ且保持及ヒ修繕ノ費用ノ全額ヲ負擔ス

第二百四十八條 相隣者ノ一人カ他ノ一人ヲ圍障分擔ノ遲滯ニ付セスシテ之ヲ築造シ又ハ修繕シタルトキハ其人ニ對シテ費用ノ分擔ヲ要求スルコトヲ得ス

第五款 互有

第二百四十九條 前款ニ定メタル義務ニ因リ又ハ任意且協議ニ因リ共擔ノ費用ヲ以テ土地ノ分界線上ニ築造シタル圍障ハ其性質ノ如何ヲ問ハス敷地ト共ニ相隣者ノ互有ニ屬ス

性質ノ如何ヲ問ハス相隣者ノ建物ノ隔壁及ヒ溝渠、生籬、柴垣ニシテ共擔ノ費用ヲ以テ土地ノ分界線上ニ設ケタルモノモ亦同シ

第二百五十條 凡ソ土地ノ圍障又ハ建物ノ隔壁ニシテ分界線上ニ在ルモノハ其性

質ノ如何ヲ問ハス共擔ノ費用ヲ以テ設ケタルモノトシテ之ヲ互有ト推定ス但或ハ證書ニ因リ或ハ證人ニ因リ或ハ三十年ノ時効ニ因リ或ハ下ニ示シタル非互有ノ目標ニ因リテ反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第二百五十一條 相隣者ノ一人ノ專屬權ヲ定ムル直接ノ證據又ハ時効ノ存セサルトキハ非互有ヲ推定ス可キ目標トナル可キモノハ左ノ如シ

第一 土造、石造、煉瓦造ノ牆壁ニ付テハ屋根ノ傾斜面又ハ小簷、圓孔其他ノ工作物又ハ粧飾物カ一方ノミニ存スルコト

第二 板屏、竹垣ニ付テハ其支柱カ一方ノミニ存スルコト

第三 溝渠ニ付テハ掘浚ノ泥土カ一方ノミニ存スルコト

第四 生籬、柴垣ニ付テハ一方ノ土地ノミニ四面ヲ圍マレタルコト

此四箇ノ場合ニ於テ專屬權ハ右目標ノ存スル一方又ハ土地ノ全ク圍マレタル一方ノ相隣者ニ屬ス

第二百五十二條 高サノ不同ナル二箇ノ建物ヲ隔ツル牆壁ニ付テハ其牆壁カ低キ建物ヲ踰ユル部分ニハ互有ノ推定ヲ適用セス

又牆壁カ一箇ノ建物ノミニ支持スルトキハ右ノ推定ハ如何ナル部分ニモ之ヲ適用セス

第二百五十三條 二箇ノ土地ヲ分界スル一箇ノ圍障其他ノ工作物ニ互有ノ目標ト非互有ノ目標トノ併存スルトキハ裁判所ハ事情ニ從ヒテ其所有權ノ共通ナルカ專屬ナルカヲ査定ス

第二百五十四條 互有界ノ保持及ヒ修繕ハ互有者平分シテ之ヲ負擔ス但其一人ノ所爲ヨリ毀損ノ生シタルトキハ此限ニ在ラス

然レトモ第二百四十六條ニ定メタル義務上ノ圍障ニ非サルトキハ互有者ノ各自ハ互有權ヲ拋棄シテ保持及ヒ修繕ノ負擔ヲ免カルコトヲ得但自己ノ建物ヲ支持スル牆壁ノ保持及ヒ修繕ニ關スルトキ又ハ自己ノ所爲ニ因リテ必要ト爲リタル修繕ノ費用ヲ拂フ可キトキハ此限ニ在ラス

第二百五十五條 相隣者ハ互有界ヲ其性質及ヒ用方ニ從ヒテ使用スルコトヲ得但其堅牢ヲ傷ハサルコトヲ要ス

相隣者ハ互有ノ牆壁ニ其厚サ四分ノ三ニ至ルマテ梁棟ヲ穿入シテ建物ヲ支持シ又ハ之ニ煖爐ヲ嵌入シ若クハ烟突、水管、瓦斯管其他家用、工業用ノ爲メ筒管ヲ通スルコトヲ得但其牆壁ノ性質及ヒ厚サカ此ニ耐フルトキニ限ル然レトモ互有者ハ其牆壁ニ罅孔ヲ鑿テ又室内用ノ爲メ些少ノ凹穴ヲモ鑿ツコトヲ得ス

互有者ハ互有ノ牆壁ノ高サヲ増スコトヲ得但其牆壁ノ堅牢此ニ耐フルトキ又ハ自費ニテ工事ヲ加ヘ若クハ改築ヲ爲シテ堅牢ナラシムルトキニ限ル此場合ニ於テ其高サヲ増シタル部分ハ互有ニ非ス

互有者ハ互有ノ溝渠ニ雨水又ハ家用、工業用ノ水ヲ注下スルコトヲ得
互有者ハ互有ノ生籬ヲ剪伐シタル樹枝ヲ平分シ又其生籬ニ存スル高木ノ伐除ヲ要求スルコトヲ得

第二百五十六條 相隣者ノ一人カ石又ハ煉瓦ニテ土地ノ圍障又ハ建物ノ牆壁ヲ分界線ニ接シ又ハ此ヨリ一尺ニ滿タサル距離ニ於テ築造シタルトキハ他ノ一人ハ現時ノ相場ニテ材料代及ヒ手間賃ノ半額ヲ償ヒテ常ニ其互有權ノ讓渡ヲ要求スルコトヲ得前條第三項ニ從ヒテ増築シタル牆壁ニ付テモ亦同シ
互有權ノ讓渡ヲ要求スル相隣者ハ圍障、牆壁ノ敷地及ヒ之ト分界線トノ間ノ地面

ニ付キ地上權ノミヲ要求スルコトヲ得此地上權ニ付テハ鑑定人ノ評定シタル定期ノ納額ヲ建物ノ存立間拂フ責ニ任ス

本條ニ依リ牆壁ノ互有權ヲ取得シタル者ハ前條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ使用スルコトヲ得然レトモ人爲上ノ觀望ノ地役トシテ其牆壁ニ設ケタル罅孔ヲ塞カシムルコトヲ得ス

石造、煉瓦造ニ非サル圍障、隔壁及ヒ籬柵、溝渠、土手ニ付テハ共擔ノ費用ヲ以テセ

第二百五十七條 所有者ハ石造、煉瓦造ニ非サル建物ヲ築造スルトキハ其建物ト土地ノ分界線トノ間ニハ其地方ノ慣習ニテ定マリタル尺度ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

此距離ヲ存セスシテ築造スルトキハ一方ノ相隣者ハ築造ノ間ハ第二百一條ニ從ヒテ新工告發ノ占有訴權ヲ行フコトヲ得

右築造竣成ノ後一方ノ相隣者カ建物ヲ築造セントシ其工事ノ爲メ自己ノ地上ニ於テ分界線ヨリ慣習ノ尺度ヲ超ユル距離ヲ要スルニ因リ建物ヲ其尺度外ニ退ケタルトキハ其餘分ニ退ケタル地面ニ應シ前築造者ニ對シテ償金ヲ要求スルコトヲ得

第六款 他人ノ所有地ニ對スル觀望及ヒ明取窓

第二百五十八條 二箇ノ土地ノ分界線ヨリ少ナクトモ三尺ノ距離アルニ非サレハ建物ニ窓又ハ縁側ヲ設ケテ他人ノ所有地ヲ直線ニ觀望スルコトヲ得ス

此距離ハ窓又ハ縁側ノ突出シタル部分ヨリ直線ニテ分界線ニ至ルマテヲ測算ス
第二百五十九條 右距離ノ制限ヲ遵守スルニ不便ナルトキハ目隠ヲ以テ窓ヲ蔽フコトヲ要ス但其目隠ハ分界線上ニ突出スルコトヲ得ス

目隠ヲ設クル能ハサルトキハ明取窓ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス此明取窓ハ其下部ヨリ床板マテ少ナクトモ六尺ト爲シ格子ヲ附著シ其格子目ハ一寸以内タルコトヲ要ス

此場合ニ於テ尙ホ隣地ノ所有者ハ目隠カ一尺以上分界線ヲ踰ユルヲ許シテ之ヲ設ケシムルコトヲ得

第二百六十條 觀望又ハ明取窓ニ關スル前二條ノ規定ハ建物ト對向スル隣地ノ建物ニ屬孔ナキトキハ之ヲ適用セス

第七款 或ル工作物ニ要スル距離

第二百六十一條 自己ノ土地ニ井戸、用水溜、下水溜又ハ糞尿坑ヲ穿タントスル所有者ハ分界線ヨリ少ナクトモ六尺ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス但土砂ノ崩壊又ハ水液ノ滲漏ヲ防グニ必要ナル工事ヲ爲ス可シ

乾燥シテ覆蓋アル地窖ニ付テハ右距離ヲ三尺ニ減ス

水路ニ供シタル石樋又ハ溝渠ニ付テハ右距離ハ少ナクトモ其深サノ半ニ同シキコトヲ要ス然レトモ三尺ヲ踰ユルコトヲ要セス

右溝渠ハ分界線ノ方ノ崖ヲ斜ニ削下シ又ハ石垣若クハ木柵ヲ以テ之ヲ支持ス可シ

第二百六十二條 高サ三間ニ踰ユル竹木ハ分界線ヨリ六尺ニ滿タサル距離内ニ之ヲ栽植シ又ハ保持スルコトヲ得ス

高サ三間ニ滿タス一間ニ踰ユル竹木ニ付テハ二尺ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

此他矮小ノ竹木ハ直子ニ之ヲ分界線ニ接著セシムルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ相隣者ハ竹木ノ所有者ニ對シ分界線ヲ踰エタル枝ノ剪除ヲ要求スルコトヲ得又自己セ得キ根干ヘル根ヲ自ラ截去スルコトヲ得

前條及ヒ本條ノ規定ハ二箇ノ土地ノ分界カ互有ナルトキト雖モ之ヲ適用ス

第二百六十三條 右ニ異ナリタル慣習アルトキハ前二條ノ規定ニ依ラスシテ其慣習ヲ遵守ス

第二百六十四條 危險ヲ含ミ衛生ヲ害シ又ハ不都合ヲ生スル營業ニ付キ近隣ノ利益ノ爲メニ要スル條件ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

前諸款ニ共通ナル規則

第二百六十五條 本節ノ規定ハ國、府縣、市町村ノ私有及ヒ公有ノ財産ニ付キ働方及ヒ受方ニテ之ヲ適用ス

然レトモ公有財産ハ水ノ疏通及ヒ互有ノ要求權ニ服セス

第二節 人爲ヲ以テ設定シタル地役

第一款 地役ノ性質及ヒ種類

第二百六十六條 相隣者ハ其不動産ノ利益又ハ負擔ニテ諸種ノ地役ヲ設定スルコトヲ得但其地役カ公ノ秩序ニ反セサルコトヲ要ス

第二百六十七條 地役ハ不動産ノ所有權カ何人ニ移轉スルモ働方又ハ受方ニ於テ其不動産ニ從トシテ附著ス

働方ノ地役ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ貸貸シ又ハ抵當ト爲スコトヲ得ス又地役ノ上ニ地役ヲ設定スルコトヲ得ス

第二百六十八條 地役ハ不動産カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ其一人自己ノ持分ニ付キ要役地ニ地役ヲ失ハシメ又承役地ニ之ヲ免カレシムルコトヲ得サルニ因リテ之ヲ不可分トス

又土地ノ分割又ハ其一分ノ讓渡ノ場合ニ於テ地役ハ不可分ニテ承役地ノ各部分ヲ

累ハシ又ハ要役地ノ各部分ヲ利ス但其地役カ承役地ノ一部分ニ對スルニ非サレハ有益ニ行ハレス又ハ要役地ノ一部分ノ爲メニ非サレハ便益ヲ得セシメサル場合ハ此限ニ在ラス

第二百六十九條 要役地ノ所有者ハ自己ニ屬スト主張スル地役ニ付キ占有ニ係ルト本權ニ係ルトヲ問ハス要請訴權ヲ行フコトヲ得

又承役地ナリト主張テ受ケタル不動産ノ所有者ハ其爭フ地役ノ行使ヲ拒ミ又ハ之ヲ止マシムル爲メ占有ニ係ルト本權ニ係ルトヲ問ハス拒却訴權ヲ行フコトヲ得

第二百七十條 前三條ノ規定ハ法律ヲ以テ設定シタル地役ニ之ヲ適用ス

第二百七十一條 地役ノ種類ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 繼續又ハ不繼續ノ地役

第二 表見又ハ不表見ノ地役

第三 有的又ハ無的ノ地役

第二百七十二條 地役カ場所ノ位置ノミニ因リ人ノ所爲ヲ要セスシテ間斷ナク要役地ニ便チ與ヘ承役地ニ累チ爲ストキハ繼續地役ナリ

地役カ要役地ノ便益ノ爲メ時時人ノ所爲ヲ要スルトキハ不繼續地役ナリ

第二百七十三條 地役カ外見ノ工作又ハ形跡ニ因リテ顯露スルトキハ表見地役ニシテ之ニ反スルトキハ不表見地役ナリ

第二百七十四條 地役ハ在ノ場合ニ於テハ有的地役ナリ

第一 不動産ノ所有者カ他人ノ不動産ヨリ或ル便益ヲ取ルコトヲ得ルトキ

第二 不動産ノ所有者カ相隣便益ノ爲メ法律ノ普通ニ制禁スル或ル工作ヲ自己ノ不動産ニ爲スコトヲ得ルトキ

地役ハ左ノ場合ニ於テハ無的地役ナリ

第一 不動産ノ所有者カ普通ニ所有者ニ許サル可キ所爲ヲ隣人カ自己ノ不動産ニ爲スコトヲ得ルトキ

第二 不動産ノ所有者カ普通法ニ從ヒ自己ノ不動産ニ於テ相隣便益ノ爲メニ爲スコク又ハ許スコキ所爲ヲ爲サス又ハ許ササルコトヲ得ルトキ

第二款 地役ノ設定

第二百七十五條 地役ハ合意又ハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ當事者ノ間ニ於ケルト第三者ニ對スルトヲ問ハス地役ノ有効ナル爲メニハ不動産物權ノ讓渡ニ關スル通常規則ヲ遵守ス可シ

第二百七十六條 不動産所有權ニ關シ時効ヨリ生スル正當ナル取得推定ハ繼續且表見ノ地役ニノミ之ヲ適用ス

隣地ヨリ引ク水ノ取得ニ關スル時効ノ期間ハ其時効ヲ援用スル所有者カ自己ノ土地又ハ承役地ニ於テ其便益ノ爲メ水ヲ聚合シ及ヒ引入スル外見ノ工作物ヲ作リタル當時ヨリ起算ス

第二百七十七條 初メ一人ノ所有ニ屬シタル二箇ノ土地カ不分ノ時既ニ繼續且表見ノ地役ノ成立スコキ位置ヲ成シ其分離ノ時此形狀ヲ變更セス又之ヲ變更スルコトヲ要約セサリシトキハ所有者ノ用方ニ因リ此種ノ地役ヲ設定シタルモノト看做ス

第二百七十八條 不繼續地役及ヒ不表見地役ハ第二百七十五條ニ記載シタル二箇ノ權原ノ一ニ依ルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第二百七十九條 要役權チ有スト主張スル所有者ハ承役地ノ所有者ヨリ出テ又ハ其前所有者ノ一人ヨリ出テタル地役追認ノ證書ヲ差出スコトヲ得ルトキハ前ニ掲ケ

タル方法ノ一ニ因レル地役設定ノ直接ノ證據ヲ舉クルコトヲ要セス

第三款 地役ノ効力

第二百八十條 適法ニ取得シタル地役權ハ其性質ニ從ヒテ行使ニ必要ナル從タル權利及ヒ權能ヲ帶フ

右ノ外合意又ハ遺言ヲ以テ設定シタル地役ニ付テハ其合意又ハ遺言ノ解釋ニ關スル一般ノ規則ニ從フ又時効ニ基キタル地役ニ付テハ實際占有ノ廣狹ヲ量リ所有者ノ用方ニ因リテ生シタル地役ニ付テハ設定者ノ意思ヲ推定シテ其權利ノ廣狹ヲ定ム

第二百八十一條 通行ノ地役、繼續若クハ不繼續ナル取水ノ地役、牧畜又ハ物料採取ノ地役ニ付キ設定權原又ハ其後ノ合意ニ於テ行使ノ時日、場所、方法又ハ收取ノ數量ヲ定メサリシトキハ當事者ノ一方ハ常ニ他ノ一方ト立會ノ上其定方ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

此定方ニ付テハ裁判所ハ雙方ノ需用ヲ斟酌シ且地役權行使ノ從來ノ實蹟ヲ照査ス可シ

第二百八十二條 取水ノ地役ニ服スル不動産ノ所有者ハ自己ノ所爲ニ因リテ水ノ缺乏ヲ生セシメタルトキニ非サレハ其責ニ任セス

二箇ノ不動産ノ需用ノ爲メニ水ノ不足スルトキハ先ツ家用ニ次ニ農業用ニ次ニ工業用ニ之ヲ供ス右ハ總テ其不動産ノ重要ノ度ニ割合フ可シ

數箇ノ要役地アルトキハ各要役地ハ家用ノ爲メ相共ニ水ヲ使用ス農工業用ニ付テハ取水ノ先後ハ地役權取得ノ先後ニ從フ

第二百八十三條 地役權ヲ有スル者ハ承役地ノ所有者ノ承諾アルニ非サレハ正シク

定置キタル行使ノ時日、場所又ハ法方ヲ變更スルコトヲ得ス但承役地ノ所有者カ如何ナル損害ヲ受ケサルトキハ此限ニ在ラス

又承役地ノ所有者カ右變更ニ付キ正當ナル利益ヲ得且要役地ノ所有者カ如何ナル損害ヲ受ケサルトキハ承役地ノ所有者ハ其變更ヲ要求スルコトヲ得

第二百八十四條 地役ヲ設定スル爲メ或ル工作物ヲ必要トスルトキハ其費用ハ要役地ノ所有者ノ負擔ニ屬ス但承役地ノ所有者ノ負擔ニ屬ス可キコトヲ要約シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十五條 地役ノ行使ニ關スル工作物ノ保持及ヒ修繕ハ亦要役地ノ所有者ノ負擔ニ屬ス但修繕カ承役地ノ所有者ノ過失ニ因リテ必要ト爲リタルトキハ此限ニ在ラス

又承役地ノ所有者カ保持及ヒ修繕ヲ負擔ス可キヲ合意スルコトヲ得此場合ニ於テ承役地ノ所有者ハ地役ノ存スル不動産ノ部分ヲ要役地ノ所有者ニ遺棄スルトキハ常ニ右ノ負擔ヲ免カルコトヲ得

第二百八十六條 承役地ノ所有者ハ地役ノ行使ニ如何ナル妨礙ヲモ爲サス又其便益ニ如何ナル減少ヲモ生セサルニ於テハ其所有權ニ固有ナル適法ノ權能ヲ行フコトヲ得

又承役地ノ所有者ハ地役ノ行使ノ爲メ其不動産ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但其所有者カ工作物ヨリ收ムル便益及ヒ其使用ニ因リ増加ス可キ費用ニ應シテ其建設又ハ保持ノ費用ヲ分擔ス

第四款 地役ノ消滅

第二百八十七條 地役ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

第一 地役ヲ設定シタル期間ノ滿了
 第二 設定ノ權原又ハ設定者ノ權利ノ解除、銷除又ハ廢罷
 第三 承役地ノ公用徵收
 第四 拋棄
 第五 混同
 第六 三十个年間ノ不使用
 第三者カ地役アルコトヲ知ラスシテ承役地ヲ占有シ其占有ニ不動産所有權ノ取得ニ關スル時効ニ必要ナル條件ヲ具備スルトキハ地役ハ消滅シタリトノ推定ヲ受ク
 第二百八十八條 地役ノ拋棄ハ之ヲ明示スルコトヲ要ス然レトモ繼續地役ノ行使ノ爲メ承役地ニ設ケタル工作物ノ毀壞又ハ其使用ノ廢止ニ付キ要役地ノ所有者カ異議ヲ留メスシテ明示ノ承諾ヲ與ヘタルトキハ其地役ヲ拋棄シタリト看做ス
 拋棄ハ拋棄者カ自己ノ不動産權利ヲ讓渡スノ能力ヲ有スルトキニ非サレハ其効ナシ
 第二百八十九條 地役ハ要役地及ヒ承役地ヲ一人ノ所有ニ併合シタルトキハ混同ニ因リテ消滅ス然レトモ其併合ノ行爲ヲ裁判上ニテ解除シ銷除シ又ハ廢罷シタルトキハ其地役ヲ曾テ消滅セサリシモノト看做ス
 右不動産ヲ再ヒ分離シタルトキハ繼續且表見ノ地役ハ第二百七十七條ノ規定ニ從ヒテ再生ス
 第二百九十條 地役ハ要役地ノ所有者カ任意タルト否トヲ問ハス其地役權ヲ行フ無クシテ三十个年ヲ經過シタルトキハ不使用ニ因リテ消滅ス
 右期間ハ不繼續地役ニ付テハ最後ノ使用ノ行爲ヨリ之ヲ起算シ繼續地役ニ付テハ

地役ノ自然ノ作用ニ對スル形體上ノ妨礙ノ起レル當時ヨリ之ヲ起算ス
 右妨礙カ承役地ニ起發シタル事變ヨリ生スルトキハ要役地ノ所有者ハ自費ニテ舊狀ニ復スルコトヲ得又其妨礙カ承役地ノ所有者ノ所爲ヨリ生スルトキハ其費用ヲ以テ復舊ス
 第二百九十一條 要役地カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ其一人ノ權利ノ行使ニ因リテ他ノ人ノ權利ヲ保存ス
 此他免責時効ノ停止又ハ中斷ニ關スル規則ハ地役ノ不使用ニ之ヲ適用ス
 第二百九十二條 地役權ノ行使ノ時日、場所及ヒ方法ニ關スル利益ハ不使用又ハ時効ノ結果ニ因リテ滅殺ヲ受クルコト有リ
 第二部 人權及ヒ義務
 總則
 第二百九十三條 人權即チ債權ハ常ニ義務ト對當ス
 義務ハ一人又ハ數人ヲシテ他ノ定マリタル一人又ハ數人ニ對シテ或ル物ヲ與ヘ又ハ或ル事ヲ爲シ若クハ爲ササルコトニ服從セシムル人定法又ハ自然法ノ範疇ナリ
 義務ヲ負フ者ハ之ヲ債務者ト名ツケ義務ニ因リテ利益ヲ得ル者ハ之ヲ債權者ト名ツケ
 第二百九十四條 人定法ノ義務ハ其履行ニ付キ法律ノ許セル諸般ノ方法ニ依リテ債務者ヲ強要スルコトヲ得ルモノナリ
 自然ノ義務ニ對シテハ訴權ヲ生セス
 第一章 義務ノ原因
 總則

第二百九十五條 義務ハ左ノ諸件ヨリ生ス

第一 合意

第二 不當ノ利得

第三 不正ノ損害

第四 法律ノ規定

第一節 合意

第二百九十六條 合意トハ物權ト人權トヲ問ハス或ル權利ヲ創設シ若クハ移轉シ又ハ之ヲ變更シ若クハ消滅セシムルヲ目的トスル二人又ハ數人ノ意思ノ合致ヲ謂フ合意カ人權ノ創設ヲ主タル目的トスルトキハ之ヲ契約ト名ツク

第一款 合意ノ種類

第二百九十七條 合意ニハ雙務ノモノ有リ片務ノモノ有リ

當事者相互ニ義務ヲ負擔スルトキハ其合意ハ雙務ノモノナリ

當事者ノ一方ノミカ他ノ一方ニ對シテ義務ヲ負擔スルトキハ其合意ハ片務ノモノナリ

第二百九十八條 合意ニハ有償ノモノ有リ無償ノモノ有リ

各當事者カ出捐ヲ爲シテ相互ニ利益ヲ得又ハ第三者ヲシテ之ヲ得セシムルトキハ其合意ハ有償ノモノナリ

當事者ノ一方ノミカ何等ノ利益ヲモ給セスシテ他ノ一方ヨリ利益ヲ受クルトキハ其合意ハ無償ノモノナリ

第二百九十九條 合意ニハ諾成ノモノ有リ要物ノモノ有リ

合意カ當事者ノ承諾ノミヲ以テ成立スルトキハ其合意ハ諾成ノモノナリ

合意カ當事者ノ承諾ノ外尙ホ目的物ノ引渡ヲ要スルトキハ其合意ハ要物ノモノナリ

第三百條 合意ニハ要式ノモノ有リ不要式ノモノ有リ
公正證書ヲ以テ承諾ヲ與フ可キ合意ハ要式ノモノナリ
此他ノ場合ニ於ケル合意ハ不要式ノモノナリ

第三百一條 合意ニハ實定ノモノ有リ射倂ノモノ有リ

合意ノ成立及ヒ効力カ合意ノ當初ヨリ確實ナルトキハ其合意ハ實定ノモノナリ

合意ノ成立又ハ其効力ノ全部若クハ一分カ偶然ノ事ニ繫ルトキハ其合意ハ射倂ノモノナリ

第三百二條 合意ニハ主タルモノ有リ從タルモノ有リ

合意ノ成立カ他ノ合意ノ成立ニ關係ナキトキハ其合意ハ主タルモノナリ

反對ノ場合ニ於テハ其合意ハ從タルモノナリ

主タル合意ノ無効ハ從タル合意ノ無効ヲ惹起ス但從タル合意カ主タル合意ノ無効ノ場合ニ於テ之ニ代ハルチ目的トスルモノナルトキハ此限ニ在ラス

從タル合意ノ無効ハ主タル合意ノ無効ヲ惹起セス但當事者カ其二箇ノ合意ヲ分離ス可カラサルモノト看做シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百三條 合意ニハ有名ノモノ有リ無名ノモノ有リ

有名ノ合意ハ固有ノ名稱アリテ本法又ハ商法ニ於ケル特別ノ規則ノ目的タルモノナリ特別ノ規則ヲ設ケサル總テノ場合ニ於テハ其合意ハ本部ノ規則ニ從フ

無名ノ合意ハ本部ニ掲ケタル合意ノ一般ノ規則ニ從フ又有名ノ合意ニ特別ナル規則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スルコトヲ得

則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スルコトヲ得

則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スルコトヲ得

則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スルコトヲ得

則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スルコトヲ得

則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スルコトヲ得

則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スルコトヲ得

則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スルコトヲ得

第二款 合意ノ成立及ヒ有効ノ條件

第三百四條 凡ソ合意ノ成立スル爲メニハ左ノ三箇ノ條件ヲ具備スルヲ必要トス

第一 當事者又ハ代人ノ承諾

第二 確定ニシテ各人カ處分權ヲ有スル目的

第三 眞實且合法ノ原因

右ノ外尙ホ要式ノ合意ハ必要ノ方式ヲ遵守シ要物ノ合意ハ返還セラル可キ物ノ引渡ヲ爲シタルニ非サレハ成立セス

第三百五條 合意ノ成立ニ必要ナル條件ノ外尙ホ其有効ナル爲メニハ左ニ掲グル二箇ノ條件ヲ具備スルヲ必要トス

第一 承諾ノ瑕疵ヲ成ス可キ錯誤又ハ強暴ノ無キコト

第二 當事者ノ能力アルコト又ハ有効ニ代理セラレタルコト

第三百六條 承諾トハ利害關係人トシテ合意ニ加ハル總當事者ノ意思ノ合致ヲ謂フ

當事者中ノ一人カ承諾セサルトキハ他ノ當事者カ承諾シタルモ合意ハ成立セス但此ニ異ナル意思ノ存セシ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第三百七條 承諾ハ書面、口頭又ハ容態ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ得但此未ノ場合ニ於テハ他ニ同意ヲ表スルノ手段ナキコト且承諾スル意思ノ確定アルコトヲ要ス

又承諾ハ事情ニ因リテ默示ヨリ成ルコトヲ得

第三百八條 遠隔ノ地ニ於テ取結フ合意ノ言込ハ其承諾ノ爲メ明示又ハ默示ノ期間

ナキトキハ受諾ノ報ナキノ間ハ之ヲ言消スコトヲ得但言消ノ報ノ遠スルニ先タチ受諾ノ報ヲ發シタルトキハ其受諾ハ有効ニシテ其言消ハ無効ナリ

右ニ反シ明示又ハ默示ノ期間アルトキハ其期間ハ言込ヲ言消スコトヲ得ス但言消

ノ報カ言込又ハ期間指示ノ報ニ先タチ又ハ同時ニ先方ニ達シタルトキハ此限ニ在ラス

此指示期間ニ受諾ヲ爲ササルトキハ言込ハ期間満了ノミニテ消滅ス

受諾モ亦之ヲ言消スコトヲ得但其報カ受諾ノ報ニ先タチ又ハ同時ニ言込人ニ達スルコトヲ要ス

言込人カ死亡シ又ハ合意スル能力ヲ失ヒタルモ先方カ未タ此事實ヲ知ラサル間ハ其受諾ハ有効ナリ

郵便、電信ノ錯誤ハ差出人ノ責ニ歸ス但郵便、電信ノ官署ニ對スル求償權アルトキハ之ヲ行フコトヲ妨ケス

第三百九條 當事者ノ錯誤ニテ合意ノ性質、目的又ハ原因ノ著眼ニ相違アリシトキハ其錯誤ハ承諾ヲ阻却ス

合意ノ緣由ノ錯誤ハ其錯誤ノミニテハ無効ノ原因ヲ成サス但當事者ノ一方ノ詐欺ニ關シテ定ムルモノハ此限ニ在ラス

當事者ノ身上ノ錯誤ハ其身上ニ付テノ著眼カ決意ノ原因タリシトキハ其錯誤ハ承諾ヲ阻却ス

身上ノ著眼カ合意ノ附隨ノ原因タルニ過キサルトキハ其合意ハ身上ノ錯誤ノ爲メ單ニ取消スコトヲ得ヘキモノナリ

第三百十條 物上ノ錯誤カ物ノ品質ニ存スルトキハ其錯誤ハ承諾ノ瑕疵ヲ成ス但其品質ニ付テノ著眼カ當事者ノ決意ヲ助成セサルトキハ此限ニ在ラス

之ニ反シテ物ノ品格ニ存スル錯誤ハ承諾ノ瑕疵ヲ成サス但當事者ノ意思カ明示又ハ事情ニ因リテ品格ニ著眼シタルコトノ明白ナルトキハ此限ニ在ラス物ノ時代、

出處又ハ用方ノ如キ思想上ノ品格ニ付テモ亦同シ
合意ノ履行ノ時期又ハ場所ニ存スル錯誤ニ付テハ前項ノ規定ニ從フ

算數、氏名、證書ノ日附又ハ場所ノ錯誤ニ付テハ第五百五十九條ノ規定ニ從フ

第三百十一條 法律ノ錯誤カ或ハ合意ノ性質、原因又ハ効力ニ存スルトキ或ハ物ノ

資格又ハ人ノ分限ニ存シテ其資格若クハ分限カ決意ヲ爲サシメタルトキハ其錯誤ノ

ハ事實ノ錯誤ノ如ク承諾ヲ阻却シ又ハ其瑕疵ヲ成ス

然レトモ裁判所ハ宥恕ス可キ情狀アルニ非サレハ右錯誤ノ爲メ合意ノ無効ヲ認許

スルコトヲ得ス

法律ノ錯誤ハ責罰ニ對シ時期ヨリ生スル法律上ノ失權ニ對シ又ハ行爲ノ違式ヨリ

生スル無効ニ對シ此他公ノ秩序ニ係ル法律、規則ノ不知ニ對シテモ當事者ヲ救護

スル爲メニ之ヲ認許セス

第三百十二條 詐欺ハ承諾ヲ阻却セス又其瑕疵ヲ成サス但詐欺カ錯誤ヲ惹起シ其錯

誤ノミヲ以テ前三條ニ記載セル如ク承諾ヲ阻却シ又ハ其瑕疵ヲ成ストキハ此限ニ

在ラス

此他ノ場合ニ於テハ詐欺ハ之ヲ行ヒタル者ニ對スル損害賠償ノ訴權ノミヲ生ス

然レトモ當事者ノ一方カ詐欺ヲ行ヒ其詐欺カ他ノ一方ヲシテ合意ヲ爲スコトニ決

意セシメタルトキハ其一方ハ補償ノ名義ニテ合意ノ取消ヲ求メ且損害アルトキハ

其賠償ヲ求ムルコトヲ得但其合意ノ取消ハ善意ナル第三者ヲ害スルコトヲ得ス

第三百十三條 強暴ハ當事者ノ一方カ抵抗スルコトヲ得サル暴行、脅迫ヲ受ケタル

ニ因リテ枉ケテ合意ヲ爲シタルトキハ承諾ヲ阻却ス

當事者ノ一方カ不可抗カニ出テタル急迫ノ災害ヲ避クル爲メ考慮スルノ暇ナクシ

テ過度ナル義務ヲ約シ又ハ無慮ナル讓渡ヲ爲シタルトキモ亦同シ

暴行、脅迫又ハ災害カ抵抗ス可カラサルニ非サルモ當事者又ハ第三者ノ身體、財產

ノ爲メ切迫ニシテ一層重大ノ害ヲ避クル爲メ當事者ヲシテ合意ヲ爲スコトニ決意

セシメタルトキハ強暴ハ承諾ノ瑕疵ヲ成ス

第三百十四條 強暴ニ因リテ身體財產ニ危難ノ恐ヲ受ケタル第三者カ當事者ノ配偶

者又ハ直系ノ親屬若クハ姻屬ナルトキハ其強暴ハ常ニ之ヲ當事者ニ加ヘタリト看

做ス

此他ノ人ニ付テハ親屬ナルト姻屬ナルト又ハ外人ナルトヲ問ハス裁判所ハ此等ノ

者ニ對シテ加ヘタル強暴カ當事者ノ承諾ニ及ホセシ影響ヲ其事情ニ從ヒテ査定ス

第三百十五條 強暴ハ當事者ノ一方ノ所爲ニ出テタルト第三者ノ所爲ニ出テタルト

又第三者カ其一方ニ通謀セルト否トヲ問ハス上ノ區別ニ從ヒテ承諾ヲ阻却シ又ハ

其瑕疵ヲ成ス

第三百十六條 強暴ヲ受ケタル一方ハ合意ヲ銷除スルコトヲ得ル場合ニ於テモ強暴

ヲ行ヒタル者ニ對シ損害賠償ノミヲ請求シテ其合意ヲ維持スルコトヲ得

強暴カ合意ノ決意ヲ爲サシメタルニ非スシテ單ニ不利ナル條件ヲ承諾セシメタル

トキハ其合意ハ銷除スルコトヲ得ス但賠償ノ要求ヲ妨ケス

第三百十七條 強暴ノ場合ニ於テ裁判所ハ當事者ノ男女、年齢、強弱、智愚及ヒ相互

ノ身分ヲ斟酌ス可シ

然レトモ卑屬親ノ尊屬親ニ對スル尊敬ノミニ出テタル畏懼ハ合意ヲ取消ス理由ト

爲ラス

第三百十八條 錯誤、強暴、詐欺及ヒ無能力ハ之ヲ推定セス其中立人ヨリ之ヲ證スル

コトヲ要ス

當事者ノ雙方ニ屬スル鎖除訴權ノ方法ハ相互ノ非理ニ基クトキト雖モ互ニ毀滅セ
ス但損害アルトキハ其賠償ノ相殺ヲ妨ケス

第三百十九條 前數條ノ場合ニ於ケル鎖除訴權ハ無能力者又ハ瑕疵アル承諾ヲ與ヘ
タル者ノミニ屬ス

然レトモ處刑ノ言渡ヨリ生スル無能力ハ其言渡ヲ受ケタル者ト合意ヲ爲シタル者
ヨリ之ヲ申立ツルコトヲ得

第三百二十條 取消スコトヲ得ヘキ合意ヲ第三章第七節ニ定メタル期間ニ攻撃セサ
ルトキハ默示ニテ之ヲ認諾シタルモノト看做ス

此他默示認諾ノ場合及ヒ明示認諾ノ方式ハ右同節ノ規定ニ從フ

第三百二十一條 合意ハ未來ニ係リ且成立ノ不確定ナル物ヲ目的トスルコトヲ得此
場合ニ於テ諾約者ハ其諾約ノ實施ヲ妨礙シ若クハ減縮スル何等ノ事ヲモ爲サス又

其實施ニ便ス可キ何等ノ事ヲモ放却シ若クハ怠ラサルコトヲ要ス

然レトモ相續ニテ受ク可キ財産ヲ讓渡ス合意ハ其相續ヲ遺ス可キ人ノ承諾アリト
雖モ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百二十二條 合意ハ不法又ハ不能ノ作爲又ハ不作爲ヲ目的トスルトキハ無効ナ
リ

合意ノ目的タル第三者ノ作爲又ハ不作爲カ合法又ハ可能ナリト雖モ若シ諾約者カ
其第三者ニ對シテ威權ヲ有セサルトキハ其諾約ハ之ヲ不能ノ作爲又ハ不作爲ヲ目
的トセルモノト看做ス

然レトモ何人ニテモ第三者ノ作爲又ハ不作爲ニ付キ明示ニテ擔保人ト爲ルコトヲ

得此場合ニ於テハ諾約者ハ保證人ノ義務ニ服ス

又何人ニテモ第三者ニ代ハリテ諾約ヲ爲シ若シ其第三者カ之ヲ履行セサルニ於テ
ハ過怠金ヲ辨濟ス可キ責ニ服スルコトヲ得

何人ニテモ第三者ノ名ヲ以テ合意ヲ爲シ第三者ヲシテ之ヲ承認セシム可キコトノ
ミナ諾約シタルトキハ其第三者ノ承認シタル時ヨリ義務ヲ免カル

第三百二十三條 要約者カ合意ニ付キ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ正當ノ利益ヲ有セ
サルトキハ其合意ハ原因ナキ爲メ無効ナリ

第三者ノ利益ノ爲メニ要約ヲ爲シ且之ニ過怠約款ヲ加ヘサルトキハ其要約ハ之ヲ
要約者ニ於テ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ有セサルモノト看做ス

然レトモ第三者ノ利益ニ於ケル要約ハ要約者カ自己ノ爲メ爲シタル要約ノ從タリ
又ハ諾約者ニ爲シタル贈與ノ從タル條件ナルトキハ有効ナリ

右二箇ノ場合ニ於テ從タル條件ノ履行ヲ得サルトキハ要約者ハ單ニ合意ノ解除訴
權又ハ過怠約款ノ履行訴權ヲ行フコトヲ得

第三百二十四條 主タリ又ハ從タル要約ハ常ニ要約者ノ相續人ノ利益ノ爲メニ之ヲ
爲スコトヲ得

主タリ又ハ從タル諾約ハ諾約者ノ相續人ノ負擔トシテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百二十五條 前二條ノ場合ニ於テ第三者又ハ相續人ノ利益ノ爲メニ爲シタル要
約ハ享益者ノ之ヲ承諾セサル間ハ要約者ハ自己ノ利益ノ爲メニ之ヲ廢罷シ又ハ之
ヲ他人ニ移轉スルコトヲ得

第三百二十六條 合意ノ證書ニ原因ヲ明示シタルト否トキ問ハス其原因ノ不成立、
虛妄又ハ不法ナルコトノ證據ハ被告ヨリ之ヲ爲ス可キモノトス若シ原因ノ明示ナ

キトキハ被告ハ先ツ原告ヲシテ其原因ヲ陳述セシムル爲メニ之ニ催告スルコトヲ得但其原因ニ付キ争フコトヲ妨ケス

第三款 合意ノ効力

第一則 當事者間及ヒ其承繼人間ノ合意ノ効力

第三百二十七條 適法ニ爲シタル合意ハ當事者ノ間ニ於テ法律ニ同シキ効力ヲ有ス此合意ハ當事者ノ雙方カ承諾スルニ非サレハ之ヲ廢罷スルコトヲ得ス但法律カ一方ノ意思ヲ以テ廢罷スルコトヲ許セル場合ハ此限ニ在ラス

第三百二十八條 當事者ハ合意ヲ以テ普通法ノ規定ニ依ラサルコトヲ得又其効力ヲ増減スルコトヲ得但公ノ秩序及ヒ善良ノ風俗ニ觸ルルコトヲ得ス

第三百二十九條 合意ハ當事者ノ明示及ヒ默示ノ効力ノミナラス尙ホ合意ノ性質ニ從ヒテ條理若クハ慣習ヨリ生シ又ハ法律ノ規定ヨリ生スル効力ヲ有ス

第三百三十條 合意ハ善意ヲ以テ之ヲ履行スルコトヲ要ス

第三百三十一條 特定物ヲ授與スル合意ハ引渡ヲ要セスシテ直チニ其所有權ヲ移轉ス但合意ニ附帶スルコト有ル可キ停止條件ニ關シ下ニ規定スルモノヲ妨ケス

第三百三十二條 代替物ヲ授與スル合意ハ諾約者ヲシテ其物ノ所有權ヲ約束シタル性質、品格及ヒ分量ヲ以テ要約者ニ移轉スル義務ヲ負ハシム此場合ニ於テ所有權ハ物ノ引渡ニ因リ又ハ當事者立會ニテ爲シタル其指定ニ因リテ移轉ス

第三百三十三條 前二條ノ場合ニ於テハ約束シタル時日及ヒ場所ニ於テ諾約者ノ注意及ヒ費用ニテ物ノ引渡ヲ爲スコトヲ要ス

引取ノ費用ハ要約者之ヲ負擔ス
證書ノ費用ハ有償行爲ニ付テハ當事者雙方之ヲ負擔シ無償行爲ニ付テハ受益者之

ヲ負擔ス

不動産ノ引渡ハ證書ノ交付及ヒ場所ノ明渡ヲ以テ之ヲ爲ス但簡易ノ引渡及ヒ占有ノ改定ニ關シ第九十一條ニ規定シタルモノヲ妨ケス

債權ノ引渡ハ證書ノ交付ヲ以テ之ヲ爲ス
引渡ノ期限ノ定マラサリシトキハ即時ニ引渡ヲ要求スルコトヲ得

引渡ノ場所ノ定マラサリシトキハ特定物ニ付テハ合意ノ當時其物ノ存在セシ場所代替物ニ付テハ其物ノ指定ヲ爲シタル場所其他ノ場合ニ在テハ諾約者ノ住所ニ於テ引渡ヲ爲ス

第三百三十四條 諾約者ハ特定物ノ引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理人タルノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス懈怠又ハ惡意アルトキハ損害賠償ノ責ニ任ス
無償ニテ讓渡シタル物ノ保存ニ付テハ諾約者ハ自己ノ物ニ加フルト同一ノ注意ヲ加フルノミノ責ニ任ス

此他諾約者カ右ト同一ノ注意ノミヲ負擔スル場合ハ其各事項ニ於テ之ヲ規定ス
第三百三十五條 授與スル合意カ特定物ヲ目的トスルトキハ意外ノ事又ハ不可抗力

ニ出テタル其物ノ滅失又ハ毀損ハ諾約者カ危險ヲ負擔シタル場合及ヒ停止條件ニ關スル規定ヲ除外要約者ノ損ニ歸シ其物ノ増加ハ要約者ノ益ニ歸ス

然レトモ諾約者カ物ノ引渡ノ遲滞ニ付セラレタルトキハ其滅失又ハ毀損ハ諾約者ノ負擔ニ歸ス但縱令引渡ヲ爲シタルモ滅失又ハ毀損ヲ免ル可カラサリシ場合ハ此限ニ在ラス

第三百三十六條 左ノ場合ニ於テハ諾約者其他ノ債務者ハ遲滞ニ付セラレタルモノトス

第一 期限ノ到來後ニ裁判所ニ請求ヲ爲シ又ハ合式ニ催告書ヲ送達シ若クハ執行文ヲ示シタルトキ

第二 期限ノ到來ノミニ因リテ遲滯ニ付スルコトヲ法律又ハ合意ヲ以テ定メタル場合ニ於テ其期限ノ到來シタルトキ

第三 諾約者カ或ル時期ニ後レタル履行ハ要約者ニ無用ナルコトヲ知リテ其時期ヲ經過セシメタルトキ

第三百三十七條 作爲又ハ不作爲ノ義務ヲ定ムル合意ノ効力ハ第三百八十二條ノ規定ニ從フ

第三百三十八條 合意ハ當事者ノ相續人其他一般ノ承繼人ヲ利シ又ハ之ヲ害ス但法律又ハ合意ニ於テ格別ノ定ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス

第三百三十九條 債權者ハ其債務者ニ屬スル權利ヲ申立テ及ヒ其訴訟ヲ行フコトヲ得

債權者ハ此事ノ爲メ或ハ差押ノ方法ニ依リ或ハ債務者ノ原告又ハ被告タル訴ニ參加スルコトニ依リ或ハ民事訴訟法ニ從ヒテ得タル裁判上ノ代位ヲ以テ第三者ニ對スル間接ノ訴ニ依ル

然レトモ債權者ハ債務者ニ屬スル純然タル權能又ハ債務者ノ一身ニ專屬スル權利ヲ行フコトヲ得ス又法律又ハ合意ノ明文ヲ以テ差押ヲ禁シタル財産ヲ差押フルコトヲ得ス

第三百四十條 右ニ反シ債權者ハ其債務者カ第三者ニ對シ承諾シタル義務、拋棄又ハ讓渡ニ付キ其損害ヲ受ク但債權者ノ權利ヲ詐害スル行爲ハ此限ニ在ラス

債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ自己ノ財産ヲ減シ又ハ自己ノ債務ヲ増シタルトキハ之ヲ詐害ノ行爲トス

第三百四十一條 詐害ノ行爲ノ廢罷ハ債務者ト約束シタル者及ヒ轉得者ニ對シ次條ノ區別ニ從ヒ債權者ヨリ廢罷訴訟ヲ以テ之ヲ請求ス

債務者カ原告タルト被告タルトヲ問ハズ詐害スル意思ヲ以テ故サラニ訴訟ニ失敗シタルトキハ債權者ハ民事訴訟法ニ從ヒ再審ノ方法ニ依リテ訴フルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ債務者ヲ訴訟ニ參加セシムルコトヲ要ス

債權者カ詐害ノ行爲ノ廢罷ヲ得ル能ハサルトキハ被告ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得

第三百四十二條 債權者ハ攻撃スル行爲ノ如何ヲ問ハズ其債務者ノ詐害ヲ證スルコトヲ要ス此他有償ノ行爲ニ付テハ債務者ト約束シ又ハ之ト訴訟シタル者ノ通謀ヲ證スルコトヲ要ス

讓渡ニ對スル廢罷訴訟ハ有償又ハ無償ノ轉得者カ最初ノ取得者ト約束スルニ當リ債權者ニ加ヘタル詐害ヲ知リタルトキニ非サレハ其轉得者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第三百四十三條 廢罷ハ詐害行爲ニ先ダチ權利ヲ取得シタル債權者ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス然レトモ廢罷ヲ得タルトキハ總債權者ヲ利ス但各債權者ノ間ニ於テ適法ノ先取原因ノ存スルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十四條 廢罷訴訟ハ詐害行爲ノ有リタル時ヨリ三十年ニシテ時効ニ罹リ消滅ス若シ債權者カ詐害ヲ覺知シタルトキハ其覺知ノ時ヨリ二年ニシテ消滅ス

右ノ時効ハ再審申立ノ訴訟ニ之ヲ適用ス

第二則 第三者ニ對スル合意ノ効力

タルトキハ之ヲ詐害ノ行爲トス

第三百四十一條 詐害ノ行爲ノ廢罷ハ債務者ト約束シタル者及ヒ轉得者ニ對シ次條ノ區別ニ從ヒ債權者ヨリ廢罷訴訟ヲ以テ之ヲ請求ス

債務者カ原告タルト被告タルトヲ問ハズ詐害スル意思ヲ以テ故サラニ訴訟ニ失敗シタルトキハ債權者ハ民事訴訟法ニ從ヒ再審ノ方法ニ依リテ訴フルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ債務者ヲ訴訟ニ參加セシムルコトヲ要ス

債權者カ詐害ノ行爲ノ廢罷ヲ得ル能ハサルトキハ被告ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得

第三百四十二條 債權者ハ攻撃スル行爲ノ如何ヲ問ハズ其債務者ノ詐害ヲ證スルコトヲ要ス此他有償ノ行爲ニ付テハ債務者ト約束シ又ハ之ト訴訟シタル者ノ通謀ヲ證スルコトヲ要ス

讓渡ニ對スル廢罷訴訟ハ有償又ハ無償ノ轉得者カ最初ノ取得者ト約束スルニ當リ債權者ニ加ヘタル詐害ヲ知リタルトキニ非サレハ其轉得者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第三百四十三條 廢罷ハ詐害行爲ニ先ダチ權利ヲ取得シタル債權者ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス然レトモ廢罷ヲ得タルトキハ總債權者ヲ利ス但各債權者ノ間ニ於テ適法ノ先取原因ノ存スルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十四條 廢罷訴訟ハ詐害行爲ノ有リタル時ヨリ三十年ニシテ時効ニ罹リ消滅ス若シ債權者カ詐害ヲ覺知シタルトキハ其覺知ノ時ヨリ二年ニシテ消滅ス

右ノ時効ハ再審申立ノ訴訟ニ之ヲ適用ス

第二則 第三者ニ對スル合意ノ効力

第三百四十五條 合意ハ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ非サレハ効力ヲ有セスト雖モ法律ニ定メタル場合ニ於テシ且其條件ニ從フトキハ第三者ニ對シテ効力ヲ生ス

第三百四十六條 所有者カ一箇ノ有體動産ヲ二箇ノ合意ヲ以テ各別ニ二人ニ與ヘタルトキハ其二人中現ニ占有スル者ハ證書ノ日附ハ後ナリトモ其所有者タリ但其者カ自己ノ合意ヲ爲ス當時ニ於テ前ノ合意ヲ知ラス且前ノ合意ヲ爲シタル者ノ財産ヲ管理スル責任ナキコトヲ要ス

此規則ハ無記名證券ニ之ヲ適用ス

第三百四十七條 記名證券ノ讓受人ハ債務者ニ其讓受ヲ合式ニ告知シ又ハ債務者カ公正證書若クハ私署證書ヲ以テ之ヲ受諾シタル後ニ非サレハ自己ノ權利ヲ以テ讓渡人ノ承繼人及ヒ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

債務者ハ讓渡ヲ受諾シタルトキハ讓渡人ニ對スル抗辯ヲ以テ新債權者ニ對抗スルコトヲ得ス又讓渡ニ付テノ告知ノミニテハ債務者ヲシテ其告知後ニ生スル抗辯ノミヲ失ハシム

右ノ行爲ノ一ヲ爲スマテハ債務者ノ辨濟、免責ノ合意、讓渡人ノ債權者ヨリ爲シタル拂渡差押又ハ合式ニ告知シ若クハ受諾ヲ得タル新讓渡ハ總テ善意ニテ之ヲ爲シタルモノトノ推定ヲ受ケ且之ヲ以テ懈怠ナル讓受人ニ對抗スルコトヲ得

當事者ノ惡意ハ其自己ニ因ルニ非サレハ之ヲ證スルコトヲ得ス然レトモ讓渡人ト通謀シタル詐害アリシトキハ其通謀ハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得裏書ヲ以テスル商證券ノ讓渡ニ特別ナル規則ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三百四十八條 左ニ掲グル諸件ハ財産在地ノ區裁判所ニ備ヘタル登記簿ニ之ヲ登記ス

第一 不動産所有權其他ノ不動產物權ノ讓渡

第二 右ノ權利ノ變更又ハ拋棄

第三 差押ヘタル不動産ノ競落

第四 公用徵收ヲ宣言シタル判決又ハ行政上ノ命令

第三百四十九條 登記ハ當事者ノ請願ニ因リ其費用ヲ以テ之ヲ爲ス

請願者ニハ其求ニ因リテ登記ノ認證書ヲ交付ス

何人ニテモ登記簿ノ抄本ヲ要求スルコトヲ得

登記ニ關スル方式ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三百五十條 第三百四十八條ニ掲ケタル行爲、判決又ハ命令ノ効力ニ因リテ取得シ變更シ又ハ取回シタル物權ハ其登記ヲ爲スマテハ仍ホ名義上ノ所有者ト此物權ニ付キ約束シタル者又ハ其所有者ヨリ此物權ト相容レサル權利ヲ取得シタル者ニ對抗スルコトヲ得ス但其者ノ善意ニシテ且其行爲ノ登記ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ爲シタルトキニ限ル

惡意及ヒ通謀ニ付テハ第三百四十七條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ證スルコトヲ得

第三百五十一條 法律、裁判又ハ合意ニ因リテ前取得者ノ爲メ登記ヲ爲ス義務アル者カ之ヲ爲サスシテ後ニ取得者ト爲リタルトキハ善意タリト雖モ自己又ハ其相續人若クハ一般ノ承繼人ヨリ登記ナキコトヲ申立テテ前取得者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十二條 登記ヲ經タル讓渡ノ解除、銷除又ハ廢罷ヲ爲サントスル訴權カ善意ノ轉得者ニ對シテ行フコトヲ得サル場合ニ在テハ原告ハ爾後自己ニ對抗スルコトヲ得ヘキ登記ヲ防止スル爲メ其攻撃スル行爲ノ登記ニ豫メ訴狀ノ抜抄ヲ附記ス

右ノ訴權ヲ總テノ轉得者ニ對シテ行フコトヲ得ヘキ場合ニ在テハ其攻撃スル行爲ノ登記ニ訴狀ヲ附記セサル間ハ裁判所ニ於テ其訴訟ヲ受理セス
 行爲取消ノ判決ハ假執行タリトモ其執行以前ニ訴狀ノ附記ノ末尾ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス縱令執行ナキモ亦其判決ノ確定ト爲リタル時ヨリ一个月内ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス此ニ違ヒタルトキハ其判決ヲ得タル者ヲ五十圓以下ノ過料ニ處ス
 裁判所ハ請求ヲ却下シ又ハ其手續ノ失効ヲ宣告シタルトキハ其判決ノ確定ニ至リテ訴狀ノ附記ヲ抹消セシムル爲メ職權ヲ以テ豫メ其抹消ヲ命ス
 原告カ取下ヲ爲シタルトキハ當事者ノ請願ニ因リテ訴狀ノ附記ヲ抹消ス
 第三百五十三條 登記ヲ經タル行爲ノ協議上ノ解除、銷除又ハ廢罷ハ總テ之ヲ任意ノ讓戻ト看做シ第三百四十八條乃至第三百五十一條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

右登記ハ登記官吏其職權ヲ以テ取消ト爲リタル行爲ノ登記ニ之ヲ附記ス
 第三百五十四條 登記及ヒ附記ハ總テ利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ其抹消又ハ改正ヲ請求スルコトヲ得
 右請求及ヒ其判決ハ第三百五十二條ニ規定シタル如ク其爭フ行爲ノ登記ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス此ニ違フ者ノ責罰モ亦同條ノ規定ニ從フ
 能力ヲ有シ又ハ合式ニ代理セラレ若クハ保佐セラレタル當事者ハ協議ニテ抹消又ハ改正ヲ承諾スルコトヲ得
 裁判上ニテ合式ニ命シ又ハ協議ニテ承諾シタル抹消又ハ改正ハ登記ヲ爲シタル權利者ヲ此事ニ付キ異議ヲ述ヘシムル爲メニ召喚シ又ハ其承服ヲ得タルニ非サレハ之ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十五條 登記官吏ハ前數條ニ掲ケタル登記、附記、抹消若クハ改正又ハ登記ノ證書ニ於ケル脱漏又ハ訛誤ニ付キ請願者又ハ利害關係人ニ對シテ其責ニ任ス

第四款 合意ノ解釋

第三百五十六條 合意ノ解釋ニ付テハ裁判所ハ當事者ノ用キタル語辭ノ字義ニ拘ハラシヨリ寧ロ當事者ノ共通ノ意思ヲ推尋スルコトヲ要ス

第三百五十七條 一箇ノ語辭カ各地ニ於テ意義ヲ異ニスルトキハ當事者雙方ノ住所ヲ有スル地ニ於テ慣用スル意義ニ從ヒ若シ同一ノ地ニ住所ヲ有セサルトキハ合意ヲ爲シタル地ニ於テ慣用スル意義ニ從フ

一箇ノ語辭ニ本來ニ二様ノ意義アルトキハ其合意ノ性質及ヒ目的ニ最モ適スル意義ニ從フ

第三百五十八條 合意ノ各項目ハ合意ノ全體ト最モ善ク一致スル意義ニ從ヒテ相互ニ之ヲ解釋ス

一箇ノ項目ニ二様ノ意義アリテ其一カ項目ヲ有効ナラシムルトキハ其意義ニ從フ
 第三百五十九條 合意ノ語辭カ如何ニ廣泛ナルモ其語辭ハ當事者ノ合意ヲ爲スニ付キ期望シタル目的ノミヲ包含セルモノト推定ス

當事者カ合意ノ自然若クハ法律上ノ効力ノ一ヲ明言シ又ハ特別ノ場合ニ於ケル其適用ヲ明言シタルモ慣習若クハ法律ニ因リテ生スル他ノ効力又ハ適當ニ受ク可キ他ノ適用ヲ阻却セント欲シタルモノト推定セス

第三百六十條 總テノ場合ニ於テ當事者ノ意思ニ疑アルトキハ其合意ノ解釋ハ諸約者ノ利ト爲ル可キ意義ニ從フ
 雙務ノ合意ニ於テハ此規定ハ各項目ニ付キ各別ニ之ヲ適用ス

第二節 不當ノ利得

第三百六十一條 何人ニテモ有意ト無意ト又錯誤ト故意トヲ問ハス正當ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ付キ利ヲ得タル者ハ其不當ノ利得ノ取戻ヲ受ク此規定ハ下ノ區別ニ從ヒ主トシテ左ノ諸件ニ之ヲ適用ス

第一 他人ノ事務ノ管理

第二 負擔ナクシテ辨濟シタル物及ヒ虛妄若クハ不法ノ原因ノ爲メ又ハ成就セス若クハ消滅シタル原因ノ爲メニ供與シタル物ノ領受

第三 遺贈其他遺言ノ負擔ヲ付シタル相續ノ受諾

第四 他人ノ物ノ添附ヨリ又ハ他人ノ努力ヨリ生スル所有物ノ増加

第五 他人ノ物ノ占有者カ不法ニ收取シタル果實、產出物其他ノ利益及ヒ之ニ反シテ占有者カ其占有物ニ加ヘタル改良但第百九十四條乃至第百九十八條ニ規定シタル區別ニ從フ

第三百六十二條 不在者其他ノ人ノ財産ニ忠害アリト見ユルトキ合意上、法律上又ハ裁判上ノ委任ナク好意ヲ以テ其事務ヲ管理スル者ハ本主ノ財産ヨリ收メタル利益ヲ返還シ具其管理ノ際自己ノ名ニテ取得シタル權利及ヒ訴權ヲ本主ニ移轉スル責アリ

右管理者ハ本主又ハ其相續人カ自ラ管理ヲ爲シ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スル責アリ

又右管理者ハ過失又ハ懈怠ニ因リテ本主ニ加ヘタル損害ノ責ニ任ス但管理者カ其管理ニ任スルニ至レル事情ヲ酌量スルコトヲ要ス

第三百六十三條 本主ハ管理者カ管理ノ爲メニ出シタル必要又ハ有益ナル諸費用ヲ

賠償シ及ヒ管理者カ其管理ノ爲メニ自身ニ負擔シタル義務ヲ免カレシメ又ハ其擔保ヲ爲スコトヲ要ス

若シ本主ノ意思ニ反シ管理ヲ爲シタルトキハ管理者ハ出訴ノ日ニ於テ存在スル費用又ハ約務ノ有益ノ限度ニ非サレハ賠償ヲ受クルコトヲ得ス

第三百六十四條 債權者ニ非スシテ辨濟ヲ受ケタル者ハ其善意ト惡意ト又辨濟者ノ錯誤ト故意トヲ問ハス訴ヲ受ケタル日ニ於テ現ニ己レヲ利シタルモノノ取戻ヲ受ケ

第三百六十五條 辨濟ヲ受ケタル者カ債權者ナルモ債務者ニ非サル者ヨリ之ヲ受ケタルトキハ辨濟者カ錯誤ニテ辨濟ヲ爲シタルトキニ非サレハ其取戻ヲ許サス債權者カ辨濟ヲ受ケタル爲メニ善意ニテ債權證書ヲ毀滅セシトキモ亦其取戻ヲ許サス

右二箇ノ場合ニ於テ辨濟者カ事務管理ノ訴權ニ依リ又ハ代位辨濟ノ規則ニ依リ眞ノ債務者ニ對シテ有スル求償權ヲ妨ケス

第三百六十六條 眞ノ債務者ヨリ眞ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタル場合ニ在テハ債務者カ其負擔シタル物ニ異ナル性質ノ物又ハ自己ニ屬セサル物ヲ錯誤ニ因リ辨濟トシテ與ヘタルトキニ非サレハ其取戻ヲ許サス

或ハ期限ニ先タチテ辨濟ヲ爲シ或ハ辨濟ヲ實行ス可キ場所外ニ於テ辨濟ヲ爲シ或ハ諾約シタル物ニ異ナル品質、品格若クハ價格ノ物ヲ以テ辨濟ヲ爲シタルトキモ亦其取戻ヲ許サス但當事者ノ一方ノ錯誤ニ出テタルトキハ其一方ハ爲メニ受ケタル損失ヲ他ノ一方ノ得タル利益ノ割合ニ應シテ賠償セシムルコトヲ妨ケス

第三百六十七條 第三百六十一條第二號ニ掲ケタル供與ニシテ辨濟ノ性質ヲ有セザ

ルモノニモ亦第三百六十四條ノ規定ヲ適用ス
然レトモ不法ノ原因ノ爲メ供與シタル物又ハ有價物ハ其原因カ之ヲ供與シタル者
ノ方ニ於テ不法ナルトキハ其取戻ヲ許サス

第三百六十八條 第三百六十一條第二號ニ掲ケタル供與ヲ惡意ニテ領受シタル者ハ
訴ヲ受ケタル日ニ於テ其不當ニ己レヲ利シタルモノノ外尙ホ左ノ物ヲ返還ス可シ

第一 元本ヲ領受セシ時ヨリノ法律上ノ利息

第二 收取ヲ怠リ又ハ消費シタル特定物ノ果實及ヒ產出物

第三 自己ノ過失又ハ懈怠ニ因ル物ノ價額ノ喪失又ハ減少ノ價金縱令其喪失又
ハ減少カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ルモ其物カ供與者ノ方ニ在ルニ於テ

ハ此損害ヲ受ケサル可カリシトキハ亦同シ

第三百六十九條 不當ニ領受シタル物カ不動産ニシテ且之ヲ第三者ニ讓渡シタルト
キハ初ノ引渡人ハ其選擇ヲ以テ或ハ第三所持者ニ對シテ其不動産ノ回復ヲ訴ヘ或

ハ領受者ニ對シテ其代金ノ取戻ヲ訴フルコトヲ得
善意ナル領受者ニ對シテハ單ニ不動産ノ讓渡代金ヲ取戻シ又ハ其代金ニ關スル訴
權ヲ要求シ惡意ナル領受者ニ對シテハ其代金ヲ評價ニテ取戻スコトヲ得

第三節 不正ノ損害即チ犯罪及ヒ准犯罪
第三百七十條 過失又ハ懈怠ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ其賠償ヲ爲ス責
ニ任ス

此損害ノ所爲カ有意ニ出テタルトキハ其所爲ハ民事ノ犯罪ヲ成シ無意ニ出テタル
トキハ准犯罪ヲ成ス

犯罪及ヒ准犯罪ノ責任ノ廣狹ハ合意ノ履行ニ於ケル詐欺及ヒ過失ノ責任ニ關スル
ニ任ス

次章第二節ノ規定ニ從フ

第三百七十一條 何人ヲ問ハス自己ノ所爲又ハ懈怠ヨリ生スル損害ニ付キ其責ニ任
スルノミナラス尙ホ自己ノ威權ノ下ニ在ル者ノ所爲又ハ懈怠及ヒ自己ニ屬スル物

ヨリ生スル損害ニ付キ下ノ區別ニ從ヒテ其責ニ任ス

第三百七十二條 父權ヲ行フ尊屬親ハ已レト同居スル未成年ノ卑屬親ノ加ヘタル損
害ニ付キ其責ニ任ス

後見人ハ已レト同居スル被後見人ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

瘋癲白痴者ヲ看守スル者ハ瘋癲白痴者ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス
教師、師匠及ヒ工場長ハ未成年ノ生徒、習業者及ヒ職工カ自己ノ監督ノ下ニ在ル間

ニ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

本條ニ指定シタル責任者ハ損害ノ所爲ヲ防止スル能ハサリシコトヲ證スルトキハ
其責ニ任セス

第三百七十三條 主人親方又ハ工事、運送等ノ營業人若クハ總テノ委託者ハ其雇人、
使用人、職工又ハ受任者カ受任ノ職務ヲ行フ爲メ又ハ之ヲ行フニ際シテ加ヘタル
損害ニ付キ其責ニ任ス

第三百七十四條 動物ノ加ヘタル損害ノ責任ハ其所有者又ハ損害ノ當時之ヲ使用セ
ル者ニ歸ス但其損害カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ出テタルトキハ此限ニ在ラズ

第三百七十五條 建物其他ノ工作物ノ所有者ハ此等ノ工作物ノ崩落カ修繕ノ欠缺又
ハ築造ノ瑕疵ニ出テタルトキハ其崩落ニ因リテ加ヘタル損害ノ責ニ任ス但此末ノ
場合ニ於テハ工事請負人ニ對スル求償權ヲ妨ケス
堤防ノ破潰ニ因リ投錨若クハ繫纜ノ粗忽ニ因リ又ハ樹木、柱竿、目隠、看板、屋瓦其

他堅牢ヲ缺ケル建物ノ部分ノ崩額墮落ニ因リテ加ヘタル損害ニ付テモ亦同シ
第三百七十六條 自治産ナルト否トテ問ハス未成年者ハ其有意又ハ粗忽ニテ加ヘタル不正ノ損害ニ付テハ刑事上責任ヲ免カル可キトキト雖モ民事上責任アリト宣告セラルルコト有リ

又右未成年者ハ其雇人若クハ使用人又ハ自己ニ屬スル物ノ加ヘタル損害ニ付キ民事上其責ニ任セシメラルルコト有リ但後見人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

第三百七十七條 前數條ノ場合ニ於テ加害者ニ責任アリト認ムルトキハ裁判所ハ之ニ對シテ主タル裁判ヲ言渡シ且民事擔當人ノ附隨ノ義務ノ廣狹ヲ定ム但民事擔當人ハ犯罪者ニ對シテ當然求償權ヲ有ス

民事擔當人ハ法律ニ特定シタル場合ニ非サレハ犯罪者ノ言渡サレタル罰金ノ責ニ任セス

第三百七十八條 本節ニ定メタル總テノ場合ニ於テ數人カ同一ノ所爲ニ付キ責ニ任シ各自ノ過失又ハ懈怠ノ部分ヲ知ル能ハサルトキハ各自全部ニ付キ義務ヲ負擔ス但共謀ノ場合ニ於テハ其義務ハ連帶ナリ

第三百七十九條 民事ノ犯罪又ハ准犯罪カ刑事ノ犯罪ヲ成ストキハ犯罪者ニ付テモ民事擔當人ニ付テモ刑事訴訟法ヲ以テ定メタル民事訴訟ノ管轄及ヒ時効ニ關スル規則ヲ適用ス

第四節 法律ノ規定

第三百八十條 或ル義務ハ人ノ所爲ニ拘ハラズ法律ニ依リテ之ヲ負擔セシム即チ左ノ如シ

第一 或ル親族間又ハ或ル姻族間ノ養料ノ義務

第二 後見ノ義務

第三 共有者間ノ義務

第四 相隣者間ノ義務ニシテ地役ヲ成ササルモノ

此等ノ義務ニ特別ナル規則ハ其各事項ニ於テ之ヲ掲グ

第二章 義務ノ効力

總則

第三百八十一條 義務ノ主タル効力ハ下ノ第一節第二節及ヒ第三節ニ定メタル區別ニ從ヒテ其義務ヲ直接ニ履行セシムル爲メ又不履行ノ場合ニ於テハ附隨トシテ損害ヲ賠償セシムル爲メノ訴權ヲ債權者ニ與フルニ在リ

右ノ外義務ノ効力ハ第四節ニ定メタル義務ノ諸種ノ體様ニ從ヒテ其廣狹ヲ異ニス

第一節 直接履行ノ訴權

第三百八十二條 義務ノ本旨ニ從ヒテ直接ノ履行ヲ債權者ヨリ請求シ且債務者ノ身體ヲ拘束セスシテ履行セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ裁判所ハ其直接履行ヲ命スルコトヲ要ス

引渡ス可キ有體物ニシテ債務者ノ財産中ニ在ルモノニ付テハ裁判所ノ威權ヲ以テ差押ヘ之ヲ債權者ニ引渡ス

作爲ノ義務ニ付テハ裁判所ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ債權者ニ許ス

不作爲ノ義務ニ付テハ其義務ニ背キテ爲シタルモノヲ債務者ノ費用ヲ以テ毀壞セシメ及ヒ將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ債權者ニ許ス

此等ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ其賠償ヲ爲サシムルコトヲ妨ケス

債務者ニ對スル強制執行ノ方法ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二節 損害賠償ノ訴權

第三百八十三條 債務者カ義務履行ヲ拒絕シタル場合ニ於テ債權者強制執行ヲ求メサルカ又ハ義務ノ性質上強制執行ヲ爲スコトヲ得サルトキハ債權者損害賠償ヲ爲サシムルコトヲ得債務者ノ責ニ歸ス可キ履行不能ノ場合ニ於テモ亦同シ又債權者ハ履行遅延ノミノ爲メ損害賠償ヲ爲サシムルコトヲ得

法律ヲ以テ損害賠償ノ額ヲ定メタル場合ノ外當事者之ヲ定メサリシトキハ下ノ區別及ヒ條件ニ從ヒテ裁判所之ヲ定ム

第三百八十四條 損害賠償ハ債務者カ第三百三十六條ニ依リテ遲滞ニ付セラレタル後ニ非サレハ之ヲ負擔セス

然レトモ不作爲ノ義務ニ於テハ債務者ハ常ニ當然遲滞ニ在リ

第三百八十五條 損害賠償ハ債權者ノ受ケタル損失ノ償金及ヒ其失ヒタル利得ノ填補ヲ包含ス

然レトモ債務者ノ惡意ナク懈怠ノミニ出テタル不履行又ハ遲延ニ付テハ損害賠償ハ當事者カ合意ノ時ニ豫見シ又ハ豫見スルヲ得ヘカリシ損失ト利得ノ喪失トノミヲ包含ス

惡意ノ場合ニ於テハ豫見スルヲ得サリシ損害ト雖モ不履行ヨリ生スル結果ニシテ避ク可カラサルモノタルトキハ債務者其賠償ヲ負擔ス

第三百八十六條 損害賠償カ主タル訴ノ目的タルトキハ裁判所ハ金錢ニテ其額ヲ定ム

損害賠償ノ請求カ直接履行ノ訴又ハ契約解除ノ訴ノ從タルトキハ裁判所ハ主タル請求ヲ決スルト同時ニ先ツ數額不定ノ損害賠償ヲ債務者ニ言渡シ其計算ハ疏明ヲ待チテ日後ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得

又裁判所ハ債務者ニ直接履行ヲ命スルト同時ニ其極度ノ期間ヲ定メ其遅延スル日毎ニ又ハ月毎ニ若干ノ償金ヲ拂フ可キヲ言渡スコトヲ得此場合ニ於テハ債務者ハ直接履行ヲ爲サスシテ損害賠償ノ即時ノ計算ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十七條 不履行又ハ遲延ニ關シ當事者雙方ニ非理アルトキハ裁判所ハ損害賠償ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス

第三百八十八條 當事者ハ豫メ過怠約款ヲ設ケ不履行又ハ遲延ノミニ付テノ損害賠償ヲ定ムルコトヲ得

第三百八十九條 裁判所ハ過怠約款ノ數額ヲ増スコトヲ得又不履行若クハ遲延カ債務者ノ過失ノミニ出テサルトキ又ハ一分ノ履行アリタルトキニ非サレハ其數額ヲ減スルコトヲ得

第三百九十條 雙務契約ニ於テ不履行ニ付テノ過怠約款ヲ要約シタルトキト雖モ其債權者ハ解除ノ權利ヲ失ハス但明白ニ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ジス債權者ハ遲延ノミニ付テノ過怠約款ヲ要約シタルトキニ非サレハ解除ト過怠トヲ併セテ要求スルコトヲ得

第三百九十一條 金錢ヲ目的トスル義務ノ遅延ノ損害賠償ニ付テハ裁判所ハ法律上ノ利息ノ割合ト異ナル額ニ之ヲ定ムルコトヲ得但法律ノ特例アル場合ハ此限ニ在ラス
當事者カ損害賠償ノ數額ヲ定ムルトキハ合意上ノ利息ノ最上限以下タルコトヲ要

第三百九十二條 債權者ハ右ノ損害賠償ヲ請求スル爲メニ何等ノ損失ヲモ證スル責ニ任セス又債務者ハ其請求ヲ拒ム爲メニ意外ノ事又ハ不可抗力ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百九十三條 遅延利息ヲ生セシムル爲メ債務者ヲ遅滞ニ付スルニハ裁判所ニ其利息ヲ請求シ又ハ債務者ノ特別ノ追認ヲ得ルコトヲ要ス但法律カ當然此利息ヲ生セシムル場合及ヒ法律カ催告其他ノ行爲ニ因リテ此利息ヲ生セシムルヲ許セル場合ハ此限ニ在ラス

第三百九十四條 要求スルヲ得ヘキ元本ノ利息ハ填補タルト遅延タルトヲ問ハス其一个年分ノ延滞セル毎ニ特別ニ合意シ又ハ裁判所ニ請求シ且其時ヨリ後ニ非サレハ此ニ利息ヲ生セシムル爲メ元本ニ組入ルルコトヲ得ス

然レトモ建物又ハ土地ノ賃貸無期又ハ終身ノ年金權ノ年金返還ヲ受ク可キ果實又ハ產出物ノ如キ満期ト爲リタル入額ハ一个年未滿ノ延滞タルトキト雖モ請求又ハ合意ノ時ヨリ其利息ヲ生スルコトヲ得
債務者ノ免責ノ爲メ第三者ノ拂ヒタル元本ノ利息ニ付テモ亦同シ

第三節 擔保

第三百九十五條 物權ト人權トヲ問ハス權利ヲ讓渡シタル者ハ讓渡以前ノ原因又ハ自己ノ責ニ歸ス可キ原因ニ基キタル追奪又ハ妨礙ニ對シテ其權利ノ完全ナル行使及ヒ自由ナル收益ヲ擔保スル責ニ任ス
擔保ニ二箇ノ目的アリ即チ第三者ノ主張ニ對シ讓受人ヲ保護スルコト及ヒ防止スル能ハサリシ妨礙若クハ追奪ニ對シ債金ヲ拂フコト是ナリ

第三百九十六條 擔保ハ有債ノ行爲ニ付テハ反對ノ要約ナキトキハ當然存立シ無債ノ行爲ニ付テハ之ヲ諾約シタルニ非サレハ存立セス

然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル要約ノ爲メニモ讓渡人ハ自ラ讓受人ニ妨礙ヲ加フルコトヲ得ス又第三者カ讓渡人ノ授與シタル權利ニ依リテ讓受人ニ妨礙ヲ加ヘ又ハ追奪ヲ爲シタルトキハ讓渡人ハ其擔保ノ責ニ任ス但權利ノ授與カ無擔保ニテ爲シタル讓渡ノ以前ニ在ルトキト雖モ亦同シ
右擔保ノ義務ハ讓渡人ノ相續人ニ移轉ス

第三百九十七條 買主又ハ賃借人ノ爲メニスル賣主又ハ賃貸人ノ擔保及ヒ共同分割者ノ相互ノ擔保ニ特別ナル規則ハ其擔保ヲ生スル契約及ヒ行爲ノ各事項ニ於テ之ヲ規定ス

第三百九十八條 他人ト共ニ又ハ他人ノ爲メニ義務ヲ負擔スル者ハ保證、連帶及ヒ不可分ノ事項ニ於テ規定シタル如ク他人ノ免責ノ爲メニ爲シタル辨濟ニ付キ擔保ノ求償權ヲ有ス

又債權者ノ一人カ連帶又ハ不可分ノ義務ノ皆濟ヲ受ケタルトキハ他ノ債權者ハ其一人ノ收メタル利益ノ分與ニ付キ之ニ對シテ特別ナル訴權ヲ有セサルトキハ擔保ノ訴權ヲ有ス

第三百九十九條 擔保ニ付キ權利ヲ有スル者ハ訴ヲ受ケタルトキ民事訴訟法ニ從ヒテ擔保人ノ訴訟參加ヲ請求スルコトヲ得

第四百條 擔保人ヲ訴訟ニ參加セシメスシテ追奪ヲ受ケ又ハ他人ノ債務ヲ辨濟シタル者ハ主タル訴權ヲ以テ擔保人ニ對シ擔保ヲ請求スルコトヲ得但擔保人カ前ノ請求ヲ却下セシムルニ有効ナル方法ヲ有セシコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス

第四節 義務ノ諸種ノ體様

第四百一條 義務ハ左ノ場合ニ從ヒテ其體様ヲ變ス

- 第一 義務ノ成立ノ單純、有期又ハ條件附ナルトキ
 - 第二 義務ノ目的ノ單一、選擇又ハ任意ナルトキ
 - 第三 債權者又ハ債務者ノ單數又ハ複數ナルトキ
 - 第四 義務ノ性質又ハ其履行ノ可分又ハ不可分ナルトキ
- 義務ハ其體様ノ變スルニ從ヒテ其効力モ亦變ス

第一款 成立ノ單純、有期又ハ條件附ナル義務

第四百二條 義務ノ成立カ初ヨリ正確ニシテ且即時ニ要求スルコトヲ得ヘキトキハ其義務ハ單純ナリ

第四百三條 債權者カ或ル時期前又ハ時期ハ確定セサルモ必ス到來ス可キ或ル事件ノ到來前ニ履行ヲ求ムルコトヲ得サルトキハ其義務ハ有期ナリ

當事者ノ定メタル期限又ハ法律ニ依リテ許與シタル期限ハ之ヲ權利上ノ期限トス債務者ノ爲シ得ヘキ時又ハ欲スル時ニ辨濟ス可シトノ語辭アルトキハ裁判所ハ債權者ノ請求ニ因リ事情ニ從ヒ及ヒ當事者ノ意思ヲ推定シテ其履行ノ期間ヲ定ム但當事者カ無期ノ年金權ヲ設定セント欲シタル場合ハ此限ニ在ラス

第四百四條 債務者ハ期限ノ利益ヲ拋棄シテ滿期前ニ其義務ヲ履行スルコトヲ得但要約ニ因リ又ハ事情ニ因リテ當事者雙方ノ利益又ハ債權者ノミノ利益ノ爲メニ期限ヲ定メタル證據アルトキハ此限ニ在ラス
債權者ノミノ利益ノ爲メニ期限ヲ定メタル場合ニ於テハ債權者モ其期限ヲ拋棄スルコトヲ得

當事者カ錯誤ニ因リテ滿期前ニ辨濟シタル場合ニ於テハ第三百六十六條ノ規定ニ從フ

第四百五條 債務者ハ左ノ場合ニ於テ債權者ノ請求ニ因リ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ

- 第一 債務者カ破産シ又ハ顯然無資力ト爲リタルトキ
 - 第二 債務者カ財產ノ多分ヲ讓渡シ又ハ其多分カ他ノ債權者ノ差押ヲ受ケタルトキ
 - 第三 債務者カ其供シタル特別ノ擔保ヲ毀滅シ若クハ減少シ又ハ其豫約シタル擔保ヲ供セサルトキ
 - 第四 債務者カ填補利息ヲ拂ハサルトキ
- 第四百六條 權利上ノ期限ノ有無ヲ問ハス又執行力ヲ有スル證書アル場合ト雖モ債務者カ不幸且善意ニシテ債權者カ猶豫ノ爲メ確實ノ損害ヲ受ケサル可キトキハ裁判所ハ債務者ニ相應ナル恩惠上ノ期限ヲ許與スルコトヲ得
又裁判所ハ右ノ條件ニ從ヒテ債務ノ一分ツツノ履行ヲ許スコトヲ得
右ニ反スル要約ハ總テ無効ナリ
- 第四百七條 恩惠上ノ期限ヲ得タル債務者ハ第四百五條ニ定メタル場合ノ外尙ホ左ノ場合ニ於テ之ヲ失フ
- 第一 債務者カ逃亡シ又ハ住所ヲ去リテ債權者ニ其居所ヲ隱蔽スルトキ
 - 第二 債務者カ一年以上ノ禁錮ノ刑ヲ受ケタルトキ
 - 第三 債務者カ言渡ヲ受ケタル條件ノ一ヲ行ハサルトキ
 - 第四 債務者カ法律上ノ相殺ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テ自ラ其債權者ノ債權者ト

爲リタルトキ

恩惠上ノ期限ハ裁判所ニ於テ更ニ之ヲ延フルコトヲ得ス

第四百八條 當事者又ハ法律カ義務ノ發生又ハ消滅ヲ未來且不确定ノ事件ノ有無ニ繫ラシムルトキハ其義務ハ條件附ナリ此條件ハ第一ノ場合ニ於テハ停止ニシテ第二ノ場合ニ於テハ解除ナリ

物權モ亦主タルト從タルトヲ問ハス之ヲ停止又ハ解除ノ條件ニ繫ラシムルヲ得

第四百九條 停止ノ條件ノ成就スルトキハ合意ノ日ニ遡リテ其効ヲ生ス

解除ノ條件ノ成就スルトキハ當事者ヲシテ合意前ノ各自ノ地位ニ復セシム

第四百十條 停止又ハ解除ノ條件カ成就セサル間ハ當事者ノ各自ハ條件ヲ帶ヒタル權利ヲ其儘ニ第三者ニ授與スルコトヲ得

然レトモ其條件ヲ第三百四十七條以下ニ定メタル方法ニ從ヒテ公示シタルニ非サレハ當事者ノ一方又ハ其承繼人ハ之ヲ以テ他ノ一方ノ承繼人ニ對抗スルコトヲ得

第四百十一條 解除條件ヲ帶ヒタル權利ヲ有スル者ノ善意ニ出テ且法律ニ從ヒテ爲シタル管理ノ行爲ハ第三者ノ利益ノ爲メニ之ヲ保持ス

解除條件ヲ帶ヒタル權利ヲ有スル當事者ノ一方ト第三者ニ對シテ言渡サレタル判決ハ他ノ一方又ハ其承繼人ノ之ヲ援用スルコトヲ得

然レトモ右判決ハ他ノ一方ノ當事者又ハ其承繼人ヲ異議申述ノ爲メニ訴訟ニ召喚セサリシトキハ之ヲ以テ其當事者又ハ承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス但其判決カ管理ノ行爲ノミニ關スルトキハ此限ニ在ラス

第四百十二條 條件ノ成就シタルトキハ物又ハ金錢ヲ引渡シ又ハ返還ス可キ當事者

ハ其成就セサル間ニ收取シ又ハ滿期ト爲レル果實若クハ利息ヲ交付スルコトヲ要ス但當事者間ニ反對ノ意思アル證據カ事情ヨリ生スルトキハ此限ニ在ラス

第四百十三條 合意ノ主タル目的ヲ不能又ハ不法ノ條件ニ繫ラシメタルトキハ合意ハ無効ナリ

當事者ノ一方カ或ハ禁止ノ所爲ヲ行ヒ又ハ本分ノ責務ヲ盡ササルニ因リテ自己ニ利ヲ得或ハ禁止ノ所爲ヲ行ハス又ハ本分ノ責務ヲ盡スニ因リテ自己ニ害ヲ受ク可キトキハ其條件ハ不法ナリ

不能又ハ不法ノ條件カ合意ノ從タル効力ノミニ關スルトキハ其約款ノミ成立セス

第四百十四條 條件カ偶成ナルトキ又ハ其全部若クハ一分カ要約者ノ隨意ナルトキ諾約者カ其成就ヲ妨ケタルニ於テハ其條件ハ之ヲ成就シタルモノト看做ス

第四百十五條 條件カ全ク當事者ノ一方ノ隨意ナルトキハ他ノ一方ハ其成否ヲ決ス可キ或ル期限ヲ定メント裁判所ニ請求スルコトヲ得

第四百十六條 有的條件ノ爲メ當事者又ハ裁判所カ或ル限期ヲ定メタル場合ニ於テ事件カ到來セスシテ此期限ヲ經過シタルトキハ其條件ハ之ヲ成就セサルモノト看做ス條件ノ成否ノ爲メ期限ヲ定メタルト否トヲ問ハス事件ノ到來セサルコトノ確實ト爲リタルトキモ亦同シ

無的條件ノ爲メ或ル期限ヲ定メタル場合ニ於テ事件カ到來セスシテ此期限ヲ經過シタルトキハ其條件ハ之ヲ成就シタルモノト看做ス又其期限ヲ定メタルト否トヲ問ハス事件ノ到來セサルコトノ確實ト爲リタルトキモ亦同シ

右孰レノ場合ニ於テモ裁判所ハ當事者ノ定メタル期限ヲ延フルコトヲ得ス

第四百十七條 當事者ノ一方又ハ雙方カ條件ノ成就又ハ不成就ノ前ニ死亡シタルト

キハ合意ノ効力ハ其相續人ニ對シ働方又ハ受方ニテ存在ス但條件カ其性質ニ因リ又ハ當事者ノ意思ニ因リテ要約者又ハ諾約者ノ一身ノミニ附著シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十八條 條件カ如何様ニ成就ス可キカ又如何ナル時ニ成就シ又ハ成就セスト看做サル可キカヲ知ルコトハ當事者ノ明示又ハ默示ノ意思ニ從ヒテ之ヲ決ス其條件ノ一分ノ成就ヨリ生ス可キ効力ニ付テモ亦同シ

第四百十九條 諾約シタル物カ諾約者ノ過失ナクシテ停止條件ノ成就前ニ其價額ノ全部又ハ其過半ノ喪失シタルトキハ合意ハ之ヲ成立セスト看做シ且孰レノ方ヨリ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得ス

之ニ反シ解除條件ヲ以テ諾約シタルトキハ右同一ノ喪失ハ要約者ノ權利確定シテ其負擔ニ歸シ且何等ノ返還ヲモ要求スルコトヲ得ス
前二項ノ場合ニ於テ喪失カ價額ノ半ヲ超エサルトキハ條件ノ成就ハ合意ノ効力ヲ生ス

第四百二十條 一分ノ喪失カ當事者ノ一方ノ責ニ歸ス可キトキハ他ノ一方ハ自己ノ撰擇ヲ以テ或ハ損失ノ償金ト共ニ合意ノ履行ヲ請求シ或ハ損害ノ賠償ト共ニ合意ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

又全部喪失ノ場合ニ於テハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得
第四百二十一條 凡ソ雙務契約ニハ義務ヲ履行シ又ハ履行ノ言込ヲ爲セル當事者ノ一方ノ利益ノ爲メ他ノ一方ノ義務不履行ノ場合ニ於テ常ニ解除條件ヲ包含ス
此場合ニ於テ解除ハ當然行ハレス損害ヲ受ケタル一方ヨリ之ヲ請求スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ第四百六條ニ從ヒ他ノ一方ニ恩惠上ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

得

第四百二十二條 當事者ハ前條ノ解除ヲ行ハサル旨ヲ明約スルコトヲ得
又當事者ハ履行ノ遲滞ニ付セラレタル一方ニ對シテ解除ノ當然行ハル可キ旨ヲ明約スルコトヲ得然レトモ遲滞ニ付セラレタル一方ハ他ノ一方カ其解除ヲ申立ツルニ非サレハ自己ヨリ之ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四百二十三條 不履行ノ爲メニ損害ヲ受ケタル當事者ハ默示ノ解除ノ場合ニ於テ未タ之ヲ裁判上ニテ請求セサル間又ハ明示ノ解除ノ場合ニ於テ未タ之ヲ援用スル旨ヲ述ハサル間ハ其解除ヲ拋棄スルコトヲ得

第四百二十四條 裁判上ニテ解除ヲ請求シ又ハ援用スル當事者ハ其受ケタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第四百二十五條 當事者ハ其權利カ停止條件ニ繋リ又ハ其訴權カ權利上若クハ恩惠上ノ期限ヲ爲メニ阻止ヲ受クルト雖モ其間ニ於テ本法及ヒ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ自己ノ權利ノ保存處分ヲ爲スコトヲ得

第四百二十六條 賣買契約ニ於テ特ニ慣用スル隨意ノ停止又ハ解除ノ條件ニ付テハ財產取得編第二十九條乃至第三十二條ノ規定ニ從フ

第二款 目的ノ單一、選擇又ハ任意ノ義務

第四百二十七條 義務カ一箇若クハ數箇ノ特定物又ハ定量物或ハ物ノ集合、財産ノ包括ヲ目的トスルトキハ其義務ハ單一ナリ

又義務カ同時又ハ順次ニ數箇ノ各別ナル供與ヲ目的トスル場合ト雖モ唯一又ハ牽連ノ合意ヲ以テ其供與ヲ負擔シタルトキハ尙ホ其義務ハ之ヲ單一ナリト看做ス
右孰レノ場合ニ於テモ債務者ハ負擔シタル總テノ物ヲ供與スルニ非サレハ其義務

ヲ免カラルコトヲ得ス

第四百二十八條 義務カ數箇ノ各別ナル目的ヲ有スルモ債務者カ其中ノ幾箇ノ供與
ヲ爲スニ因リテ義務ヲ免カシキトキハ其義務ハ選擇ナリ
供與ス可キ物ノ選擇ハ債務者ニ屬ス但其選擇ヲ債權者ニ許シタルトキハ此限ニ
在ラス

然レトモ債務者ハ選擇ニテ負擔シタル數箇ノ物ノ各ノ一分ヲ受クルコトヲ債權者
ニ強ヒ又債權者ハ其各ノ一分ヲ與フルコトヲ債務者ニ強フルコトヲ得ス

第四百二十九條 選擇ヲ有スル當事者ノ孰レタルヲ問ハス二箇ノ物ノ一カ意外ノ事
又ハ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ義務ハ單一ト爲リテ其殘ル所ノ物ニ存ス
二箇ノ物カ共ニ全部滅失シタルトキハ義務ハ消滅ス

二箇ノ物ノ一カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ其價ノ半額ヨリ多キ部分ヲ喪失シ
タルトキハ其物ハ債務者ノ選擇ノ目的タルコトヲ得ス

第四百三十條 債務者カ實物ノ提供ヲ爲シ又ハ債權者カ合式ノ請求ヲ爲シテ一旦
有効ニ行フタル選擇ハ當事者ノ一方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ消スコトヲ得ス

第四百三十一條 選擇カ債務者ニ屬スル場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ其過失ニ因リテ
滅失シタルトキハ義務ハ殘ル所ノ物ニ存シ債務者ハ滅失シタル物ノ價金ヲ與ヘテ
其義務ヲ免カシコトヲ得ス

二箇ノ物カ債務者ノ過失ニ因リテ順次ニ滅失シタルトキハ債務者ハ後ニ滅失シタ
ル物ノ價金ヲ負擔ス

又二箇ノ物カ同時ニ滅失シテ債務者カ其二箇又ハ一箇ニ對シ過失アリタルトキハ
選擇ハ債權者ニ移轉シ之ヲシテ一箇ノ物ノ價金ヲ得セシム

第四百三十二條 同上ノ場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタ
ルトキハ債務者ハ義務ヲ免カシ但債務者ハ自己ノ選擇ヲ以テ殘ル所ノ物ヲ與ヘテ
滅失シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ共ニ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ自己ノ選擇ヲ以
テ一箇ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ一ハ債權者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ同時ニ滅
失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カシ債權者ニ對シテ價金ヲ要求スルコトヲ得ス

第四百三十三條 合意ヲ以テ債權者ニ選擇ヲ與ヘタル場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ債
務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債權者ハ殘ル所ノ物ヲ要求シ又ハ滅失シタ
ル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ共ニ債務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債權者ハ自己ノ選擇ヲ以
テ一箇ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得二箇ノ物カ一ハ債務者ノ過失ニ因リ一ハ意
外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキモ亦同シ

第四百三十四條 同上ノ場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタ
ルトキハ債務者ハ義務ヲ免カシ

二箇ノ物カ共ニ債權者ノ過失ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキハ選擇ハ債務者ニ移
轉シ之ヲシテ一箇ノ物ノ價金ヲ得セシム

二箇ノ物カ一ハ債權者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ同時ニ滅
失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カシ債權者ニ對シテ價金ヲ要求スルコトヲ得ス

第四百三十五條 前數條ノ規定ニ從ヒテ選擇ノ義務カ一箇ノ物ニ歸著シタルトキ又
ハ其權利ヲ有スル當事者カ選擇ヲ爲シタルトキハ其義務ハ停止條件ノ義務ニ關シ

第四百九條ニ規定シタル如ク既往ニ遡リテ効チ生ス

第四百三十六條

債務者カ一定ノ物ヲ主トシテ負擔スルモ他ノ物ヲ與ヘテ義務ヲ免

カルルノ權能ヲ有スルトキハ其義務ハ任意ナリ

主トシテ負擔スル物ヲ與フルノ義務ハ任意ニテ負擔スル物ヲ辨濟スルニ於テハ解

除ス可シトノ條件ニ繫ルモノト看做ス

主トシテ負擔スル物カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ

義務ヲ免カル

主トシテ負擔スル物カ債務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ其價金ノ

償還及ヒ損害ノ賠償ニ任ス然レトモ債務者ハ任意ニテ負擔スル物ヲ與ヘテ義務ヲ

免カルルノ權能ヲ有ス

二箇ノ物ノ一カ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ其免責ヲ申立テ

又ハ殘ル所ノ物ヲ與ヘテ滅失シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ共ニ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ且

自己ノ選擇ヲ以テ一箇ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リ一ハ債權者ノ過失ニ因リテ同時ニ滅

失シ其過失カ任意ニテ負擔シタル物ノ上ニ存スルトキ又ハ其過失カ孰レノ物ノ上

ニ存シタルカヲ知り得サルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ且任意ニテ負擔シタル物

ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

第四百三十七條

債權者及ヒ債務者カ各一人ナルトキハ其義務ハ單數ナリ

債權者又ハ債務者カ數人ナルトキハ其義務ハ複數ナリ

第三款 債權者及ヒ債務者ノ單數又ハ複數ナル義務

第四百三十八條

連合ノ義務ニ於テハ次款ニ定ムル如ク各債權者又ハ各債務者ハ自

己ノ部分外ニ履行ヲ求ムルコトヲ得ス又訴追ヲ受クルコト無シ

連帶ノ義務ニ於テハ各債權者又ハ各債務者ハ自己ノ名ヲ以テ自己ノ部分ノ爲メニ

スルト他人ノ名ヲ以テ他人ノ部分ノ爲メニスルトト問ハス全部ニ付キ履行ヲ求ム

ルコトヲ得又訴追ヲ受クルコト有リ但擔保訴權ニ因レル相互ノ求償權ヲ妨ケス

全部ノ義務ハ債權擔保編第七十三條ニ於テ之ヲ規定ス

第四百三十九條

單數ノ義務ハ債權者ト債務者トノ間ニ在テハ不可分タル如ク之ヲ

履行スルコトヲ要ス但第四百六條ヲ以テ一分ノ辨濟ヲ許スコトニ付キ裁判所ニ與

ヘタル權能ヲ妨ケス

第四百四十條 連合ノ義務ニ於テハ債權者ノ各自カ履行ヲ求メ又ハ債務者ノ各自

カ訴追ヲ受ク可キ實地ノ部分ハ合意又ハ事情ニ從ヒテ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ從フヲ得サルトキハ其各自ノ部分ハ平分ニテ之ヲ計算ス但債權ノ利

益又ハ債務ノ負擔ニ於テ各自カ其實地ノ部分ニ復スル相互ノ求償權ヲ妨ケス

第四百四十一條 複數ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ債權者ノ間ニモ債務者ノ間ニモ不可

分ナリ

第一 負擔スル目的ノ性質ニ因リテ一分ノ履行カ形體上及ヒ智能上不能ナルト

キ

第二 義務カ性質ニ因リテ可分ナルモ當事者ノ明示ノ意思又ハ其期望シタル目

途其他事情ヨリ顯ハルル意思カ一分ノ履行ヲ許ササルトキ

第四百四十二條 義務ハ其性質ニ因リテ可分ナルモ左ノ場合ニ於テハ尙ホ當事者ノ意思ニ因リ受方ノミニテ不可分ナリ

第一 債務者ノ一人ノ處分權内ニ在ル特定物ノ引渡ニ關スルトキ
第二 債務者ノ一人カ債務ノ設定權原ヨ因リテ獨リ履行ニ任シタルトキ
右第一ノ場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ其一人ノ債務者ハ此數債權者ニ對シテ同時ニ義務ヲ免カルル爲メ其數債權者ノ訴訟參加ヲ要求スルコトヲ得
第四百四十三條 不可分ハ債權擔保編ニ規定スル如ク性質ニ因リテ可分ナル義務ノ履行ノ擔保ノ爲メ連帶ニ併合シ又ハ併合セスシテ義務者ノ負擔又ハ債權者ノ利益ニ於テ之ヲ要約スルコトヲ得

第四百四十四條 債權者ノ一人カ不可分債務ノ履行ヲ受ケタルトキハ他ノ債權者ノ權利ノ限度ニ應シテ之ニ其利益ヲ分與スルコトヲ要ス

又債務者ノ一人カ義務ノ履行ヲ爲シタルトキハ義務ノ原因ニ從ヒ又ハ從來相互ノ關係ニ從ヒテ他ノ債務者ノ分擔ス可キ部分ニ付キ之ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有ス
第四百四十五條 債權者ノ一人ハ要約シタル如ク辨濟ヲ受クルニ非サレハ他ノ債權者ノ權利ヲ減少シ又ハ消滅セシムルコトヲ得ス

債權者ノ一人カ總債務者若クハ其一人ノ免責ヲ主旨トスル更改、免除其他ノ合意ヲ爲シタルモ又ハ債務者カ其一人ノ債權者ニ對シテ適法ナル相殺ノ原因ヲ有スルモ他ノ債權者ハ尙ホ義務ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得然レトモ他ノ債權者ハ此一人ノ債權者カ其權利ヲ失ハサリシナラハ第五百一條第四項、第五百十五條第二項、第五百二十一條第三項第四項ノ規定ニ從ヒ其一人ノ債權者ニ分與ス可キ利益ニ付キ其訴追ヲ受ケタル債務者ニ對シテ計算ヲ爲ス

第四百四十六條 債權者ノ一人ノ爲シタル付遲滯其他ノ保存ノ行爲ハ他ノ債權者ヲ利ス

又債權者ノ一人ノ利益ノ爲メニ時効ヲ停止スル適法ノ原因アルトキハ他ノ債權者ノ利益ノ爲メ之ヲ停止ス

第四百四十七條 債務者ノ一人ハ他ノ債務者ノ負擔ヲ加重スルコトヲ得ス又債務者ノ一人ニ對スル付遲滯ハ之ヲ以テ他ノ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

然レトモ債務者ノ一人ニ對抗スルゴトヲ得ヘキ時効ノ中斷又ハ停止ノ原因ハ之ヲ以テ他ノ債務者ニ對抗スルコトヲ得但債權者訴追ヲ受ケタル債務者ニ對シ時効ニ因リ義務ヲ免カレタル債務者ノ債務ノ部分ニ付キ計算ヲ爲ス

第四百四十八條 債務者ノ一人ノ過失ニ因リテ不可分ノ義務ヲ履行スルコトヲ得サルトキハ損害賠償又ハ過怠約款ハ過失者ノミ之ヲ負擔ス可分義務ノ全部ノ履行ヲ保スル爲メ過怠約款ヲ設ケタルトキト雖モ亦同シ

第四百四十九條 第四百四十一條ノ場合ニ於テ不可分義務ノ履行ノ爲メ訴ヲ受ケタル債務者ハ他ノ債務者ヲ訴訟ニ參加セシメ共ニ裁判ヲ受クル爲メ及ヒ之ニ對スル自己ノ求償ニ付キ裁判ヲ受クル爲メ期間ヲ請求スルコトヲ得

第三章 義務ノ消滅
第四百五十條 義務ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

- 第一 辨濟
- 第二 更改
- 第三 合意上ノ免除
- 第四 相殺

- 第五 混同
- 第六 履行ノ不能
- 第七 銷除
- 第八 廢罷
- 第九 解除

此他義務ハ免責時効ノ條件ノ具備スルトキハ之ヲ消滅シタルモノト看做ス

第一節 辨濟

第四百五十一條 辨濟ハ義務ノ本旨ニ從フノ履行ナリ

辨濟ハ下ノ第一款及ヒ第四款ニ記載シタル區別ニ從ヒテ單純ナル有リ代位ナル有

リ
數箇ノ債務アリテ只一箇ノ辨濟ヲ爲ストキハ第二款ニ從ヒテ債務ノ一箇又ハ數箇

ニ付キ辨濟ノ充當ヲ爲ス
債權者カ辨濟ヲ受クルコト能ハス又ハ欲セサルトキハ債務者ハ第三款ニ記載シタ

ル如ク提供及ヒ供託ノ方法ヲ以テ自ラ義務ヲ免カルルコトヲ得
債務者カ債權者ニ對シテ自己ノ財産ヲ委棄スルコトヲ得ル場合ハ民事訴訟法ヲ以

テ之ヲ規定ス

第一款 單純ノ辨濟

第四百五十二條 辨濟ハ債務者又ハ共同債務者ノ一人ヨリ有効ニ之ヲ爲ス外尙ホ保
證人又ハ抵當財産ヲ所持スル第三者ノ如キ附隨ノ義務者ヨリ有効ニ之ヲ爲スコト

ヲ得

又辨濟ハ利害ノ關係ナキ第三者ヨリ或ハ債務者ノ名ヲ以テ或ハ自己ノ名ヲ以テ之

ヲ爲スコトヲ得

第四百五十三條

利害ノ關係ヲ有スルト否トナ問ハス第三者ノ爲シタル辨濟ノ有効
ナル爲メニハ債權者ノ承諾ヲ必要トセス但作爲ノ義務ニ關シ債權者カ特ニ債務者

ノ一身ニ著眼シタルトキハ此限ニ在ラス

又債務者ノ承諾モ之ヲ必要トセス但利害ノ關係ヲ有セサル第三者ノ辨濟ニ付テハ

債務者又ハ債權者ノ承諾アルコトヲ要ス

第四百五十四條 辨濟シタル第三者ハ法律又ハ合意ニ依リ債權者ノ權利ニ代位シタ
ル場合ノ外其權ニ基キ下ノ區別ニ從ヒ債務者ニ對シ求償權ヲ有ス

第三者カ委任ヲ受ケタルトキハ其權限ノ範圍内ニ於テ辨濟シタル全額ノ爲メ求償
權ヲ有ス

事務管理ニテ辨濟ヲ爲シタルトキハ辨濟ノ日ニ於テ債務者ニ得セシメタル有益ノ
限度ニ從ヒ求償權ヲ有ス

債務者ノ意ニ反シテ辨濟ヲ爲シタルトキハ求償ノ日ニ於テ債務者ノ爲メ存在スル
有益ノ限度ニ非サレハ求償權ヲ有セス

第四百五十五條 義務カ定量物ノ所有權ノ移轉ヲ目的トスルトキハ其物ノ所有者ニ
シテ且之ヲ讓渡スノ能力アル者ニ非サレハ引渡其他ノ方法ヲ以テ辨濟ヲ爲スコト

ヲ得ス
他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ當事者各自ニ其辨濟ノ無効ヲ主張スルコトヲ得
讓渡スノ能力ナキ所有者カ物ヲ引渡シタルトキハ其所有者ノミ辨濟ノ無効ヲ請求
スルコトヲ得
右孰レノ場合ニ於テモ債務者ハ更ニ有効ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ引渡シタル物

ヲ取戻スコトヲ得ス

債權者カ辨濟トシテ受ケタル動產物ヲ善意ニテ消費シ又ハ讓渡シタルトキハ債務者ハ其取戻ヲ爲スコトヲ得ス

又債權者ハ他人ノ物ヲ以テセル辨濟ヲ認諾スルコトヲ得但眞ノ所有者ヨリ回復ヲ訴ヘタルトキハ債務者ニ對スル擔保ノ訴權ヲ妨ケス

第四百五十六條 辨濟ハ債權者又ハ其代人ニ之ヲ爲スコトヲ要ス辨濟領受ノ分限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟ト雖モ債權者カ之ヲ認諾シ又ハ之ニ因リテ利得シタルトキハ有効ナリ

第四百五十七條 眞ノ債權者ニ非サルモ債權ヲ占有セル者ニ爲シタル辨濟ハ債務者ノ善意ニ出テタルトキハ有効ナリ

表見ナル相續人其他ノ包括承繼人、記名債權ノ表見ナル讓受人及ヒ無記名證券ノ占有者ハ之ヲ債權ノ占有者ト看做ス

第四百五十八條 領受ノ能力ナキ債權者又ハ債權占有者ニ爲シタル辨濟ハ其債權者又ハ債權占有者ノ請求ニ因リテ之ヲ取消スコトヲ得但其利得シタル部分ニ付テハ此限ニ在ラス

第四百五十九條 民事訴訟法ニ從ヒ正當ニ爲シタル拂渡差押ノ後債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ス可キヲ債務者ニ強要スルコトヲ得但辨濟ヲ受ケタル債權者ニ對スル債務者ノ求償權ヲ妨ケス

第四百六十條 債權者ハ己レニ對シテ負擔シタル物ヨリ他ノ物ヲ辨濟トシテ受取ルノ責ニ任セス他ノ物ノ價格カ高キトキト雖モ亦同シ

債務者ハ其負擔シタル物ヨリ他ノ物ヲ與フル責ニ任セス請求ヲ受ケタル物ノ價格カ低キトキト雖モ亦同シ

代替物ヲ目的トセル債務ニ於テハ債務者ハ最良品ヲ與ヘ債權者ハ最惡品ヲ受取ル責ニ任セス

第四百六十一條 雙方一致ニテ物ヲ金錢ニ、金錢ヲ物ニ又ハ或ル物ヲ他ノ物ニ代ヘテ辨濟シ若クハ辨濟スルコトヲ諾約シタルトキハ原義務ヲ更改シタリト看做シ其行爲ハ場合ニ因リテ賣買又ハ交換ノ規則ニ從フ

第四百六十二條 特定物ノ債務者ハ引渡ヲ爲ス可キ時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スニ因リテ義務ヲ免カル但條件附ノ義務ノ危險ニ關スル第四百十九條ノ規定ヲ妨ケス義務者ノ費用ニテ物ヲ保存シ若クハ改良シ又ハ其過失若クハ懈怠ニ因リテ之ヲ毀損シタルトキハ償金ハ上ノ第一章第二節第三節ニ從ヒテ當事者互ニ之ヲ負擔ス

第四百六十三條 金錢ヲ目的トセル債務ニ於テハ債務者ハ其選擇ヲ以テ金若クハ銀ノ國貨又ハ強制通用ノ紙幣ヲ與ヘテ義務ヲ免カル

債務者ハ法律ニ依リ貨幣ノ名價又ハ其純分ノ割合ニ變更ヲ生スルモ諾約シタル數額ヨリ多ク又ハ少ク負擔セス

本條ノ規則ニ違背スル合意ハ無効ナリ但第四百六十五條第二項ノ規定ヲ妨ケス

第四百六十四條 右ニ反シ辨濟期ニ於テ諸種ノ貨幣ノ爲替相場ヨリ生ス可キ相互ノ高低ノ差ハ債務者ノ選擇スル法律上ノ貨幣ヲ以テスル平均價額ノ辨濟ニ因リテ當事者ノ間ニ之ヲ填補スル合意ヲ爲スコトヲ得

第四百六十五條 金貨又ハ銀貨ヲ以テ負擔ノ金額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ獨リ爲替相場ノ損益ヲ受ケ法律上ノ他ノ貨幣ヲ以テ義務ヲ免カルコトヲ得

金貨又ハ銀貨ヲ以テ負擔ノ金額ヲ辨濟ス可キコトノ要約アリタルトキモ亦同シ
外國ノ貨幣ヲ以テ辨濟ヲ爲ス可キコトヲ合意シタルトキハ債務者ハ右ノ規定ニ從
ヒ自己ノ選擇スル法律上ノ貨幣ヲ以テ其外國ノ貨幣ノ價額ヲ辨濟シテ義務ヲ免カ
ルコトヲ得

第四百六十六條 銅貨及ヒ補助銀貨ハ特別法ニ定メタル數額ヨリ多ク辨濟トシテ之
ヲ與フルコトヲ得ス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第四百六十七條 金錢ノ貸借ニ特別ナル規則ハ財產取得編第百八十五條ニ之ヲ定ム
第四百六十八條 辨濟ノ場所ノ定ナキトキハ辨濟ハ債務者ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス但
後ニ掲グル或ル契約ノ場合及ヒ第三百三十三條ニ掲ケタル規定ハ此限ニ在ラス

自己ノ住所ニ於テ辨濟ノ有ル可キ當事者カ詐欺ナクシテ轉住シタルトキハ辨濟ハ
其新住所ニ於テ之ヲ爲ス但其當事者ハ爲替相場ノ差額及ヒ人ノ往復若クハ物ノ運
送ノ補足費用ヲ一方ノ當事者ニ拂フコトヲ要ス

辨濟ノ其他ノ費用ハ債務者之ヲ負擔ス
第四百六十九條 辨濟ノ期日カ一般ノ休日ナルトキハ辨濟ハ其翌日ニ非サレハ之ヲ
要求スルコトヲ得ス

第二款 辨濟ノ充當

第四百七十條 一人ノ債權者ニ對シテ一様ノ性質ナル數箇ノ債務ヲ有スル債務者
カ總債務ヲ全消スルコトヲ得サル辨濟ヲ爲ストキハ債務者ハ辨濟ノ時ニ於テ其孰
レノ債務ニ充當セントスル意ヲ述ヘ且此充當ヲ受取證書ニ記入セシムルコトヲ得
然レ債務者ハ債權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ債權者ノ利益ノ爲メ定メタル期限ノ
至ラサル債務ニ充當ヲ爲シ又費用及ヒ利息ニ先タチテ元本ニ充當ヲ爲シ又一分ツ

ツ數箇ノ債務ニ充當ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十一條 債務者カ有効ナル充當ヲ爲ササルトキハ債權者ハ受取證書ニ於テ
自由ニ辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ得但財產取得編第百二十九條ノ會社契約ニ關スル
規定ヲ妨ケス

債務者カ異議ナク又ハ異議ヲ留メスシテ受取證書ヲ受取リタルトキハ債務者ハ自
己ノ錯誤又ハ債權者ノ欺瞞アリタルニ非サレハ充當ヲ非難スルコトヲ得ス

第四百七十二條 債務者及ヒ債權者カ有効ニ充當ヲ爲ササルトキハ當然左ノ如ク充
當ス

第一 期限ノ至リタル債務ヲ先ニシ期限ノ至ラサル債務ヲ後ニス

第二 費用及ヒ利息ヲ先ニシ元本ヲ後ニス

第三 總債務カ期限ニ至リ又ハ至ラサルトキハ債務者ノ爲メ最モ辨濟ノ利益ア
ル債務ヲ先ニス

第四 債務者カ辨濟ノ先後ニ付キ利益ヲ有セサルトキハ期限ノ最モ先ニ至リタ
ル又ハ至ル可キ債務ヲ先ニス

第五 總債務カ何レノ點ニ於テモ相同シキトキハ充當ハ各債務ノ額ニ應シテ之
ヲ爲ス

第四百七十三條 辨濟充當ノ規定ハ交互計算上ノ振込ニ之ヲ適用セス此振込ハ振込
人ノ貸方ニ之ヲ記入ス

第三款 辨濟ノ提供及ヒ供託

第四百七十四條 債權者カ辨濟ヲ受クルヲ欲セス又ハ之ヲ受クル能ハサルトキハ債
務者ハ左ノ區別ニ從ヒ提供及ヒ供託ヲ爲シテ義務ヲ免ガルコトヲ得

第一 債務カ金錢ヲ目的トスルトキハ提供ハ貨幣ヲ提示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二 債務カ特定物ヲ目的トシ其存在スル場所ニ於テ引渡サル可キトキハ債務者ハ其物ノ引取ノ爲メ債權者ニ催告ヲ爲ス

第三 特定物ヲ債權者ノ住所其他ノ場所ニ於テ引渡ス可クシテ其運送カ多費、困難又ハ危険ナルトキハ債務者ハ合意ニ從ヒテ引渡ヲ即時ニ實行スル準備ヲ爲シタルコトヲ提供中ニ述フ定量物ニ關シテモ亦同シ

第四 債權者ノ立會又ハ參同ヲ要スル作爲ノ義務ニ關シテハ債務者カ義務履行ノ準備ヲ爲シタルコトヲ述フルヲ以テ足ル

第四百七十五條 提供ハ前條ノ外上ニ定メタル辨濟ニ必要ナル條件ヲ具備シ且特別法ニ定ムル方式ニ從フニ非サレハ有効ナラス

第四百七十六條 時期ヲ失セス且有効ニ爲シタル提供ハ法律ヲ以テ規定シ若クハ合意ヲ以テ要約シタル失權、解除及ヒ責罰ヲ豫防ス

此提供ハ付遲滞ヲ防止シ又既ニ付遲滞ノ存セルトキハ將來ニ向ヒテ其効力ヲ止メ且遲延利息ヲ停ム

第四百七十七條 債權者カ提供ヲ受諾セサルトキハ債務者ハ供託ノ日マテニ債務ニ生シタル填補利息ト共ニ辨濟ノ金額ヲ供託所ニ供託スルコトヲ得

特定物又ハ定量物ニ付テハ債務者ハ其物ヲ供託ス可キ場所ヲ指定スルコト及ヒ其保管人ヲ選任スルコトヲ裁判所ニ請求ス

供託ノ方式及ヒ條件ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス
第四百七十八條 有効ニ屬シタル供託ハ債務者ニ義務ヲ免カレシメ且債務者カ意外

ノ事ニ任シタルトキト雖モ其物ノ危険ヲ債權者ニ歸セシム
然レトモ債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ其供託カ債務者ノ請求ニテ既判力ヲ有スル判決ニ因リテ有効ト宣告セラレサル間ハ債務者ハ其供託物ヲ引取ルコトヲ得但此場合ニ於テハ義務ハ舊ニ依リ存在ス

右ノ受諾又ハ判決アリタル後ト雖モ債務者ハ債權者ノ承諾ヲ以テ供託物ヲ引取ルコトヲ得然レトモ共同債務者及ヒ保證人ノ義務解脫ヲモ質權及ヒ抵當權ノ消滅ヲモ供託物ニ付キ債權者ノ債權者カ爲シタル拂渡差押ヲモ妨碍スルコトヲ得ス

第四款 代位ノ辨濟

第四百七十九條 代位ヲ以テ第三者ノ爲シタル辨濟ハ債權者ニ對シテ債務者ニ義務ヲ免カレシメ且其債權及ヒ之ニ附著セル擔保ト効力トヲ其第三者ニ移轉ス但場合ニ從ヒテ第三者ノ有スル事務管理又ハ代理ノ訴權ヲ妨ケス

代位ハ下ノ區別ニ從ヒテ債權者若クハ債務者ヨリ之ヲ許與シ又ハ法律ヲ以テ之ヲ付與ス

第四百八十條 債權者ノ許與シタル代位ハ受取證書ニ之ヲ明記スルニ非サレハ有効ナラス但第三者カ辨濟ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルヤ否ヤヲ區別スルコトヲ要セス又自己ノ名ニテ辨濟スルカ債務者ノ名ニテ辨濟スルカヲ區別スルコトヲ要セス

第四百八十一條 債務者ハ其債務ノ辨濟ニ必要ナル金額又ハ有價物ヲ己レニ貸與シタル第三者ヲシテ債權者ノ承諾ナク其權利ニ代位セシムルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ借用證書ニハ其金額又ハ有價物ノ用方ヲ記載シ受取證書ニハ其出所ヲ記載ス

ヲ許サス
然レトモ借用ト辨濟トノ間ニ不相當ナル長キ時間ノ經過シタルトキハ裁判所ハ代位
ヲ不成立ト宣告スルコトヲ得

第四百八十二條 代位ハ左ノ者ノ利益ノ爲メ當然成立ス

第一 他人ト共ニ又ハ他人ノ爲メニ義務ヲ負擔シタルニ因リ其義務ヲ辨濟スル

ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者及ヒ先取特權又ハ抵當權ヲ負擔スル財産ノ第三
所持者トシテ他人ノ義務ヲ辨濟スルニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者

第二 或ハ抵當訴權ヲ豫防スル爲メ或ハ不動産ノ差押又ハ契約解除ノ請求ヲ止
ムル爲メ他ノ債權者ニ辨濟シタル債權者

第三 自己ノ財産ヲ以テ相續ノ債務ノ全部又ハ一分ヲ辨濟シタル善意ナル表見
ノ相續人

第四百八十三條 前三條ニ依リテ代位シタル者ハ債權ノ効力又ハ擔保トシテ債權者
ニ屬セシ總テノ對人及ヒ物上ノ權利及ヒ訴權ヲ行フコトヲ得但左ニ掲グル場合ヲ
例外トス

第一 當事者カ代位者ニ移轉セシ權利及ヒ訴權ヲ制限シタルトキハ其制限ニ從
フ

第二 保證人ハ債務ヲ辨濟シ債權擔保編第三十六條ノ規定ニ從ヒタルトキニ非
サレハ第三所持者ニ對シテ代位セス

第三 第三所持者カ債務ヲ辨濟シタルトキハ保證人ニ對シテ代位セス

第四 一箇ノ債務ノ抵當ト爲リタル數箇ノ不動産カ各別ニ數箇ノ第三所持者ノ
手ニ存スル場合ニ於テ其一人カ債務ヲ辨濟シタルトキハ各不動産ノ價額ノ割

合ニ應スルニ非サレハ他ノ第三所持者ニ對シテ代位ノ權ヲ行フコトヲ得ス
第五 互ニ擔保人タル共同債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シタルトキハ辨濟者ハ他
ノ債務者カ分擔ス可キ債務ノ限度ニ應スルニ非サレハ其各自ニ對シテ代位セ
ス

第四百八十四條 代位者ハ自己ノ支拂ヒタル金額ヲ超エテ債權者ノ訴權ヲ行フコト
ヲ得ス

第四百八十五條 代位ハ原債權者ヲ害セサルコトヲ要ス
數箇ノ債權ヲ有スル者ハ其一箇ニ係ル代位辨濟カ他ノ債權ノ擔保ヲ減スルトキハ
之ヲ拒ムコトヲ得

第四百八十六條 代位辨濟カ債務ノ一分ノミニ係ルトキハ代位者ハ自己ノ辨濟ノ割
合ニ應シテ原債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

然レトモ原債權者ハ全部ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ獨リ契約ノ解除ヲ行フ但代位者
ニ賠償スルコトヲ要ス

第四百八十七條 代位辨濟ニ因リテ全部ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ハ債權ノ證書及ヒ
質物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス

債權者カ一分ノ辨濟ノミヲ受ケタルトキハ要用ニ應シテ代位者ニ證書ヲ示シ且質
物ノ保存ニ注意スルヲ之ニ許スコトヲ要ス

第四百八十八條 辨濟ノ有効、充當、提供及ヒ供託ニ關スル前三款ノ規定ハ代位辨濟
ニ之ヲ適用ス

第四百八十九條 更改即チ舊義務ノ新義務ニ變更スルコトハ左ノ場合ニ於テ成ル

第二節 更改

第一 當事者カ義務ノ新目的ヲ以テ舊目的ニ代フル合意ヲ爲ストキ
 第二 當事者カ義務ノ目的ヲ變セスシテ其原因ヲ變スル合意ヲ爲ストキ
 第三 新債務者カ舊債務者ニ替ハルトキ
 第四 新債權者カ舊債權者ニ替ハルトキ
 第四百九十七條 當事者カ期限、條件又ハ擔保ノ加減ニ因リ又ハ履行ノ場所若クハ負擔物ノ數量、品質ノ變更ニ因リテ單ニ義務ノ體様ヲ變スルトキハ之ヲ更改ト爲サス
 商證券ヲ以テスル債務ノ辨濟ハ其證券ニ債務ノ原因ヲ指示シタルトキハ更改ヲ成サス從來ノ債務ノ追認ハ其證書ニ執行文アルトキト雖モ亦同シ
 第四百九十一條 債權者ハ其債權及ヒ擔保ヲ有償ニテ處分スル能力ヲ有スルニ非サレハ更改ヲ承諾スルコトヲ得ス
 右規定ハ合意上、法律上又ハ裁判上ノ管理人及ヒ代理人ニ之ヲ適用ス
 第四百九十二條 更改ノ意思ハ債權者ニ在テハ之ヲ推定セス明カニ證書又ハ事情ヨリ見ハルルコトヲ要ス
 然レトモ同一ノ當事者間ニ於テ義務ノ更改アリタルカニ箇ノ義務ノ共ニ存スルカノ疑アルトキハ第三百六十條ニ依リテ債務者ノ利益ノ爲メニ更改ノ意義ニ解釋ス
 第四百九十三條 舊義務カ停止又ハ解除ノ條件附ナリシトキハ更改ハ同一ノ條件ニ從フモノトノ推定ヲ受ク
 又新義務カ條件附ナルトキハ更改ハ停止條件ノ成就シタルトキ又ハ解除條件ノ成就セサルトキニ非サレハ成ラス
 右孰レノ場合ニ於テモ當事者カ單純ナル更改ヲ爲サント欲シタル證據アルトキハ

此限ニ在ラス

第四百九十四條 舊義務カ初ヨリ法律上成立セス又ハ法律ノ定ムル原因ニ由リテ消滅シ若クハ取消サレタルトキハ更改ハ無効ニシテ新義務ハ成立セス
 又新義務カ其成立及ヒ有効ニ要スル法律上ノ條件ヲ具備セサルトキハ舊義務ハ存在ス
 右孰レノ場合ニ於テモ當事者カ自然義務ヲ法定義務ニ又ハ法定義務ヲ自然義務ニ變セント欲シタル證據アルトキハ此限ニ在ラス
 第四百九十五條 舊義務ヲ更改スル爲メ異議ナク又ハ異議ヲ留メスシテ有効ニ新義務ヲ諾約シタル債務者ハ其了知セル舊義務ノ無効ノ理由ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス
 債務者カ次條ニ從ヒ舊債權者ノ囑託ニ因リ新債權者ニ對シテ義務ヲ諾約シタルトキモ亦同シ
 第四百九十六條 債務者ノ交替ニ因ル更改ハ或ハ舊債務者ヨリ新債權者ニ爲セル囑託ニ因リ或ハ舊債務者ノ承諾ナクシテ新債務者ノ隨意ノ干涉ニ因リテ行ハル囑託ニハ完全ノモノ有リ不完全ノモノ有リ
 第三百九十七條 債權者カ明カニ第一ノ債務者ヲ免スルノ意思ヲ表シタルトキニ非サレハ囑託ハ完全ナラスシテ更改ハ行ハレス此意思ノ無キトキハ囑託ハ不完全ニシテ債權者ハ第一第二ノ債務者ヲ連帶ニテ訴追スルコトヲ得
 第三百ノ隨意干涉ノ場合ニ於テ債權者カ舊債務者ヲ免シタルトキハ除約ニ因ル更改行ハル之ニ反セル場合ニ於テハ單一ノ補約成リテ債權者ハ債務ノ全部ニ付キ第

二ノ債務者ヲ得然レトモ此債務者ハ連帯ノ義務ニ任セス
第四百九十八條 完全囑託及ヒ除約ノ場合ニ於テ新債務者カ債務ヲ辨濟スルコトヲ
得サルトキハ債權者ハ囑託又ハ除約ノ當時ニ於テ新債務者ノ既ニ無資力タリシコ
トヲ知ラサルニ非サレハ舊債務者ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有セス但特別ノ合意ヲ
以テ此擔保ヲ伸縮スルコトヲ得

第四百九十九條 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ債務者ト新舊債權者トノ承諾アルニ非
サレハ成ラズ

第五百一條 債權者カ第五百三條ニ定ムル如ク其債權ノ物上擔保ヲ留保シテ或ハ他
人ヲ惠ム爲メ或ハ他人ニ對スル債務ヲ免カサル爲メ其人ニ囑託シテ自己ノ債務者
ヨリ辨濟ヲ受ケシムルトキハ其受囑託人ハ債權ノ讓渡ニ關スル第三百四十七條ノ
規定ニ從フニ非サレハ第三者ニ對シテ其債權ヲ主張スルコトヲ得ス

第五百一條 債權者ト連帯債務者ノ一人又ハ不可分債務者ノ一人トノ間ニ爲シタル
更改ハ他ノ債務者及ヒ保證人ナシテ其義務ヲ免カレシム

然レトモ債權者カ右共同債務者及ヒ保證人ノ新義務ニ同意スルコトヲ更改ノ條件
ト爲シタル場合ニ於テ共同債務者及ヒ保證人ノ之ヲ拒ムトキハ更改ハ成立セス
連帯債權者ノ一人ト爲シタル更改ハ其債權者ノ部分ニ付テノミ債務者ナシテ義務
ヲ免カレシム性質ニ因ル不可分債務ノ債權者ノ一人ト更改ヲ爲シタルトキハ他ノ
債權者ハ全部ニ付キ訴追ノ權利ヲ有ス但第四百四十五條ニ從ヒ計算ヲ爲スコトヲ
要ス

第五百二條 保證人ト爲シタル更改ハ反對ノ意思アル證據ナキトキハ保證ニ付テノ

ミ之ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ケ主タル債務者ニモ他ノ保證人ニモ義務ヲ免カレシ
メス

第五百三條 舊債權ノ物上擔保ハ新債權ニ移ラス但債權者之ヲ留保スルトキハ此限
ニ在ラス

此留保ハ共同債務者、保證人又ハ第三所持者ノ手ニ存スル擔保負擔ノ財產ニモ之
ヲ行フコトヲ得

此留保ニ付テハ更改ノ相手方ノ承諾ノミヲ必要トス
右ノ場合ニ於テ財產ハ舊債務ノ限度ヲ超エテ擔保ヲ負擔セス

第三節 合意上ノ免除

第五百四條 債務ノ全部又ハ一分ニ付テノ合意上ノ免除ハ有償又ハ無償ニテ之ヲ爲
スコトヲ得

有償ノ免除ハ事情ニ從ヒテ代物辨濟、更改、和解又ハ解除ヲ成ス又無償ノ免除ハ贈
與ヲ成ス然レトモ公式ノ特別規則ニ從フコトヲ要セス

協諸契約ヲ以テ破産シタル債務者ニ許與スル一分ノ免除ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス
第五百五條 債務ノ免除ハ明示又ハ默示ヨリ成リ推定ヨリ成ラス但法律ニ特定シタ
ル場合ハ此限ニ在ラス

第五百六條 主タル債務者ニ爲シタル債務ノ免除ハ保證人ナシテ其義務ヲ免カレシ
ム

連帯債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ハ他ノ債務者ナシテ其義務ヲ免カレシム
但債權者カ他ノ債務者ニ對シテ其權利ヲ留保シタル場合ハ此限ニ在ラス此場合ニ

於テモ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ控除スルコトヲ要ス
 不可分債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ニ付テモ亦同シ然レトモ性質ニ因ル不
 可分債務ノ債權者カ他ノ債務者ニ對シテ其權利ヲ留保シタルトキハ債權者ハ先ツ
 全部ニ付其權利ヲ行ヒ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ計算ス
 第五百七條 保證人ノ一人ニ爲シタル主タル債務ノ免除ハ債務者及ヒ他ノ保證人ヲ
 シテ其債務ヲ免カレシム
 第五百八條 債務ノ免除ヲ受ケタル債務者及ヒ保證人ハ債權者ヨリ共通ノ免除ヲ得
 ル爲メ實際供與シタル數額ニ付テノミ他ノ共同債務者及ヒ共同保證人ニ對シテ求
 債權ヲ有ス
 第五百九條 共同債務者ノ一人ニ對シテ連帶ノミ又ハ任意ノ不可分ノミノ免除アリ
 タルトキハ其一人ナシテ他ノ債務者ノ部分ヲ免カレシメ且他ノ債務者ナシテ其
 一人ノ部分ヲ免カレシム
 性質ニ因ル不可分ノミノ免除ニ付テハ債權者ハ債務者ノ各自ニ對シテ全部ノ要求
 ナ爲ス權利ヲ失ハス但免除ヲ受ケタル債務者ノ負擔ス可キ債額ヲ計算スルコトヲ
 要ス
 又債權者ハ免除ヲ受ケタル債務者ニ對シテ全部ノ要求ヲ爲スコトヲ得但他ノ債務者
 ノ負擔ス可キ債額ヲ計算スルコトヲ要ス
 第五百十條 債權者ハ左ノ場合ニ於テハ債務者ノ一人ニ對シテ連帶ノミ又ハ任意ノ
 不可分ノミヲ免除シタルトノ推定ヲ受ク
 第一 債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ヨリ其債務ノ部分ナリ
 ト明言シタル金額又ハ有價物ヲ受取リタルトキ
 第二 債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ニ對シ其債務ノ部分ナ
 リト稱シテ裁判上ノ請求ヲ爲シタル其一人請求ニ承服シ又ハ辨濟ヲ爲ス
 可キ旨ノ言渡ヲ受ケタルトキ
 第三 債權者カ異議ヲ留メスシテ十年間引續キ債務者ノ一人ヨリ其負擔ス可
 キ利息又ハ年金ノ部分ヲ受取リタルトキ
 第五百十一條 保證人ノ一人ニ保證ヲ免除シタルトキハ主タル債務者ハ其債務ヲ免
 カレス他ノ保證人ハ保證ノ免除ヲ受ケタル一人ノ部分ニ付キ其義務ヲ免カル然レ
 トモ保證人ノ間ニ連帶ヲ爲セル場合ニ於テ債權者カ第五百六條第二項ニ記載シタ
 ル如ク他ノ保證人ニ對シテ自己ノ權利ヲ留保セサルトキハ他ノ保證人ナシテ其義
 務ヲ免カレシム
 第五百十二條 債權者ノ質又ハ抵當ノ拋棄ハ其債權ヲ減セス然レトモ連帶債務者又
 ハ保證人ハ其拋棄ニ因リテ此等ノ擔保ニ代位スルコトヲ妨ケラレタルカ爲メ債權
 擔保編第四十五條及ヒ第七十二條ニ依リ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコ
 トヲ得
 第五百十三條 共同債務者ノ一人カ連帶若クハ不可分ノミノ免除ヲ得ル爲メ又ハ保
 證人ノ一人カ保證ノ免除ヲ得ル爲メ債權者ニ出捐ヲ爲シタルモ其債務ヲ減セス且
 他ノ共同債務者又ハ共同保證人ニ對シテ求債權ヲ有セス
 第五百十四條 特定物ヲ引渡スノミ又ハ返還スルノミヲ義務ヲ免除スルモ債務者ノ
 利益ニ於テ讓戻又ハ讓渡ヲ惹起セス其所有者ハ回復ノ權利ヲ失ハス
 第五百十五條 連帶債務者ノ一人ノ爲シタル債務又ハ連帶ノミノ免除ハ單ニ其一人

於テモ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ控除スルコトヲ要ス
 不可分債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ニ付テモ亦同シ然レトモ性質ニ因ル不
 可分債務ノ債權者カ他ノ債務者ニ對シテ其權利ヲ留保シタルトキハ債權者ハ先ツ
 全部ニ付其權利ヲ行ヒ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ計算ス
 第五百七條 保證人ノ一人ニ爲シタル主タル債務ノ免除ハ債務者及ヒ他ノ保證人ヲ
 シテ其債務ヲ免カレシム
 第五百八條 債務ノ免除ヲ受ケタル債務者及ヒ保證人ハ債權者ヨリ共通ノ免除ヲ得
 ル爲メ實際供與シタル數額ニ付テノミ他ノ共同債務者及ヒ共同保證人ニ對シテ求
 債權ヲ有ス
 第五百九條 共同債務者ノ一人ニ對シテ連帶ノミ又ハ任意ノ不可分ノミノ免除アリ
 タルトキハ其一人ナシテ他ノ債務者ノ部分ヲ免カレシメ且他ノ債務者ナシテ其
 一人ノ部分ヲ免カレシム
 性質ニ因ル不可分ノミノ免除ニ付テハ債權者ハ債務者ノ各自ニ對シテ全部ノ要求
 ナ爲ス權利ヲ失ハス但免除ヲ受ケタル債務者ノ負擔ス可キ債額ヲ計算スルコトヲ
 要ス
 又債權者ハ免除ヲ受ケタル債務者ニ對シテ全部ノ要求ヲ爲スコトヲ得但他ノ債務者
 ノ負擔ス可キ債額ヲ計算スルコトヲ要ス
 第五百十條 債權者ハ左ノ場合ニ於テハ債務者ノ一人ニ對シテ連帶ノミ又ハ任意ノ
 不可分ノミヲ免除シタルトノ推定ヲ受ク
 第一 債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ヨリ其債務ノ部分ナリ
 ト明言シタル金額又ハ有價物ヲ受取リタルトキ
 第二 債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ニ對シ其債務ノ部分ナ
 リト稱シテ裁判上ノ請求ヲ爲シタル其一人請求ニ承服シ又ハ辨濟ヲ爲ス
 可キ旨ノ言渡ヲ受ケタルトキ
 第三 債權者カ異議ヲ留メスシテ十年間引續キ債務者ノ一人ヨリ其負擔ス可
 キ利息又ハ年金ノ部分ヲ受取リタルトキ
 第五百十一條 保證人ノ一人ニ保證ヲ免除シタルトキハ主タル債務者ハ其債務ヲ免
 カレス他ノ保證人ハ保證ノ免除ヲ受ケタル一人ノ部分ニ付キ其義務ヲ免カル然レ
 トモ保證人ノ間ニ連帶ヲ爲セル場合ニ於テ債權者カ第五百六條第二項ニ記載シタ
 ル如ク他ノ保證人ニ對シテ自己ノ權利ヲ留保セサルトキハ他ノ保證人ナシテ其義
 務ヲ免カレシム
 第五百十二條 債權者ノ質又ハ抵當ノ拋棄ハ其債權ヲ減セス然レトモ連帶債務者又
 ハ保證人ハ其拋棄ニ因リテ此等ノ擔保ニ代位スルコトヲ妨ケラレタルカ爲メ債權
 擔保編第四十五條及ヒ第七十二條ニ依リ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコ
 トヲ得
 第五百十三條 共同債務者ノ一人カ連帶若クハ不可分ノミノ免除ヲ得ル爲メ又ハ保
 證人ノ一人カ保證ノ免除ヲ得ル爲メ債權者ニ出捐ヲ爲シタルモ其債務ヲ減セス且
 他ノ共同債務者又ハ共同保證人ニ對シテ求債權ヲ有セス
 第五百十四條 特定物ヲ引渡スノミ又ハ返還スルノミヲ義務ヲ免除スルモ債務者ノ
 利益ニ於テ讓戻又ハ讓渡ヲ惹起セス其所有者ハ回復ノ權利ヲ失ハス
 第五百十五條 連帶債務者ノ一人ノ爲シタル債務又ハ連帶ノミノ免除ハ單ニ其一人

ノ部分ニ付キ之ヲ以テ他ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得
債務カ性質ニ因ル不可分ナルトキハ債權者ノ一人ノ爲シタル免除ハ他ノ債權者ヲ
害スルコトヲ得ス他ノ債權者ハ第四百四十五條及ヒ第五百六條ノ規定ニ從ヒテ全
債權ヲ行フ

第五百十六條 債權者カ債務者ノ義務ヲ記載シタル本證書ヲ任意ニテ債務者ニ交付
シタルトキハ其證書ニ免除ノ旨ヲ附記セスト雖モ債權者ハ債務ノ免除ヲ爲シタリ
トノ推定ヲ受ク但債權者ノ反對ノ意思ヲ證スル權利ヲ妨ケス

公正證書ノ正本又ハ判決書ノ正本ノ任意ノ交付ハ其書類ニ執行文ヲ具備スルモ債
務ノ免除ヲ推定セシムルニ足ラス但裁判所カ事情ニ從ヒテ其免除ヲ推測スルコト
ヲ妨ケス

債務者カ右ノ書類ヲ所持スルトキハ反對ノ證據アルマテハ債權者ヨリ任意ノ交付
アリタリトノ推定ヲ受ク

第五百十七條 債權者カ證書ノ全文又ハ債務者ノ署名其他緊要ナル部分ヲ有意ニテ
毀滅シ扯破シ又ハ抹殺シタルトキハ前條ノ區別ニ從ヒテ任意ノ交付ニ準シ債務ノ
免除アリタリトノ推定ス

右毀滅、扯破又ハ抹殺其當時證書カ債權者ノ占有ニ係リシトキハ反對ノ證據アル
マテ債權者ノ所爲又ハ其承諾ニ出テタリトノ推定ヲ受ク

第五百十八條 債務ノ免除ハ明示ナルト默示ナルト又直接ニ證スルト法律上推定ス
ルトトナ問ハス反對ノ證據アルマテ有償ニテ之ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ク
然レトモ授受スル相對能力ナキ者ノ間ニ於ケル免除ハ有償ニテ之ヲ爲シタリトノ
直接ノ證據ヲ舉グルコトヲ要ス

第四節 相 殺

第五百十九條 二人互ニ債權者タリ債務者タルトキハ下ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ法
律上、任意上又ハ裁判上ノ相殺成立ス

相殺ハ二箇ノ債務ヲシテ其寡少ナル債務ノ數額ニ滿ツルマテ消滅セシム
第五百二十條 二箇ノ債務カ主タルモノ互ニ代替スルヲ得ヘキモノ明確ナルモノ及
ヒ要求スルヲ得ヘキモノニシテ且法律ノ規定又ハ當事者ノ明示若クハ默示ノ意思
ヲ以テ共相殺ヲ禁セサルトキハ當事者ノ不知ニテモ法律上ノ相殺ハ當然行ハル

第五百二十一條 主タル債務者ハ自己ノ債務ト債權者カ保證人ニ對シテ負擔スル債
務トノ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得然レトモ訴追ヲ受ケタル保證人ハ
債權者カ主タル債務者又ハ自己ニ對シテ負擔スル債務ノ相殺ヲ以テ對抗スルコト
ヲ得

連帶債務者ハ債權者カ其連帶債務者ノ他ノ一人ニ對シ負擔スル債務ニ關シテハ其
一人ノ債務ノ部分ニ付テニ非サレハ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得然レトモ自己
ノ權ニ基キ相殺ヲ以テ對抗スルコトキハ全部ニ付キ之ヲ申立ツルコトヲ得

數人ノ連帶債權者アルトキ債務者ハ債權者ノ一人カ自己ニ對シテ負擔スル債務ノ
相殺ヲ以テ訴追者ニ對抗スルコトヲ得

債務カ債務者ノ間又ハ債權者ノ間ニ於テ任意不可分ナルトキハ相殺ハ受方又ハ働
方ノ連帶ニ於ケルト同一ノ方法ニ從フ又性質ニ因ル不可分ノ債務ナルトキハ第四
百四十五條ノ規定ニ從フ

第五百二十二條 當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ地方市場ノ相場アル日用品ノ定期
ノ供與ヲ負擔シタルトキハ其供與ハ他ノ一方ノ負擔スル金錢ト相殺スルコトヲ得

第五百二十三條 債務ノ成立、其目的ノ性質及ヒ分量カ確實ナルトキハ其債務ハ善意ニテ爭ハルルトキト雖モ之ヲ明確ナリトス

第五百二十四條 裁判所ノ許與シタル恩惠上ノ期限ハ相殺ノ妨ヲ爲サズ債務者ノ要求ニ因リ無償ニテ債權者ノ許與シタル期限ニ付テモ亦同シ

二箇ノ債務ノ一カ解除條件附ナルトキト雖モ相殺ハ行ハル但其條件ノ成就シタルトキハ相殺モ亦解除ス

第五百二十五條 二箇ノ債務カ同一ノ場所ニ於テ又ハ同一ノ貨幣ヲ以テ辨濟ス可キモノニ非サルトキト雖モ相殺ハ行ハル但第一ノ場合ニ於テハ運送費又ハ爲替料ヲ計算シ第二ノ場合ニ於テハ兩替貨ヲ計算スルコトヲ要ス

第五百二十六條 左ノ場合ニ於テハ法律上ノ相殺ハ行ハレス

第一 債務ノ一カ他人ノ財産ヲ不正ニ取リタル原因ト爲ストキ

第二 消費ヲ許セル寄託物ノ返還ニ關スルトキ

第三 債權ノ一カ差押ブルコトヲ得サル有價物ヲ目的トスルトキ

第四 當事者ノ一方カ豫メ相殺ノ利益ヲ拋棄シタルトキ又ハ債權者ト爲ルニ當リ期望シタル目的カ相殺ノ爲メ達スルコトヲ得サルトキ

第五百二十七條 債權ノ讓受人カ其讓受テ債務者ニ告知シタルノミニテハ債務者ハ讓渡人ニ對シテ從來有セル法律上ノ相殺ヲ以テ讓受人ニ對抗スルノ權利ヲ失ハズ債務者カ讓渡人ニ對シテ既ニ得タル法律上ノ相殺ノ權利ヲ留保セスシテ讓渡ヲ受諾シタルトキハ債務者ハ讓受人ニ對シテ其權利ヲ申立ツルコトヲ得ス
右二箇ノ場合ニ於テ債務者カ相殺ヲ申立ツルコトヲ得サリシ金額又ハ有價物ヲ讓渡人ナシテ自己ニ償還セシムルノ權利ヲ妨ケス

第五百二十八條 拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ自己ノ債權者ニ對シテ差押後ニ取得シタル債權ノ相殺ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス

又從來有セル相殺ノ原因ニ付テモ拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ民事訴訟法ニ掲ケタル方式及ヒ期間ニ從ヒテ其原因ヲ述ヘタルニ非サレハ之ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス

右孰レノ場合ニ於テモ拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ差押ノ金額又ハ有價物ニ付キ自己ノ債權ノ辨濟ヲ得ル爲メ差押人ト共ニ配當ニ加入スル權利ヲ有ス

第五百二十九條 相殺ニ因リテ既ニ消滅シタル債務ヲ辨濟シタル者ハ不當利得ノ取戻權ノミヲ行フコトヲ得但次條ニ記載スル場合ハ此限ニ在ラス

第五百三十條 前三條ニ掲ケタル場合ニ於テ相殺ニ因リ既ニ消滅シタル債務ヲ讓受人若クハ差押人ノ利益ノ爲メ追認シ又ハ自己ノ債權者ニ辨濟シタル者ハ自己ノ舊債權ヲ擔保シタル保證、先取特權若クハ抵當ヲ申立ツルコトヲ得ス但既ニ行ハレタル相殺ヲ知ラサル正當ノ原因アリシコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テ舊債權ハ其性質ヲ以テ擔保ト共ニ復舊ス

第五百三十一條 任意上ノ相殺ハ法律カ法律上ノ相殺ヲ許ササル爲メ利益ヲ受クル一方ノ當事者ヨリ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得總テノ場合ニ於テ各利害關係人ノ承諾アルトキハ相殺ハ之ヲ合意上ノモノトス

任意上ノ相殺ハ既往ニ遡ルノ効ヲ有セス

第五百三十二條 裁判上ノ相殺ハ被告カ原告ニ對シテ自己ノ利益ノ爲メ債權ヲ追認セシメ又ハ清算セシムル主旨トスル反訴ノ方法ニ依リテ之ヲ求ムルコトヲ得
此場合ニ於テ裁判所ハ或ハ先ツ主ナル訴ヲ裁判シ或ハ二箇ノ訴ヲ併セテ裁判スル

コトヲ得

裁判上ノ相殺ハ之ヲ以テ對抗シタル日ニ遡リテ効チ有ス
第五百三十三條 當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ法律上又ハ裁判上ノ相殺ニ服スル數箇ノ債務チ有スルトキハ其債務チ相殺スル順序ハ第四百七十二條ニ掲ケタル辨濟ノ法律上ノ充當ノ規定ニ從フ
相殺カ任意上又ハ合意上ノモノナルトキハ辨濟ノ充當ハ第四百七十條及ヒ第四百七十一條ノ規定又ハ當事者ノ協議ニ從フ

第五節 混同

第五百三十四條 一箇ノ義務ノ債權者タリ及ヒ債務者タルノ分限カ相續等ニテ一人ニ併合シタルトキハ義務ハ混同ニ因リテ消滅ス
右ノ混同カ其以前ノ適法ノ原因ニ由リテ解除、銷除又ハ廢罷ヲ受ケタルトキハ義務ハ之ヲ消滅セサリシモノト看做ス

第五百三十五條 債權者カ連帶債務者ノ一人ニ相續シ又ハ連帶債務者ノ一人カ債權者ニ相續シタルトキハ連帶債務ハ其一人ノ部分ニ付テノミ消滅ス
混同カ連帶債權者ノ一人ト債務者トノ間ニ行ハレタルトキモ亦其混同ハ債務ノ一分ニ付テノミ成ル

第五百三十六條 義務カ性質ニ因ル不可分ナルトキハ債權者ノ一人ト債務者ノ一人トノ間ノ混同ハ他ノ者ノ利害ニ於テ其義務チ全存セシム然レトモ其混同チ得タル者ハ第四百四十五條ニ從ヒテ一分ノ債金チ供シ又ハ受取ルニ非サレハ全部ニ付キ訴追スルコトヲ得ス又ハ訴追セラルルコト無シ

第五百三十七條 二人ノ連帶債權者又ハ二人ノ連帶債務者ノ分限カ一人ニ併合シタルトキハ權利又ハ義務ノ消滅ナシ其身ニ就キ併合ノ成リタル者ハ或ハ自己ノ名或ハ己レカ相續シタル者ノ名ニテ全部ニ付キ訴追スルコトヲ得又ハ訴追セラルルコト有リ

第五百三十八條 保證人カ債權者ニ相續シ又ハ債權者カ保證人ニ相續シタルトキハ保證ハ其附從ノモノト共ニ消滅ス
債務者カ保證人ニ相續シ又ハ保證人カ債務者ニ相續シタルトキハ債權者ハ主タル債務者、共同保證人若クハ保證人ノ擔保人ニ對シ及ヒ保證ニ附著シタル質若クハ抵當ニ付キ其權利ニ變更ヲ受クルコト無シ

第六節 履行ノ不能

第五百三十九條 義務カ特定物ノ引渡チ目的トシタル場合ニ於テ其目的物カ債務者ノ過失ナク且付遲滯前ニ滅失シ紛失シ又ハ不融通物ト爲リタルトキハ其義務ハ履行ノ不能ニ因リテ消滅ス若シ義務カ定マリタル物中ノ數箇チ目的トシタル場合ニ於テ其一箇チモ引渡スコト能ハサルトキハ亦同シ
作爲又ハ不作爲ノ義務ハ其履行カ右ト同一ノ條件チ以テ不能ト爲リタルトキハ消滅ス

第五百四十條 債務者カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ル危險及ヒ災害チ擔任シ若クハ第三百三十六條及ヒ第三百八十四條ニ從ヒテ遲滯ニ付セラレタルトキハ其債務者ハ前條ノ原因ニ由ルモ其義務チ免カレス

第五百四十一條 債務者ハ自己ノ申立ツル意外ノ事又ハ不可抗力ヲ證スルノ責ニ任ス

債務者カ第三百三十五條第二項ニ依リテ其義務ヲ免カルル爲メ假令其物カ債權者ノ方ニ在ルモ亦滅失ス可カリシコトヲ申立ツルトキハ其證據ヲ舉グルコトヲ要ス
第五百四十二條 債務者カ履行ノ不能ニ因リテ義務ヲ免カレタルトキハ其債務者ハ已レノ受取ル可キ對價ニ付テハ其履行ノ爲メ既ニ出捐シタル限度ニ於テノミ權利ヲ有ス

第五百四十三條 物ノ全部又ハ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ其滅失ヨリ第三者ニ對シテ或ル補償訴訟權ノ生スルトキハ債權者ハ殘餘ノ物ヲ要求シ且此訴訟權ヲ行フコトヲ得
第七節 銷除

第五百四十四條 無能力者又ハ錯誤ニ因リテ承諾ヲ與ヘタル人又ハ強暴若クハ詐欺ニ因リテ承諾ヲ獲テタル人ノ約シタル義務ハ五午年ノ間ハ或ハ其人又ハ其代人ノ請求ニ因リ或ハ履行ノ訴ニ對シ此等ノ者ヨリ爲シタル抗辯ニ因リテ裁判上之ヲ銷除スルコトヲ得

第五百四十五條 右時効ノ期間ハ強暴ニ付テハ其強暴ノ止ムマテ錯誤ニ付テハ其錯誤ヲ覺知スルマテ詐欺ニ付テハ其詐欺ヲ發見スルマテ無能力ニ付テハ其無能力ノ止ムマテ之ヲ停止ス
然レトモ瘋癲者又ハ喪心ニ因ル禁治産者ノ合意ニ付テハ右時効ハ其者カ能力ヲ復シタル後其承諾シタル行爲ノ通知ヲ受ケ又ハ其行爲ヲ了知シタル時ヨリ進行ス
治産ヲ禁セラレタル處刑人ニ付テハ銷除ノ訴訟權及ヒ抗辯ハ自他ノ爲メ其刑期満了後ニ非サレハ時効ニ罹ラス

此他免責時効ノ停止及ヒ中斷ノ通常ノ原因ニ關スル規定ハ右時効ニ之ヲ適用ス
第五百四十六條 銷除訴訟權ヲ有セル人カ前條ノ期間ノ満了前ニ死亡シタルトキハ訴

權ハ其相續人ニ移轉ス
右ノ場合ニ於テ期間カ死亡者ニ對シテ未タ進行ヲ始メサリシトキハ相續人ノ訴訟權ハ其相續ノ時ヨリ時効ニ罹リ既ニ進行ヲ始メタルトキハ其殘期ヲ以テ時効ニ罹ル
但證據編第二百二十九條ニ記載セル停止ハ此限ニ在ラス

第五百四十七條 未成年者又ハ禁治産者ノ財者ニ關シ後見人ノ爲シタル合意及ヒ行爲ハ無能力者ノ利益ノ爲メ法律ノ定メタル方式及ヒ條件ヲ遵守セサリシトキハ之ヲ銷除スルコトヲ得
未成年者自治産ノ未成年者及ヒ准禁治産者ノ行爲ニ付テハ特別ナル方式及ヒ條件ニ依ラサリシトキ又禁治産者ノ行爲ニ付テハ何等ノ場合ヲ問ハス亦其行爲ヲ銷除スルコトヲ得

右規定ハ有能者ノ爲メニ許與セル銷除ノ訴訟權ヲ妨ケス
第五百四十八條 未成年者一人ニテ特別ナル方式又ハ條件ノ必要ナキ合意又ハ行爲ヲ承諾シタルトキハ銷除訴訟權ハ其未成年者ノ爲メ欠損アルトキニ非サレハ之ヲ受理セス

法律カ保佐人ノ立會ノミヲ要シタルトキ其立會ナクシテ自治産ノ未成年者及ヒ准禁治産者ノ爲シタル右ト同一ナル性質ノ行爲ニ對シ亦欠損ニ因ルニ非サレハ銷除訴訟權ヲ行フコトヲ得ス
欠損ハ行爲ノ時ニ於テ之ヲ見積リ其偶然ノ事件ヨリ生スルモノハ之ヲ算入セス

第五百四十九條 未成年者カ成年ナリト陳述シタルノミニシテ成年タルコトヲ信セシムル爲メ自ラ詐術ヲ用キサルトキハ其無能力又ハ欠損ニ因ル銷除訴訟權ヲ妨ケス
此他ノ無能力者ノ虛偽ノ陳述ニ付テモ亦同シ

第五百五十條 商業又ハ工業ヲ營ムノ許可ヲ得タル自治産ノ未成年者ハ其營業ニ關スル行爲ニ付テハ之ヲ成年者ト看做ス

然レトモ其未成年者ハ普通法ニ從フニ非サレハ不動産ヲ讓渡スコトヲ得ス

第五百五十一條 婦ノ行爲ハ配偶者ノ相互ノ權利及ヒ本分ニ關シ法律ニ定メタル場合ニ非サレハ婦又ハ夫ノ請求ニ因リテ之ヲ銷除スルコトヲ得ス

第五百五十二條 承諾ノ瑕疵ニ因リテ行爲ノ銷除ヲ得タル成年者ハ其行爲ニ因リテ既ニ受取リタル總テノ物ヲ返還スル責ニ任ス

無能力者ハ銷除ヲ得タル行爲ニ因リテ仍ホ現ニ己レヲ利スル物ノミヲ返還スル責ニ任ス

右返還ヲ要求スル訴權ハ通常ノ時効ニ因ルニ非サレハ消滅セス

第五百五十三條 不動産ノ讓渡カ無能力、錯誤又ハ強暴ノ瑕疵ニ因ル銷除ニ服スルトキハ第三百五十二條及ヒ第三百五十三條ノ區別及ヒ條件ニ從ヒ第三取得者ニ對シテ其銷除ヲ爲スコトヲ得

第五百五十四條 銷除訴權ハ第五百四十四條乃至第五百四十六條ニ定メタル時効ニ因リテ消滅スル外第五百四十五條ニ從ヒテ時効ノ進行ヲ始メタル後利害關係人カ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ヲ明示又ハ默示ニテ認諾シタルトキハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五百五十五條 明示ノ認諾ハ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ要旨及ヒ其銷除ノ原因ヲ記シ且銷除訴權ノ拋棄ヲ述ヘタル明白ナル證書ニ因リテ成ル
銷除ノ數箇ノ原因アルトキハ明示ノ認諾ハ特ニ證書ニ記シタル原因ニ付テノミ其効ヲ生ス

第五百五十六條 默示ノ認諾ハ左ノ行爲ニ因リテ成ル

第一 合意ノ全部若クハ一分ノ任意ノ履行

第二 異議ナキ又ハ異議ノ留保ナキ強制ノ執行

第三 更改

第四 物上又ハ對人ノ擔保ノ任意ノ供與

默示ノ認諾ハ債權者ニ在テハ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ履行ノ請求ニ因リ又ハ其合意ヲ以テ取得シタル物ノ全部若クハ一分ノ任意讓渡ニ因リテ成ル

第五百五十七條 認諾ハ銷除訴權ヲ有スル者ノ特定ノ承繼人ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第五百五十八條 初ヨリ無効ナル行爲ハ之ヲ認諾スルコトヲ得ス但第五百六十五條ニ掲ケタル規定ヲ妨ケス

第五百五十九條 算數、氏名、日附又ハ場所ノ錯誤ノ改正ヲ目的トスル訴權ハ時効ニ罹ルコト無シ但此訴權ノ附屬スル權利ノ時効ヲ妨ケス

第八節 廢 罷

第五百六十條 債權者ヲ詐害シテ約シタル義務ノ廢罷及ヒ廢罷訴權ノ時効ハ第三百四十條乃至第三百四十四條ノ規定ニ從フ

贈與者及ヒ其相續人ノ利益ノ爲メニ設ケタル特別ノ廢罷ハ贈與ニ關スル規定ニ從フ

第九節 解 除

第五百六十一條 義務ハ第四百九條、第四百二十一條及ヒ第四百二十二條ニ從ヒ明示ニテ要約シタル解除又ハ裁判上得タル解除ニ因リテ消滅ス

解除ヲ請求ス可キトキハ其解除訴權ハ通常ノ時効期間ニ從フ但法律ヲ以テ其期間ヲ短縮シタル場合ハ此限ニ在ラス

第四章 自然義務

第五百六十二條 自然義務ノ履行ハ訴ノ方法ニ依リテモ相殺ノ抗辯ニ依リテモ之ヲ要求スルコトヲ得ス其履行ハ債務者ノ任意ナルコトヲ要シ之ヲ其良心ニ委ス
第五百六十三條 債務者ノ任意ノ辨濟ハ不當ノ辨濟ナリトシテ之ヲ取戻スコトヲ得ス

自然義務ヲ辨濟シタル意思ノ證據カ事情ヨリ生スルニ於テハ辨濟ノ原因ヲ明示スルコトヲ要ス

第五百六十四條 自然義務ハ追認、更改又ハ質若クハ抵當ノ供與ノ目的タルヲ得右諸種ノ場合ニ於テ自然義務ハ通常ノ法定ノ効力ヲ生ス

第五百六十五條 自然義務ハ法定ノ承諾ヲ阻却スル錯誤ノ爲メ目的ノ指定ノ欠缺若クハ不足ノ爲メ又ハ必要ナル公式ノ欠缺ノ爲メ初ヨリ無効ナル合意ニ因リテ生スルコトヲ得

然レトモ公式ノ欠缺ノ爲メ無効ナル贈與ニ關シテハ贈與者自ラ自然義務ノ履行又ハ追認ヲ爲スコトヲ得ス其相續人又ハ承繼人ノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ方式上無効ナル遺言ヲ爲セル者ノ相續人ニ之ヲ適用ス

第五百六十六條 原因ノ欠缺又ハ不法ノ原因ノ爲メ無効ナル合意ハ自然義務ヲ生スルコトヲ得スコトヲ得ス公ノ秩序ノ爲メ合意ノ目的トスルコトヲ禁シタル物ヲ目的ト爲スコトヲ得

第五百六十七條 第三者ノ所爲ノ諾約及ヒ第三者ノ利益ニ於ケル要約ニ關シ第三百

二十二條及ヒ第三百二十三條ニ定メタル無効ハ諾約者ノ自然義務ノ生スルコトヲ妨ケス

第五百六十八條 債務者カ不當ノ利得、不正ノ損害又ハ法律ノ規定ニ因リテ法定義務ヲ負擔スルコト有ル可キ場合ノ外債務者ハ此構原ニテ自然義務ヲ負擔シタリト有効ニ自ラ追認スルコトヲ得

第五百六十九條 自然義務ハ法定義務ノ銷除、廢罷又ハ解除カ裁判上ニテ宣告セラレタル後ト雖モ存立スルコトヲ得

法定義務カ此他ノ消滅方法ニ因リテ消滅シタル後ニ於テモ亦同シ

第五百七十條 免責又ハ取得ノ時効ノ利益ヲ援用シタル者既判力ノ利益ヲ受クル者又ハ其他ノ推定若クハ證據ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ者ハ尙ホ自然義務ヲ負擔シタリト自ラ追認スルコトヲ得

第五百七十一條 自然債權ノ法定ノ讓渡ハ協諾契約ヲ以テ破産者ニ免除シタル金額ニ付キ其債權者ノ之ヲ爲シタル場合ノミ有効ナリ

第五百七十二條 當事者ハ自然義務ノ任意ノ履行又ハ認定アラサル前ト雖モ仲裁契約ヲ以テ其自然義務ノ成立又ハ廣狹ヲ仲裁人ノ決定ニ委ヌルコトヲ得此場合ニ於テハ自然義務ヲ宣言シタル其決定ハ法定ノ義務ヲ生ス

民法財産取得編目錄

總則

- 第一章 先占
- 第二章 添附

民法△取得編

第一節 不動產上ノ添附
第二節 動產上ノ添附

第三章 賣買

第一節 賣買ノ通則

第一款 賣買ノ性質及ヒ成立

第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力

第三款 賣渡スコトヲ得サル物

第二節 賣買契約ノ効力

第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險

第二款 賣主ノ義務

第一則 引渡ノ義務

第二則 追奪擔保ノ義務

第三款 買主ノ義務

第三節 賣買ノ解除及ヒ銷除

第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除

第二款 受戻權能ノ行使

第三款 隠レタル瑕疵ニ因ル賣買廢却訴權

第四節 不分物ノ競賣

第四章 交換

第五章 和解

第六章 會社

第一節 會社ノ性質及ヒ設立

第二節 社員ノ權利及ヒ義務

第三節 會社ノ解散

第四節 會社ノ清算及ヒ分割

第七章 射倖契約

第一節 博戲及ヒ賭事

第二節 終身年金權

第一款 終身年金權ノ設定

第二款 終身年金權ノ契約ノ効力

第三款 終身年金權ノ消滅

第八章 消費貸借及ヒ無期年金權

第一節 消費貸借

第二節 無期年金權ノ契約

第九章 使用貸借

第一節 使用貸借ノ性質

第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務

第十章 寄託及ヒ保管

第一節 寄託

第一款 任意寄託

第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託

第二節 保管

第十二章 代理

- 第一節 代理ノ性質
- 第二節 代理人ノ義務
- 第三節 委任者ノ義務
- 第四節 代理ノ終了
- 第十三章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約
- 第一節 雇傭契約
- 第二節 習業契約
- 第三節 仕事請負契約

民法

財産取得編

總則

- 第一條 物上及ヒ對人ノ權利ハ財産編ニ規定シタル原因ニ由ル外尙ホ本編ノ規定ニ從ヒ之ヲ取得スルコトヲ得
- 第一章 先占
- 第二條 先占ハ無主ノ動産物ヲ己レノ所有ト爲ス意思ヲ以テ最先ノ占有ヲ爲スニ因リテ其所有權ヲ取得スル方法ナリ
- 第三條 狩獵、捕魚ノ權利ノ行使及ヒ漂流物、遺失物ノ取得ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス
- 戰時ニ於ケル海陸ノ掠奪物ニ付テモ亦同シ
- 第四條 遺棄物ヲ先占シタリト主張スル者ハ原所有者ノ任意ノ遺棄ヲ證スルノ責ニ

任ス

- 第五條 他人ニ屬スル物ノ中ニ於テ偶然ニ發見シタル埋藏物ハ所有者ノ知レサルトキハ其一半ヲ發見者ニ付與ス
- 埋藏物カ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者ノ權利ハ次章ノ規定ニ從フ
- 第六條 埋藏物ノ原所有者ハ發見後三箇年間に非サレハ前條ノ付與ニ反シテ自己ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ス
- 此期間ハ原所有者カ埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者タルニ於テハ其發見ヲ知リタル後一箇年間に之ヲ短縮ス
- 然レトモ埋藏物ノ占有者カ惡意ナルトキハ通常ノ時効ヲ適用ス
- 第二章 添附
- 第七條 動産ト不動産トヲ問ハス或ル物ノ所有者ハ其物ニ附從トシテ合シタル物ヲ下ノ區別ニ從ヒテ取得ス
- 第一節 不動産上ノ添附
- 第八條 建築其他ノ工作及ヒ植物ハ總テ其附著セル土地又ハ建物ノ所有者カ自費ニテ之ヲ築造シ又ハ栽植シタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラズ
- 右建築其他ノ工作物ノ所有權ハ土地又ハ建物ノ所有者ニ屬ス但權原又ハ時効ニ因リテ第三者ノ得タル權利ヲ妨ケス
- 植物ニ關スル場合ハ第十條ノ規定ニ從フ
- 第九條 土地又ハ建物ノ所有者カ他人ニ屬スル材料ヲ以テ建築其他ノ工作ヲ爲シタルトキハ其工作物ヲ毀壞シテ材料ヲ返還スル強要ヲ受ケス又材料ノ主本ニ其取去

ヲ強要スルコトヲ得ス
然レモ右ノ所有者ハ財産編第三百八十五條ノ規定ニ從ヒテ材料ノ本主ニ償金ヲ拂フノ責ニ任ス

第十條 他人ニ屬スル草木ノ栽植ニ付テハ其栽植ヲ爲シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ一個年內ニ其草木ヲ採取リ且之ヲ返還スル強要ヲ受ク尙ホ損害アルトキハ之ヲ賠償ス

右草木ノ所有者カ其返還ヲ欲セス又ハ栽植ノ時ヨリ一個年ヲ經過シタルトキハ其所有者ハ償金ヲ受ク

第十一條 他人ノ土地又ハ建物ノ善意ノ占有者ニシテ其土地又ハ建物ニ自己ノ材料又ハ草木ヲ以テ築造又ハ栽植ヲ爲シタル者ハ所有者ヨリ不動産回復ノ請求ヲ受クルニ當リ其工作物又ハ草木ヲ取拂フ責ニ任セス所有者ハ其選擇ヲ以テ占有者ニ材料及ヒ手間賃ヲ拂ヒ又ハ不動産ノ増價額ヲ拂フ

築造又ハ栽植ヲ爲シタル者カ善意ノ占有者タリシトキハ所有者ハ工作物及ヒ草木ヲ除去シテ場所ヲ舊狀ニ復セシメ且損害アルトキハ之ヲ賠償セシムルコトヲ得又所有者ハ前項ノ規定ニ從ヒ占有者ニ償金ヲ拂ヒテ右ノ工作物及ヒ草木ヲ保存スルコトヲ得

第十二條 舟筏ノ通ス可キト否トヲ問ハス河川ノ寄洲、中洲、干潟ノ所有權又ハ水路ノ變換ニ因リ生スル浸沒地及ヒ舊川床ノ所有權ノ歸屬ハ別ニ之ヲ定ム但海ノ干潟ニ付テハ財産編第二十三條ノ規定ニ從フ

第十三條 私有池ノ魚又ハ鳩舎ノ鳩カ計策ヲ以テ誘引セラレ又ハ停留セラレタルニ非スシテ他ノ池又ハ鳩舎ニ移リタルトキ其所有者カ自己ノ所有ヲ證シテ一週日間ニ之ヲ要求セラレハ其魚又ハ鳩ハ現在ノ土地ノ所有者ニ屬ス

群ヲ爲シテ他ニ移轉シタル蜜蜂ニ付テハ一週日間之ヲ追索スルコトヲ得飼馴サレタルモ逃ケ易キ野栖ノ禽獸ニ付テハ善意ニテ之ヲ停留シタル者ニ對シ一個月間其回復ヲ爲スコトヲ得

第二節 動産上ノ添附
第十四條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ動産物カ所有者ノ意ニ非スシテ第三者ニ因リテ附合セラレ其各物共ニ著シキ毀損又ハ減價ヲ受ケスシテ容易ニ分タル可キトキハ所有者ノ各自ハ其分離ヲ請求スルコトヲ得但損害アルトキハ附合ヲ爲シタル者之ヲ賠償ス

附合ノ爲メニセル物ノ變換ハ之ヲ毀損ト看做ス
第十五條 二箇ノ物カ分ツ可カラサルカ又ハ之ヲ分ツカ爲メ著シキ毀損、減價ヲ爲シ若クハ過分ノ費用、時日ヲ要スルトキハ執レノ所有者モ分離ヲ請求スルコトヲ得スシテ其物ハ附合ノ儘ニテ主タル物ノ所有者ニ歸屬ス但此所有者ハ從タル物ノ所有者損害ヲ加ヘテ已レテ利益シタル限度ニ應シ賠償ヲ負擔ス

或ル物ノ便益、粧飾又ハ補完ノ爲メニ附合セラレタル物ハ之ヲ從タル物ト看做ス主從ノ區別ニ付キ疑アルトキハ價格ノ低キ物ヲ以テ從タル物トス

此他ノ場合ニ於ケル物ノ主從ノ區別ハ之ヲ裁判所ノ査定ニ委ス

第十六條 附合カ主タル物ノ所有者ノ過失又ハ詐欺ニ因リテ成リ前條ノ規定ニ從ヒテ其分離ヲ爲ス可カラサルトキハ從タル物ノ所有者ノ受ク可キ賠償ハ財産編第三百七十條及ヒ第三百八十五條ニ依リテ其額ヲ定ム

從タル物ノ所有者カ附合ヲ爲シタルトキハ主タル物ノ所有者ノ利益ノ限度ニ應シ

テノミ其損失ノ賠償ヲ受ク

第十七條 不都合ナシニハ物ヲ分離スルコトヲ得サル右同一ノ場合ニ於テ其性質、品質又ハ價格ニ因ルモ主從ノ區別ヲ爲シ難キトキハ其物ハ平等ノ權利ニテ各所有者之ヲ共有ス但過失又ハ惡意アル者ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ妨ケス
第十八條 前數條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル流動物、固形物又ハ金屬ノ混和ニモ亦之ヲ適用ス
然レトモ分離スルコトヲ得サル物カ性質及ヒ品質ノ同シキニ因リテ共有ト爲ル可キトキハ各自ノ權利ハ己レヨリ出テタル物ノ數量ノ割合ニ應ス

第十九條 附合又ハ混和カ所有者ノ一人ノ所爲ヨリ生スル場合ニ於テハ他ノ所有者ハ專屬ノ所有權ヲモ共有權ヲモ承諾スル責ニ任セス添附ヲ爲シタル者ニ對シテ同品質ノ物又ハ其代價ヲ要求スルコトヲ得
第二十條 或人カ他人ノ物料ヲ以テ新ナル用方ノ物ヲ作りタルトキハ物料ノ所有者ハ手間賃ヲ拂フテ其物ノ所有權ヲ要求スルコトヲ得
然レトモ手間賃カ著シク物料ノ價額ヲ超ユルトキハ新ナル物ノ所有權ハ製作者ニ屬ス但製作者ハ物料ノ所有者ニ賠償スルコトヲ要ス
製作者カ物料ノ幾分ヲ供シタルトキハ其物料ノ價額ハ優先權ヲ定ムル爲メ之ヲ手間賃ニ合算ス所有者ノ承諾ナクシテ物料ヲ用キタルトキハ其所有者ハ常ニ自己ノ優先權ヲ拋棄シテ同品質、同數量ノ物又ハ其代價ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條 附合、混和又ハ製作カ所有者ノ明示又ハ默示ノ承諾ヲ以テ成ルトキハ所有權ハ合意ニ從ヒテ之ヲ定ム若シ疑アルニ於テハ分離カ容易ナリト雖モ其分離ヲ要求スルコトヲ得ス且優先權及ヒ共有權ニ關スル前數條ノ規定ヲ適用ス

第二十二條 前數條ニ定メサル動產物添附ノ場合ニ於テハ裁判所ハ前數條ノ規定ノ援引ス可キハ之ヲ援引シ且條理ニ基キテ所有權及ヒ賠償ノ論點ヲ審定ス

第二十三條 第五條ニ從ヒテ發見者ニ屬セサル埋藏物ノ部分ハ添附ニ因リテ其埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ動產又ハ不動產ノ所有者ニ屬ス
右動產又ハ不動產ノ所有者自身ニテ意外ニ發見シタル埋藏物ハ一半ハ先占ニ因リ一半ハ添附ニ因リテ全部其所有者ニ屬ス
所有者ノ所爲又ハ其指圖ヲ受ケ若クハ受ケサル第三者ノ所爲ニテ特ニ搜索ヲ爲スニ因リテ發見シタル埋藏物ハ添附ヲ以テ全部所有者ニ屬ス
原所有者ノ回復ニ對シ埋藏物ノ發見者ノ爲メ第六條ヲ以テ定メタル時効ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三章 賣 買

第一節 賣買ノ通則

第二款 賣買ノ性質及ヒ成立

第二十四條 賣買ハ當事者ノ一方カ物ノ所有權又ハ其支分權ヲ移轉シ又ハ移轉スル義務ヲ負擔シ他ノ一方又ハ第三者カ其定マリタル代金ノ辨濟ヲ負擔スル契約ナリ
賣買契約ハ下ノ規定ニ從フ外有償且雙務ナル契約ノ一般ノ規則ニ從フ

第二十五條 賣買ハ當事者ノ承諾ノミヲ以テ完全ニ成立ス
然レトモ當事者ハ賣買ノ成立ヲ各自ノ證據ニ供スル公正證書又ハ私署證書ノ調製ノ條件ニ繫ラシムルコトヲ得

第二十六條 賣渡又ハ買受ノ一方ノモノ豫約アルトキハ要約者カ財產編第三百八條ノ條件從ヒ區別ニ從ヒテ契約ノ取結ヲ要求スル時ヨリ諾約者ハ其豫約ニ於テ定メ

タル代價及ヒ條件ヲ以テ契約ヲ取結フ義務ヲ負擔ス

第二十七條 諸約者カ契約ヲ取結フコトヲ拒ムトキハ裁判所ハ賣買カ成立シタリトノ判決ヲ爲ス不動産權ノ賣買ニ關スルトキハ其判決ヲ登記ス

賣渡ノ豫約ヲ登記シタルトキハ右判決ハ登記ニ之ヲ附記ス其登記ハ賣主ノ承繼人ニ對シ既往ニ遡リテ効力ヲ生ス

第二十八條 賣渡及ヒ買受ノ相互ノ豫約アルトキハ當事者ノ一方ハ前條ニ從ヒ他ノ一方ニ對シテ契約ノ取結ヲ強要スルコトヲ得

裁判所ハ此場合ニ於テ當事者ノ意思ヲ解釋シ賣買ノ豫約カ即時ノ賣買ノ効力有スルモノト判決シ又期間ノ定アルトキハ其期間ハ履行ノミニ適用セラルルモノト判決スルコトヲ得

第二十九條 前四條ニ從ヒ當事者ノ雙方又ハ一方カ日後賣渡及ヒ買受ノ契約ヲ取結フ義務又ハ單ニ證書ヲ作ル義務ヲ負擔シタル場合ニ於テ豫約ノ擔保トシテ手附ヲ授受シタルトキハ契約ヲ取結フコト又ハ證書ヲ作ルコトヲ拒ム一方ハ其與ヘタル手附ヲ失ヒ又ハ其受ケタル手附ヲ二倍ニシテ還償ス

第三十條 即時ノ賣買ニ於テハ手附ハ之ヲ與ヘタル者ノ利益ノ爲メニノミ解約ノ方法ト爲ル但買主ノ與ヘタル手附カ金錢ナルトキハ其地ノ慣習ニテ之ニ解約ノ性質ヲ付スル場合ノ外合意ニテ此性質ヲ明示スルコトヲ要ス

契約ノ全部又ハ一分ノ履行アリタルトキハ如何ナル場合ニ於テモ解約ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 試驗ニテ爲ス賣買ハ事情ニ隨ヒ買主ノ適意ノ停止條件又ハ拒絕ノ解除條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得

試味ノ慣習アル日用品ノ賣買ハ滿意ノ停止條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第三十二條 前條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ買主カ己レニ屬スル權能ノ行使ニ付キ期限ヲ定メサルトキハ短キ期間ニ於テ決答ス可キ催告ヲ受ク若シ其決答ヲ爲サスシテ賣渡物ノ引渡ヲ受ケタルトキハ買主ハ受諾シタリトノ推定ヲ受ケ反對ノ場合ニ於テハ拒絕シタリトノ推定ヲ受ク

第三十三條 賣買ノ代價ハ全額ヲ以テセサルモ其目安ヲ契約ニ定ムルコトヲ要ス又其代價ハ或ハ同種類ノ商品ノ現時又ハ近日ノ市價ニ委子或ハ契約ヲ以テ指定シタル第三者ノ評價ニ委ヌルコトヲ得

右評價カ錯誤ニ出テタルカ又ハ明カニ公平ニ反スルトキハ其評價ニ異議ヲ爲スコトヲ得但其異議ハ損失ヲ受ケタリト主張スル一方カ評價ヲ知リタル時直チニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三者ト當事者ノ一方トノ間ニ共謀ノ詐欺アルトキハ財産編第三百十二條及ヒ第五百四十四條ノ規定ヲ適用ス

當事者ハ元本又ハ無期若クハ終身ノ年金權ヲ以テ代價ヲ定ムルコトヲ得然レトモ第三者ハ元本ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ定ムルコトヲ得ス但當事者カ明示ニテ一層廣キ權限ヲ第三者ニ與ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 賣買契約ノ費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス但雙方カ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力

第三十五條 配偶者ノ間ニ於テハ動產ト不動産トヲ問ハス賣買ノ契約ヲ禁ス

配偶者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ負擔スル眞實且正當ナル債務ヲ消滅セシムルニハ相互ニ代物辨濟ヲ爲スコトヲ得

右代物辨濟ハ相當ノ疏明ヲ爲セル後裁判所ノ認許ヲ得タルニ非サレハ配偶者ノ間ニ於テ有効且完全ナラス

又此代物辨濟カ不動産物權ヲ目的トスルトキハ其代物辨濟ハ登記中ニ右認許ヲ附記シタルニ非サレハ第三者ニ對シテ効力ヲ有セス

第三十六條 前條ニ基キタル銷除ノ訴權ハ賣渡又ハ認許ナキ代物辨濟ヲ爲シタル配偶者、其相續人又ハ承繼人ノミニ屬ス但其訴權ハ財産編第五百四十四條以下ノ一般ノ規則ニ從フ

第三十七條 法律上、裁判上若クハ合意上ノ管理人ハ直接ニ自己ノ名ヲ以テスルモ間介人ニ依ルモ賣渡ノ任ヲ受ケタル財産ニ付キ協議上又ハ競賣上ノ取得者ト爲ルコトヲ得ス

此制禁ハ競賣ヲ處理シ又ハ指揮スルコトヲ法律ニ依リテ任セシレタル公吏ニ之ヲ適用ス

第三十八條 前條ノ規定ニ背キタル賣買ノ銷除訴權ハ原所有者、其相續人及ヒ承繼人ノミニ屬ス

第三十九條 判事、檢事及ヒ裁判所書記ハ爭ニ係ル物權又ハ人權ニシテ其職務ヲ行フ裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノノ取得者ト爲ルコトヲ得ス

此制禁ハ右同一ノ條件ヲ以テ辯護士及ヒ公證人ニ之ヲ適用ス

第四十條 前條ヨリ生スル銷除訴權ハ讓渡人、權利ヲ爭フ相手方、共雙方ノ相續人及ヒ承繼人ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

又權利ヲ爭フ相手方、其相續人又ハ承繼人ハ讓受人ニ讓渡ノ現價ト辨濟ノ口ヨリノ利息トヲ辨償シテ其權利ノ受戻ヲ爲スコトヲ得

右ノ規定ハ違背者ニ對スル懲戒ノ罰ヲ妨ケス

第三款 賣渡スコトヲ得サル物

第四十一條 賣買カ性質ニ因リテ一般ニ融通スルコトヲ得サル物又ハ特別法ヲ以テ各人ニ處分ヲ禁シタル物ヲ目的トスルトキハ其賣買ハ無効ナリ

此賣買ノ無効ハ抗辨ニ依ルモ訴ニ依ルモ當事者各自ニ之ヲ援用スルコトヲ得

當事者ノ一方カ詐欺ヲ以テ賣買ノ制禁ナルコトヲ隱秘シタルトキハ損害賠償ノ責ニ任ス

第四十二條 他人ノ物ノ賣買ハ當事者雙方ニ於テ無効ナリ

然レトモ賣主ハ賣買ノ際其物ノ他人ニ屬スルコトヲ知ラサルニ非サレハ其無効ヲ援用スルコトヲ得ス

第四十三條 賣買契約ノ當時ニ於テ物カ既ニ全部滅失シタルトキハ其賣買ハ無効ナリ但賣主カ此滅失ヲ知リタルトキ又ハ賣主ニ之ヲ知ラサル過失アルトキハ善意ノ買主ニ對スル損害賠償ヲ妨ケス

物ノ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ買主之ヲ知ラサリシトキハ買主ハ其選擇ヲ以テ或ハ殘餘ノ部分カ用方ニ不十分ナルコトヲ證シテ賣買ヲ銷除シ或ハ割合ヲ以テ代價ヲ減少シテ賣買ヲ保持スルヲ得但此二箇ノ場合ニ於テ賣主ニ過失アルトキハ其損害賠償ヲ妨ケス

賣買銷除ノ請求ハ買主カ一分ノ滅失ヲ知リタル時ヨリ六個月ヲ過キ又代價減少ノ請求ハ此時ヨリ二個年ヲ過クレハ之ヲ受理セス

第二節 買賣契約ノ効力

第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險

第四十四條 買賣契約ハ賣渡物ノ所有權ノ移轉及ヒ其物ノ危險ニ付テハ財產編第三百三十一條第三百三十二條第三百三十五條及ヒ第四百十九條ニ定メタル如キ普通法ノ規則ニ從フ

第四十五條 賣買ノ目的カ不動産ナルトキハ其契約ヲ以テ賣主ノ特定且善意ノ承繼人ニ對抗スルニハ財產編第三百四十八條以下ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ財產編第三百四十六條及ヒ第三百四十七條ハ右同一ノ目的ヲ以テ體動産及ヒ債權ノ賣買ニ之ヲ適用ス

第二款 賣主ノ義務

第四十六條 賣主ハ定量物ノ所有權ヲ移轉スル義務ノ外尙ホ賣渡物ヲ引渡スル義務、引渡ニ至ルマテ其物ヲ保存スル義務及ヒ妨礙、追奪ニ對シテ買主ヲ擔保スル義務ニ任ス

第一則 引渡ノ義務

第四十七條 賣主ハ賣渡物ヲ其合意シタル時期及ヒ場所ニ於テ現存ノ形狀ニテ引渡ス責ニ任ス但其保存ニ付キ懈怠アルトキハ買主ニ對シテ賠償ヲ負擔ス
引渡ノ時期及ヒ場所ニ付キ合意ヲ爲サザリシトキハ財產編第三百三十三條第六項及ヒ第七項ノ規定ニ從フ
然レトモ買主カ代金辨濟ニ付キ合意上ノ期間ヲ得ザリシトキハ賣主ハ其辨濟ヲ受クルマテ賣渡物ヲ留置スルコトヲ得

賣主ハ代金辨濟ノ爲メ期間ヲ許與シタルトキト雖モ買主カ買買後ニ破産シ若クハ無資力ト爲リ又ハ買買前ニ係ル無資力ヲ隱秘シタルトキハ尙ホ引渡ヲ遅延スルコトヲ得

第四十八條 賣主ハ契約ニ定メタル數量ヲ過不足ナク引渡スコトヲ要ス

然レトモ下ノ數條ニ定メタル場合及ヒ區別ニ從ヒテ賣主又ハ買主ハ約シタル數量ヨリ多ク讓渡シ又ハ取得スル責ニ任ス

第四十九條 賣渡物カ特定不動産ニシテ契約ニ其全面積ヲ明言シ且各坪ノ代價ヲ指示シタル場合ニ於テ現實ノ面積カ指示ノ面積ニ不足アルトキハ賣主ハ面積ヲ擔保セサル旨ヲ明言シタルトキト雖モ割合ヲ以テ代價減少ノ要求ニ服ス
現實ノ面積カ指示ノ面積ニ超過アルトキハ買主ハ割合ヲ以テ代價補足ノ要求ニ服ス

第五十條 全面積ヲ明言シ唯一ノ代價ヲ以テ不動産ヲ賣渡シ其面積ノ不足ノ場合ニ於テ賣主ハ善意ナルトキ又ハ善意ナルモ面積ヲ擔保シタルトキ又ハ不足ノ坪數カ少ナクトモ二十分一ナルトキニ非サレハ代價減少ノ要求ニ服セス
面積ヲ擔保セス又ハ面積ハ概算ナリトノ附記ハ善意ナル賣主ノ責任ヲ減セス
超過ノ場合ニ於テハ買主ハ其超過カ二十分一ニ及ヘルトキニ非サレハ代價補足ノ要求ニ服セス

第五十一條 建物ノ存スルト否トヲ問ハス數箇ノ土地ヲ一箇ノ契約ヲ以テ其各箇ノ面積ヲ指示シ唯一ノ代價ニテ賣渡シタル場合ニ於テ其面積カ一箇ノ土地ニ超過アリ一箇ノ土地ニ不足アルトキハ其坪ノ箇數ニ從ハス價額ニ從ヒテ相殺ス
此相殺以後猶ホ原價二十分一ノ過不足アルトキハ割合ヲ以テ代價ヲ増加シ又ハ之

ナ減少ス
此規定ハ一箇ノ土地内ニ於テ別異ノ性質アル各部分ノ面積ヲ指示シタル場合ニモ之ヲ適用ス

第五十二條 買主ハ面積不足ノ爲メ代價減少ニ付キ權利ヲ有スル場合ニ於テ尙ホ損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得又買主ハ約シタル面積力其用方ニ必要ナルコトヲ證シテ契約ノ銷除ヲモ請求スルコトヲ得但面積ヲ擔保セサル旨ヲ明言シタル賣買ハ此限ニ在ラス

超過ノ場合ニ於テ買主ハ二十分一以上ノ代價補足ヲ辨償スルコトヲ要スルトキハ單純ニ契約ヲ銷除スルコトヲ得

第五十三條 上ノ規則ハ目方、員數及ヒ尺度ヲ以テ指示シタル數量力買主ニ於テ容易且即時ニ調査スルコトヲ得サル日用品及ヒ動産物ノ賣買ニ之ヲ適用ス

第五十四條 前數條ヨリ生スル代價改正損害賠償又ハ契約銷除ノ訴權ハ不動産ニ付テハ一ヶ年動産ニ付テハ一ヶ月ノ期間ニ之ヲ行フコトヲ要ス

右期間ノ經過ハ賣主ニ在テハ契約ノ日ヨリ買主ニ在テハ引渡ノ日ヨリ始マル

第五十五條 動産又ハ不動産ノ賣買ニ於テ錯誤カ其物ノ品質ニ存スルトキハ財産編第三百十條ノ規定ヲ適用ス

第二則 追奪擔保ノ義務

第五十六條 他人ノ物ヲ賣買シタル場合ニ於テ擔保ノ事ニ付キ何等ノ特別ナル合意モ有ラザリシトキハ買主ハ未タ追奪ノ恐アルニ至ラザルトキト雖モ賣買無効ノ判決ヲ求ムルコトヲ得又買主カ契約ノ當時其物ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リ賣主カ之ヲ知ラザリシトキト雖モ亦同シ

第五十七條 買主カ惡意ナリシトキハ賣買ノ無効及ヒ追奪擔保ノ効果ハ買主ニ其額ホ負擔スル代金辨濟ノ義務ヲ免カレシメ又ハ其既ニ辨濟シタル代金ヲ取戻スコトヲ許スニ在ルノミ

買主ハ買受物ノ價格カ減少シタルトキト雖モ右取戻ニ於テ代金ノ減少ヲ受クルコト無シ但價格ノ減少カ自己ノ詐欺ニ出テ又ハ自己ノ利益ト爲リタルトキハ此限ニ在ラス

如何ナル場合ニ於テモ買主カ其辨濟シタル代金ヲ取戻シタルトキハ物ノ占有ヲ賣主ニ返還スルコトヲ要ス

第五十八條 買主ハ契約ノ當時善意ナリシトキハ右ノ外尙ホ左ノ諸件ノ辨償ヲ受ク

第一 買主ノ支拂ヒタル契約費用ノ部分

第二 買受物ニ付キ買主カ支拂ヒタル費用ニシテ所有者ヨリ其辨償ヲ受クルコトヲ得サルモノ

第三 買受物ニ生シタル増價額但意外ノ事ニ因ルモ亦同シ

第四 所有者ノ請求後ニ收取シ之ニ返還スルコトヲ要スル果實

然レトモ買主ハ果實ニ換ヘテ之ニ對當スル時期間ノ賣買代金ノ法律上ノ利息ヲ受クルコトヲ欲スルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得
又善意ナル買主ハ此他所有者ノ回復ノ訴ニ對スル答辯ノ費用及ヒ擔保請求ノ費用等總テノ損害賠償ヲ普通法ニ從ヒテ請求スルコトヲ得
第五十九條 賣主ハ契約ノ當時善意ナリシトキハ財産編第三百八十五條ニ從ヒテ正當ニ豫見スルコトヲ得ヘカリシ限度ニ非サレハ前條ノ第二號第三號及ヒ末項ニ定メタル賠償ヲ負擔セス

第六十條 善意ナル賣主ハ契約後ニ賣渡物ノ他人ニ屬スルコトヲ覺知シタルトキハ買主ヨリ代金ヲ提供スト雖モ其物ノ引渡ノ請求ヲ受クルニ當リ賣買ノ無効ヲ申立テ且抗辯ノ方法ニ依リテ擔保ノ定方ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但買主カ追奪ノ場合ニ於ケル求償權ヲ拋棄スル旨ヲ明白ニ陳述シタルトキハ此限ニ在ラス

第六十一條 右覺知カ引渡後ニ在リタルトキハ買主ハ買主カ即時ニ擔保訴權ヲ行フヤ又ハ己レト立會ヒ第五十八條ニ從ヒテ現時負擔ノ賠償額ヲ評定スルヤニ付キ買主ヲ遲滞ニ付スルコトヲ得

此末ノ場合ニ於テハ賣主ハ其受取リタル代金ト共ニ右評價ノ金額ヲ提供シテ供託シタルトキハ縱令擔保ノ請求アルモ此他ノ責任ヲ負擔セズ

供託シタル金額ヲ引取ルノ權利ヲ財產編第四百七十八條ニ從ヒテ行使シタル賣主ハ再ヒ本條ノ許與セル權能ヲ援用スルコトヲ得ス

第六十二條 他人ノ物ノ賣主ハ日後其物ノ所有者ト爲リタルトキハ買主ヲシテ賣買ヲ認諾スルヤ擔保訴權ヲ行フヤノ一ヲ擇マシムルコトヲ何時ニテモ催告スルコトヲ得

右同一ノ權利ハ他人ノ物ノ賣主ノ相續人ト爲リタル具所有者ニ屬ス

第六十三條 買受物ノ分割ノ部分カ完全所有權又ハ虛有權ニテ第三者ニ屬スル場合ニ於テ買主カ此部分ヲ取得スルヲ得サルコトヲ知レハ初ヨリ其物ヲ買ハサル可キ程ニ其性質又ハ廣狹ニ因リテ有益ナルコトヲ證スルトキハ全部追奪ノ爲メ定メタル如ク損害ノ賠償ヲ得テ契約ヲ解除スルコトヲ得
買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルトキハ其受ケタル直接且現時ノ損失ノ限度ニ於テ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第六十四條 買受物ノ不分ノ部分カ第三者ニ屬スルトキハ其部分ノ重要ノ如何ニ拘ハラズ買主ハ損害賠償ヲ得テ契約ヲ解除スル權利ヲ有ス

買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルトキハ買受物ノ價格ノ減少シタルトキト雖モ常ニ此ニ對當スル買受代金ト契約費用トノ部分ヲ取戻シ又其價格ノ増加シタルトキハ其損害ノ賠償ヲ受ク

第六十五條 或ハ賣渡シタル土地ニ屬スルモノトシテ契約ニ於テ述ヘタル働方地役ノ追奪アリタルトキ或ハ契約ニ於テ述ヘサル人爲ヲ以テ設定シタル受方地役ニ關シ又ハ財產ノ一分ニ存スル利益權、賃借權ニ關シテ第三者ノ要求アリタルトキハ第六十三條規定ヲ適用ス財產ノ全部ニ存スル利益權又ハ賃借權ニシテ其經過ス可キ殘餘時期カ建物ニ付テハ一年土地ニ付テハ二個年ヲ超エサルモノニ關シテモ亦同シ

賣買ノ財產ノ全部ニ存スル利益權又ハ賃借權ノ絶續時期カ建物ニ付テハ一年土地ニ付テハ二個年ヲ超ユ可キトキハ買主ハ尙ホ自己ニ殘存セル權利ノ不十分ナルヲ證スルコトヲ要セスシテ前條ニ從ヒ賣買ヲ解除スルコトヲ得

第六十六條 契約ニ於テ述ヘタルト否トヲ問ハズ賣渡シタル土地ニ先取特權又ハ抵當權ノ負擔アリテ賣主カ其代金ノ辨濟ノ前又ハ辨濟ノ時其土地ヲシテ此負擔ヲ免カレシムル爲メニ必要ナル方式ヲ履行セサルニ因リ賣主ノ債權者ノ爲メニ所有權ヲ取上ケラレタルトキハ買主ハ賣主ニ對シ第五十八條及ヒ第五十九條ノ規定ニ從ヒテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第六十七條 差押ヘタル財產ノ競落人カ追奪ヲ受ケタルトキハ被差押人ニ對シテ代

金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得若シ被差押人カ無資力ナルニ於テハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得
競落人ハ差押人カ差押ノ際ニ其財産ノ債務者ニ屬セサルコトヲ知リタルニ非サレハ之ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得又債務者カ其財産ニ存スル第三者ノ權利ヲ詐欺ヲ以テ隱蔽シタルルニ非サレハ之ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

競賣條件書ノ調製及ヒ競落ノ處理ニ任シタル公吏ハ其職分ヲ缺キタル爲メ買主ノ錯誤ヲ惹起シタルニ非サレハ損害賠償ノ責ニ任セス

第六十八條 債權ノ賣主當然自己ノ債權ノ存立及ヒ其有効ノ擔保ノ責ニ任ス又賣主ハ明示ニテ債務者ノ有資力ノ擔保ヲ諾約シタルニ非サレハ其擔保ノ責ニ任セス有資力ノ擔保ニ任シタル場合ニ於テモ賣主ハ債權カ既ニ滿期ト爲リタルトキハ讓渡ノ日ニ於ケル有資力ノミニ付キ且受取リタル代金ノ限度ニ從ヒテ其責ニ任ス但一層廣大ナル擔保ノ明約ト裏書ヲ以テ讓渡ス商證券ノ特別規則トチ妨ケス未タ滿期ト爲ラサル債權ノ讓渡ニ於テ讓渡人カ他ノ特約ナクシテ債務者ノ將來ノ有資力ヲ擔保シタルトキハ其擔保ハ滿期ヨリ一今年又無期年金權ニ付テハ其讓渡ヨリ十年ニテ絶止ス

第六十九條 物權ト人權トヲ問ハス爭ニ係ル權利ノ讓渡ニ於テハ讓渡人ハ特別ノ合意ナク且讓受人カ爭アルコトヲ知リタルトキハ其主張ノ虛構ナラサルコトヲ擔保スルノミニシテ讓渡シタル權利ノ眞ノ成立ヲ擔保セス

裁判上ト裁判外トヲ問ハス本權ニ關スル明白ノ爭ノ目的タル權利ニ付テノミニ右ノ規定ヲ適用ス讓渡人ハ其主張ノ虛構ナリシ場合ニ於テハ讓渡代金ノ返還ノ外讓受

人カ正當ニ期望シタル利益ノ賠償ヲ負擔ス

第七十條 會社ニ於ケル自己ノ權利ヲ賣渡シタル者ハ其權利ノ存立及ヒ其買賣契約ニ示セル權利ノ所狹ニ付テノミニ擔保ノ責ニ任ス

會社ノ從前ノ營業ヨリ生シ既ニ清算濟ト爲リタル賣主ノ權利及ヒ義務ハ買主ニ利害ノ關係ヲ及ホコト無シ

賣主ト會社トノ間ニ於ケル特別ノ計算ニ付テモ亦同シ

第七十一條 上ノ場合ニ於テ無擔保ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルトキト雖モ買主カ追奪ヲ受ケタルニ於テハ賣主ハ代金ヲ返還スル責ニ任ス但買主カ賣買ノ時ニ於テ追奪ノ危險アルコトヲ了知シタルトキハ賣主ハ此返還ヲ負擔セス

賣主ハ買主ノ危險負擔ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルコトノミニ因リテ亦代金ヲ返還スル責ヲ免カル

然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル約款ニ依ルモ賣主ハ賣買ノ前後ヲ問ハス第三者ニ授與シタル權利ヨリ生スル妨礙又ハ追奪ノ擔保ヲ免カルコトヲ得ス

第七十二條 賣主カ擔保ノ義務ノ全部又ハ一分ヲ買主ノ惡意ノ故ヲ以テ免カレント主張スルトキハ賣渡物ニ關スル行爲カ第三者ノ利益ノ爲メニ登記シ有リト雖モ其登記ノミニテハ買主ノ惡意ヲ證スルニ足ラス尙ホ賣主ハ登記官吏ノ認證書ニ依リ又ハ其他ノ方法ヲ以テ買主カ賣買ノ前ニ此行爲ヲ了知シタル直接ノ證據ヲ供スルコトヲ要ス

第七十三條 財産編第三百九十九條及ヒ第四百條ハ擔保ノ爲メニスル賣主ノ召喚ニ付キ及ヒ追奪ヲ受ケタル買主カ擔保人ヲ訴訟ニ參加セシメサル爲メニ生スル失權ニ付キ之ヲ適用ス

第三款 買主ノ義務

第七十四條 買主ハ合意シタル時期ニ於テ代金ヲ辨濟スルコトヲ要ス又其時期ニ付キ特別ノ合意ナキトキハ引渡ノ時ニ於テ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス
引渡ヲ日後ニ延フルノ合意アルトキハ代金ノ辨濟ヲモ略ニ日後ニ延フルモノト推定ス

賣主カ引渡ノ爲メ恩惠期限ヲ裁判所ヨリ得タルトキハ買主ハ代金辨濟ノ爲メ同一ノ期間ヲ享有ス

代金辨濟ノ恩惠期限ハ引渡ノ爲メ賣主亦之ヲ享有ス

第七十五條 代金辨濟ノ場所ヲ合意セサルトキハ其辨濟ハ有體動産ニ付テハ引渡ヲ爲ス場所不動産、債權、争ニ係ル權利又ハ會社ニ於ケル權利ニ付テハ證書ノ交付ヲ爲ス場所ニ於テ之ヲ爲ス

引渡ノ前又ハ後ニ代金ノ辨濟ヲ要求スルコトヲ得ヘキトキハ其辨濟ハ買主ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

第七十六條 買受物カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ定期ノ利益ヲ生スルトキハ買主ハ引渡ノ時ヨリ當然代金ノ利息ヲ負擔ス

反對ノ場合ニ於テハ利息ハ特別ノ合意又ハ辨濟ノ催告ニ依ルニ非サレハ之ヲ負擔セス

第七十七條 買主カ物上訴權ニ因リテ妨礙ヲ受ケ又ハ妨礙ヲ受ケル恐アル正當ノ事由ヲ有スルトキハ賣主カ其妨礙若クハ危險ヲ止マシムルマテ又ハ追奪アリタルニ於テハ代金ヲ返還スル爲メノ保證人ヲ立ツルマテ買主ハ此訴權ノ輕重ニ從ヒテ代金ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

此規定ハ買主カ買受物ノ他人ニ屬スルヲ直接ニ證スルコトヲ得ルトキハ賣買無効ノ判決ヲ求メ及ヒ擔保ノ訴權ヲ行フコトヲ妨ケス

第七十八條 買受ケタル不動産ニ付キ抵當權又ハ先取特權ノ登記アルトキハ買主ハ滌除ノ方式ヲ行フタル後ニ非サレハ代金ヲ辨濟スル責ナシ但法律上ノ期間ニ於テ滌除ヲ行フコトヲ要ス

第七十九條 前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ其先取特權及ヒ第三者ニ對スル解除ノ利權ヲ保存スル爲メノ公示ヲ爲サリシトキハ當事者雙方ノ名ヲ以テ買主ヲシテ猶豫ナク代金ヲ供託セシムルコトヲ得但其代金ハ當事者雙方ノ承諾又ハ裁判所ノ判決ニ依リ且諸手續ノ終了後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第八十條 動産物ノ買主カ代金ヲ辨濟シタルト否トナ問ハス引渡ヲ受ケル權利ヲ有スル時ニ於テ其引渡ヲ受ケルコトヲ拒ミタルトキハ賣主ハ財産編第四百七十四條乃至第四百七十八條ニ從ヒテ其賣渡物ノ提供及ヒ供託ヲ爲スコトヲ得

然レトモ日用品其他速ニ敗損ス可キ物ニ付テハ賣主ハ買主ノ爲メ之ヲ轉賣スルコトヲ得ルトキハ其轉賣ヲ爲スコトヲ要ス

第三節 賣買ノ解除及ヒ銷除

第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除

第八十一條 當事者ノ一方カ上ニ定メタル義務其他特ニ負擔スル義務ノ全部若クハ一分ノ履行ヲ缺キタルトキハ他ノ一方ハ財産編第四百二十一條乃至第四百二十四條ニ從ヒ裁判上ニテ契約ノ解除ヲ請求シ且損害アレハ其賠償ヲ要求スルコトヲ得當事者カ解除ヲ明約シタルトキハ裁判所ハ恩惠期限ヲ許與シテ其解除ヲ延ヘシムルコトヲ得ス

然レトモ此解除ハ履行ヲ缺キタル當事者ヲ遲滯ニ付シタルモ猶ホ履行セザルトキニ非サレハ當然其効力ヲ生セス

第八十二條 買主カ辨濟其他ノ義務ヲ缺キタル爲メノ解除ハ買主ノ猶ホ代金ノ全部若クハ一分ノ負擔又ハ他ノ負擔ヲ明示シタル賣買證書ニ依リ登記ヲ爲シタルニ非サレハ賣主ヨリ轉得者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得ス但債權擔保編第百八十二條ノ規定ヲ妨ケス

第八十三條 辨濟期限ノ定アル動産ノ賣買ニ於テ其引渡ヲ實行シタルトキハ辨濟ヲ缺キタル爲メノ賣主ノ解除ノ權利ハ買主ノ他ノ債權者ヲ害シテ之ヲ行フコトヲ得ス

辨濟期限ノ定ナキ賣買ニ付テハ賣主ハ引渡ヨリ八日內ニ賣買ヲ解除スルコトヲ得然レトモ善意ナル第三者ノ既得ノ物權ヲ害スルコトヲ得ス

第二款 受戻權能ノ行使

第八十四條 賣主ハ賣買證書ニ明記シタル受戻ノ約款ニ依リ買主ノ辨濟シタル代金ト費用ノ部分トヲ指定ノ期間ニ買主ニ返還スルニ於テハ其賣買ヲ解除ス可キコトヲ要約スルヲ得

右期間ハ不動産ニ付テハ五個年、動産ニ付テハ二個年ヲ超ユルコトヲ得ス此ヨリ長キ時期ノ要約ハ當然之ヲ此期限ニ短縮ス

一旦期間ヲ定メタル以上ハ右制限內ト雖モ之ヲ伸長スルコトヲ得ス

然レトモ其伸長ハ之ヲ再賣買ノ豫約ト看做スコトヲ得此場合ニ於テハ第二十六條及ヒ第二十七條ノ規定ニ從フ
賣買後ニ於テ爲シ又ハ別證書ヲ以テ爲シタル受戻ノ要約ニ付テモ亦同シ

賣主ハ代金ノ半額以上ノ辨濟ノ爲メ期限ヲ與ヘ且其期限カ受戻ノ爲メ定メタル期間ノ半以上ニ及ヘルトキハ有効ニ受戻ノ權能ヲ要約スルコトヲ得ス

第八十五條 不動産ニ付テハ法律ノ定メタル期間ニ其定メタル條件ヲ以テ爲シタル受戻權能ノ行使ハ買主カ第三者ニ授與シ又ハ第三者カ買主ノ權ニ基キテ取得シタル物權ヲ排除シテ其不動産ヲ賣主ニ復セシム但賃借權ニシテ殘期ノ一個年ヲ超エサルモノハ此限ニ在ラス

動産物ニ付テハ受戻ノ權能ハ善意ニテ其動産物上ニ物權ヲ取得シタル第三者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十六條 賣主ノ債權者ハ買主ニ代ハリテ受戻ノ權能ヲ行フコトヲ得

然レトモ買主ハ右債權者カ豫メ其債務者ノ無資力ヲ證シ且其財産編第三百二十九條ニ從ヒテ受戻權能ノ行使ノ爲メ裁判上ニテ賣主ニ代位スルヲ要求スルコトヲ得買主ハ同一ノ場合ニ於テ鑑定人ノ評價シタル買受物ノ現時ノ價額ト第八十八條ニ從ヒテ賣主ヨリ己レニ返還ス可キ金額トノ差額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シテ債權者ノ訴ヲ止ムルコトヲ得

第八十七條 賣主カ受戻ノ約款ニテ賣渡シタル物ヲ日後抵當トシ又ハ之ニ其他ノ物權ヲ負擔セシメタルトキハ其權利ノ効力ハ賣主又ハ其債權者ノ受戻權能ヲ行ヒタル後ニ非サレハ生セス

賣主カ受戻ニ服スル物ノ所有權ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ自己ノ名ヲ以テ受戻ヲ爲スコトヲ得然レトモ讓渡前ニ賣主カ他人ニ對シテ承諾シ且登記ヲ經タル此他ノ物權ヲ妨碍スルコトヲ得ス但其擔保訴權ヲ失フコト無シ

第八十八條 賣主カ受戻ノ權能ヲ行ハントスルトキハ指定ノ期間ニ賣買代價及ヒ契

約費用ノ外尙ホ物ノ保存費用ヲ買主ニ辨償スルコトヲ要ス
買主九右金額ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ賣主ハ猶豫ナク之ヲ供託スルコトヲ要ス

賣主ハ物ノ改良費用ヲモ辨償スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ此辨償ニ付テハ賣主ニ猶豫ヲ許スコトヲ得

買主ハ右金額ノ皆濟ヲ受クルマテ其物ノ上ニ留置權ヲ有ス

第八十九條 不動産ノ共有者ノ一人カ其不分ノ部分ヲ受戻約款ニテ賣リタル場合ニ於テ買主カ他ノ共有者ヨリ促カサレタル競賣ニ因リテ競落人ト爲リタルトキハ賣主ハ前條ニ掲ケタル金額ニ競賣ノ代金ヲ加ヘテ其不動産ノ全部ニ對スルニ非サレハ受戻ヲ爲スコトヲ得ス又買主ハ之ニ故障ヲ述フルコトヲ得ス

買主カ自ラ競賣ヲ促シタルトキハ賣主ハ其賣渡シタル部分ニ付テノミ受戻ヲ爲スコトヲ得又買主ハ全部ノ受戻ニ故障ヲ述フルコトヲ得

第九十條 孰レヨリ競賣ヲ促カシタルヲ問ハス買主ニ非サル共有者ノ一人又ハ外人ノ競落シタル場合ニ於テ賣主ハ競賣ニ召喚セラレサリシトキハ其賣渡シタル部分ニ付テノミ競落人ニ對シテ受戻ノ權利ヲ存シ之ニ反スルトキハ其權利ヲ失フ

第九十一條 現物ヲ以テ分割シタルトキ賣主カ其分割ニ召喚セラレタルニ於テハ賣主ハ孰レヨリ分割ヲ促カシタルヲ問ハス他ノ所有者ニ歸シタル部分ニ付キ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得スシテ買主ニ歸シタル部分ノミヲ受戻スコトヲ得但買主ノ供與シ又ハ受取リタル補足代金ヲ賣主買主ノ間互ニ計算スルコトヲ妨ケス
賣主カ分割ニ召喚セラレサリシトキハ賣主ハ選擇ヲ以テ或ハ其分割ヲ認諾シ買主ニ對シテ前項ニ示シタル權利ヲ行ヒ或ハ第八十八條ニ掲ケタル金額ヲ買主ニ辨償

シ共有者ニ對シテ再分割ヲ促カスコトヲ得

第九十二條 不分物ノ共有者カ一箇ノ契約及ヒ唯一ノ代價ニテ其物ヲ受戻ノ約款ヲ以テ賣渡シタルトキハ買主ハ一分ニ付キ受戻ヲ受クル責ナシ

又買主ハ賣主ノ一人ヨリ爲ス全部ノ受戻ニ故障ヲ述フルコトヲ得

之ニ反シテ數人ノ共有者カ各別ノ契約ヲ以テ各自ノ部分ヲ賣渡シタルトキハ各別ニ受戻ヲ爲スコトヲ得但第八十九條及ヒ第九十一條ノ規定ハ之ヲ此場合ニ適用スルコトヲ得

第九十三條 數人ノ買主カ一箇ノ契約又ハ各別ノ契約ヲ以テ一箇ノ財産ヲ受戻ノ約款ニテ取得シタルトキ賣主カ買主ノ間ニ分割ヲ爲ササル前ニ受戻ヲ爲サント欲スルニ於テハ賣主ハ總買主ニ對シ又ハ一人若クハ數人ノ買主ニ對シテ其各自ノ部分ニ付キ受戻ヲ爲スコトヲ得

既ニ分割ヲ爲シタルトキハ賣主ハ各買主ニ對シ分割又ハ競賣ニ因リテ其各自ニ歸シタル部分ノミニ非サレハ受戻ヲ爲スコトヲ得ス

第三款 隠レタル瑕疵ニ因ル賣買廢却訴權

第九十四條 動産ト不動産トヲ問ハス賣渡物ニ賣買ノ當時ニ於テ不表見ノ瑕疵アリテ買主之ヲ知ラス又修補スルコトヲ得ス且其瑕疵カ物ヲシテ其性質上若クハ合意上ノ用方ニ不適當ナラシメ又ハ買主其瑕疵ヲ知レハ初ヨリ買受ケサル可キ程ニ物ノ使用ヲ減セシムルトキハ買主ハ其賣買ノ廢却ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テハ買主ハ辨償代金ト契約費用トヲ取戻シ其代金ノ利息ハ請求ノ日ニ至ルマデノ物ノ收益又ハ使用ト之ヲ相殺ス

第九十五條 買主カ隠レタル瑕疵ノ賣買廢却訴權ヲ行フ可キ程ニ重大ナルヲ證スル

コト能ハス又ハ物ヲ保有スルコトヲ欲スルトキハ買主ハ便益ヲ失フ割合ニ應シテ
代價ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

第九十六條 買主カ賣主ニ對シ賣買ノ廢却又ハ代價ノ減少ヲ得タルニ拘ハラズ賣主
カ初ヨリ其瑕疵ヲ知リタルトキハ買主ハ尙ホ其受ケタル損害又ハ失ヒタル利益ニ
付テノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第九十七條 隠レタル瑕疵ヲ擔保セストノ要約ハ賣主ヲシテ初ヨリ自ラ了知シ且詐
欺ヲ以テ隱秘シタル瑕疵ニ付テノ責任ヲ免カレシメス

第九十八條 賣買ノ當時ニ於テ物ニ瑕疵アルタルコト其瑕疵ヨリ買主ニ損害ヲ生シ
タルコト及ヒ買主又ハ賣主カ其瑕疵ヲ了知シタルコトハ人證鑑定其他ノ法律上ノ
證據方法ヲ以テ之ヲ證ス

第九十九條 賣買廢却代價減少及ヒ損害賠償ノ訴ハ左ノ期間ニ於テ之ヲ起スコトヲ
要ス

第一 不動産ニ付テハ六個月

第二 動産ニ付テハ三個月

第三 動産ニ付テハ一個月

右期間ハ引渡ノ時ヨリ之ヲ起算ス
然レトモ此期間ハ買主カ瑕疵ヲ知レル證據アリタル日ヨリ其半ニ短縮ス但其殘期
カ此半ヲ超エルトキニ限ル
買主カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ右期間ニ隠レタル瑕疵ヲ覺知スル能ハサリ
シコトヲ證スルトキハ其期間ノ滿了後ニ於テモ訴ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ
意外ノ事又ハ不可抗力ノ止ミタル時ヨリ通常期間ノ三分一ヲ以テ新期間ト爲ス

第一百條 隠レタル瑕疵ニ基キタル代價減少ノ訴權ハ買主カ買受物ヲ無償又ハ有償
ニテ讓渡シタルモノ之ヲ失ハス但有償ノ讓渡ノ場合ニ於テハ其瑕疵ノ爲メ買主カ損

失ヲ受ケタルトキ又ハ讓受人ヨリ訴ヘラレ若クハ訴ヘラレルノ恐アルトキニ限ル
第一百一條 賣渡物カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ全部又ハ半以上滅失シタルトキ

ハ賣買廢却訴權ヲ行フコトヲ得ス
滅失部分ノ多少ニ拘ハラズ代價減少ノ訴權ハ殘存部分ノ割合ニ應シテ存立ス

如何ナル場合ニ於テモ賣主ハ隠レタル瑕疵ヨリ生スル全部又ハ一分ノ滅失ノ責ニ
任ス

第一百二條 合式ノ強制賣却ハ賣買廢却權ヲモ代價減少訴權ヲモ生セス

第一百三條 或ル動物又ハ日用品ノ隠レタル瑕疵ニ付テハ特別法ヲ以テ其賣買上ノ効
果ヲ定ムルニ至ルマテ本法ノ規定ヲ適用ス

第四節 不分物ノ競賣

第一百四條 不分財產ノ分割ヲ爲スニ當リ共有者ノ一人タリトモ現物ノ分割ヲ拒ム者
アルトキハ其財產ノ協議賣却又ハ競賣ヲ爲シ各共有者ノ權利ノ限度ニ應シテ其代
金ヲ配當ス

第一百五條 共有者カ其一人若クハ第三者ニ協議賣却ヲ爲シ又ハ相互ノ間ニ競賣ヲ爲
スニ付キ一致ヲ得ル能ハサルトキ又ハ共有者中ニ失踪者若クハ無能力者アルトキ
ハ裁判所又ハ裁判所ノ指定シタル公吏ノ前ニ於テ不分物ノ競賣ヲ爲ス但民事訴訟
法ニ定メタル競賣方式ニ從フコトヲ要ス

共同競賣人ノ各自ハ常ニ競賣ニ外人ノ參與ヲ許スヲ要求スルコトヲ得共有者ノ一
人カ失踪シ又ハ無能力ナルトキハ外人ノ參與ハ當然且必要ナリトス

第六百六條 共有者ノ一人カ不分物ノ全部ヲ取得シタルトキハ其競賣又ハ協議賣却
ハ共有者間ノ分割ノ行爲ト看做サレ會社ノ分割ニ關シタル効力ヲ生ス
第三百者ニ競落又ハ協議賣却ヲ爲シタルトキハ其賣買第三百者ト原共有者トノ間ニ於
テ本章ニ規定シタル賣買ノ効力ヲ生ス

第四章 交換

第七百七條 交換ハ當事者ノ一方カ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ヨリ取得シ
又ハ之ヲシテ諾約セシメ其對價トシテ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ニ移
轉シ又ハ移轉スルコトヲ諾約スル契約ナリ

相互ノ權利ノ價額カ均一ナラサルトキハ金錢其他ノ物ノ補足ヲ以テ之ヲ均一ニス
金錢ノ補足カ交換ニ供シタル物ノ價額ヲ起ユルトキハ其契約ハ之ヲ賣買ト看做ス
第八百八條 當事者ハ交換ニ供シ又ハ諾約シタル物又ハ權利ニ對スル妨礙及ヒ追奪ノ
擔保ヲ相互ニ負擔ス

當事者ノ一方カ他ノ一方ノ諾約シタル物又ハ權利ヲ取得スルコトヲ得サリシトキ
ハ其選擇ヲ以テ或ハ金錢ノ對價ヲ要求スルコトヲ得或ハ契約ノ解除ヲ請求シテ自
己ノ供與シタルモノヲ取戻スコトヲ得但執レノ場合ニ於テモ損害アレハ其賠償ヲ
受ク

右解除ノ權利ハ取戻ニ服スル不動産ニ付キ權利ヲ取得シタル第三百者ニ對シテ之ヲ
行フコトヲ得ス但財産編第三百五十二條第一項ニ從ヒテ請求ノ公示前ニ其第三百
ノ權原ノ登記アリタルトキニ限ル

第九百九條 賣買ノ規則ハ左ノ例外ヲ以テ交換ニ之ヲ適用ス
交換ハ配偶者ノ間ニ之ヲ爲スコトヲ許ス但交換物ノ價額ノ差カ間接ノ利益ヲ成ス

トキハ贈與ヲ禁制シ又ハ之ヲ制限スル規則ニ從フ
當事者ノ一方又ハ雙方カ指定ノ期間ニ於テ任意ニ交換ヲ解除スルコトヲ要約シタ
ルトキハ第二十七條ニ依リ賣買ノ豫約ヲ以テ第三百者ニ對抗スルコトヲ得ル條件ニ
從フニ非サレハ其解除ヲ以テ第三百者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五章 和解

第十百十條 和解ハ當事者カ交互ノ讓合又ハ出捐ヲ爲シテ既ニ生シタル爭ヲ落著セ
シメ又ハ生スルコト有ル可キ爭ヲ豫防スル契約ナリ
和解ノ成立、有効、効力及ヒ證據ハ下ノ規定ヲ除ク外合意ニ關スル一般ノ規則ニ從
フ

第十百十一條 和解ハ法律ノ錯誤ノ爲メ之ヲ銷除スルコトヲ得ス但其錯誤カ相手方ノ
詐欺ニ起因スルトキハ此限ニ在ラス

第十百十二條 和解ハ偽造ノ書類又ハ無効ノ行爲ニ依リ承諾シタルコトヲ理由トシテ
之ヲ銷除スルコトヲ得ス但此等ノ申立ヲ爲スヲ得ヘキ當事者ニ於テ其書類ノ偽造
ヲ知ラス又ハ其行爲ヲ法律ニ於テ無効ナラシムル所ノ事實ヲ知ラサリシトキハ此
限ニ在ラス

第十百十三條 定マリタル爭ニ付キ爲シタル和解ハ新ニ發見シタル證書ニ因リテ當事
者ノ一方カ爭ノ目的ニ代キ何等ノ權利ヲモ有セス又ハ他ノ一方カ其目的ニ付キ完
全且爭フ可カラサル權利ヲ有スルコトノ顯ハレタルトキハ事實ノ錯誤ノ爲メ亦之
ヲ銷除スルコトヲ得
確定シタル判決又ハ攻撃スルヲ得サル契約ニ因リ既ニ爭ノ落著シタル場合ニ於テ
其判決又ハ契約ヲ知ラスシテ和解ヲ爲シタルトキモ亦同シ

然レトモ和解効從前ノ原因ヨリ生スルコト有ル可キ總テノ爭ヲ落著セシメ又ハ之ヲ豫防スルヲ目的トシタルトキハ當事者ノ一方ノ利益タル確定證書ノ發見ハ其和解ノ銷除ヲ生セス但其證書カ相手方ノ所爲ニ因リテ控留セラレタルトキハ此限ニ在ラス

第百十四條 有効ノ和解ハ當事者ノ相互ニ追認シタル權利又ハ利益ニシテ既ニ生シ又ハ豫見シタル爭ノ目的タルモノニ付テハ當事者間ニ在テハ確定判決ノ權利ト均シキ認定ノ効力ヲ生ス此場合ニ於テハ其權利又ハ利益ハ從前ノ原因ニ由リテ保持シタルモノト看做ス但當事者雙方ニ更改ヲ爲ス意思アリシトキハ此限ニ在ラス之ニ反シテ相互ニ供與シ又ハ諾約シタル權利又ハ利益ノ全部若クハ一分ニシテ爭ノ目的タラサリシモノニ付テハ和解ハ物權又ハ人權ヲ生シ之ヲ移轉シ若クハ之ヲ消滅セシムル有償合意ノ規則ニ從フ

第六章 會社

第一節 會社ノ性質及ヒ設立

第百十五條 會社ハ數人カ各自ニ配當ス可キ利益ヲ收ムル目的ニテ或ル物ヲ共通シテ利用スル爲メ又ハ或ル事業ヲ成シ若クハ或ル職業ヲ營ム爲メ各社員カ定マリタル出資ヲ爲シ又ハ之ヲ諾約スル契約ナリ

第百十六條 商事會社ニ特別ナル規則ハ商法ヲ以テ之ヲ定ム

第百十七條 社員ノ出資ハ或ハ不動産又ハ不動産ノ所有權若クハ收益權或ハ金錢又ハ技術、勞力ヲ以テスルコトヲ得

出資ハ不均一ナルコトヲ得

第百十八條 民事會社ハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ會社ニ社名ヲ付シ且其契約ハ商事會社ノ公示ノ爲メ法律ニ規定シタル方式ニ從ヒテ之ヲ公示スルコトヲ要ス但社名ヲ付シ又ハ公示ヲ爲シタルトキハ其會社ヲ法人ト爲ス意思アリト推定ス

第百十九條 合意ノ一般ノ規則殊ニ當事者ノ承諾、能力、合意ノ目的、原因及ヒ證據ニ關スルモノハ會社ニ之ヲ適用ス

第百二十條 會社ハ其目的ノ商事ニ在ラサルモ資本ヲ株式ニ分ツトキハ商法ノ規定ニ從フ

第二節 社員ノ權利及ヒ義務

第百二十一條 會社ハ契約ノ日ヨリ開始ス但明示又ハ默示ニテ他ノ期限ヲ定メ又ハ條件ヲ附シタルトキハ此限ニ在ラス

各社員ハ會社ノ開始スル時ニ於テ其諾約シタル出資ヲ差入ルルコトヲ要ス之ヲ差入サルトキハ其社員ハ出資ニ生スル果實及ヒ利息ヲ當然負擔ス且遲延ノ爲メ損害ヲ生シタルトキハ出資ノ金錢ヲ以テスルトキト雖モ其賠償ヲ負擔ス

第百二十二條 技術又ハ勞力ノ出資ヲ諾約シタル社員カ其諾約ヲ缺キタルトキハ其社員ハ他ノ社員ノ選擇ニ從ヒ會社ニ對シテ或ハ其義務ノ履行ヲ缺キタル當時ヨリ會社ノ受ケタル損害ヲ賠償シ或ハ其勞力ヲ會社外ニ用キテ得タル利益ヲ分與スル責ニ任ス

第百二十三條 動産ト不動産トヲ問ハス特定物ノ所有權ヲ出資ト爲スコトヲ諾約シタル社員ハ會社ニ對シ賣主ト同シク其物ノ妨碍、追奪又ハ面積、數量ノ不足及ヒ隠レタル瑕疵ニ付キ擔保ノ責ニ任ス

又社員カ物ノ收益權ノミヲ出資ト爲スコトヲ諾約シタルトキハ貸貸人ト同シク擔保ノ責ニ任ス

第二百二十四條 會社契約ヲ以テ社員中ヨリ一人又ハ數人ノ業務擔當人ヲ選任シタルトキハ其各員ハ受任ノ權限ヲ踰ユルコトヲ得ス

權限ノ定マテサル業務擔當人ハ共同又ハ各別ニテ通常ノ管理行爲ヲ爲スニ止マル又業務擔當人ハ會社ノ目的中ノ重要ナル行爲ニ付テハ共同ニテノミ之ヲ爲スコトヲ得但異議アル場合ニ於テハ其行爲ヲ中止シ總社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二百二十五條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ヲ選任セサル場合ニ於テ總社員ノ一致ニテ之ヲ選任セサル間ハ社員ノ各自ハ前條ニ規定シタル行爲ヲ其條件ニ從ヒテ爲ス權ヲ有ス

第二百二十六條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ニ選任セラレタル社員ハ正當ノ原因アルトキ又ハ其承諾及ヒ總社員ノ同意ヲ得タルトキニ非サレハ委任ノ期限內ニ之ヲ解任スルコトヲ得ス

會社設立以後ノ契約ヲ以テ選任シタル業務擔當人ハ之ヲ選任シタルト同一ノ方法ヲ以テ其承諾ヲ要セスシテ之ヲ解任スルコトヲ得

第二百二十七條 業務擔當人ヲ選任シタル方法ノ如何ヲ問ハス其中ノ一人又ハ數人ノ死亡、辭任又ハ解任アリテ此等ノ事件ノ爲メニ會社ノ解散セサルトキハ總社員ノ過半數ヲ以テ其補闕者ヲ選任ス

第二百二十八條 右ノ外會社定款ノ執行ニ關スル總テノ處分ハ亦社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ定ム
定款ニ反スル行爲又ハ定款外ノ行爲ニ付テハ總社員ノ一致ヲ得ルヲ必要トス

本條ハ定款又ハ法律ノ之ニ反スル規定ヲ妨ケス

第二百二十九條 第三者カ會社ト業務擔當社員ノ一人トニ對シテ同性質ノ債務ヲ負擔シタルトキ其第三者カ二箇ノ債務ヲ消滅セシムルニ足ラサル金錢又ハ有價物ヲ此社員ニ辨濟スルニ於テハ其社員ハ會社ノ債權額ト自己ノ債權額トノ割合ニ應スルニ非サレハ自己ノ債權ノ辨濟ニ之ヲ充當スルコトヲ得ス但債務者ノ爲シタル充當ヲ變更スルコトヲ得ス

然レトモ債務者カ正當ノ利益ナクシテ社員ノ債權額ノ全部ニ充當シタルトキハ社員ハ此辨濟ノ額內ヨリ右ノ割合ニ應スル部分ヲ會社ニ分與スル責ニ任ス

債務者又ハ社員カ有効ナル充當ヲ爲ササルトキハ財産編第四百七十二條ニ從ヒテ法律上ノ充當ノ規則ヲ適用ス

第二百三十條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス社員ニシテ會社ノ債務者ヨリ會社ニ對スル債務ノ一分ヲ受取リタル者ハ場合ノ如何ニ拘ハラズ會社ニ其利益ヲ得セシムルコトヲ要ス但自己ノ持分トシテ受取證書ヲ與ヘタルトキト雖モ亦同シ

第二百三十一條 業務擔當人タルト否トヲ問ハス各社員ハ其過失又ハ懈怠ニ因リテ會社ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

此損害ハ社員カ會社營業ノ他ノ事件ニ付キテ會社ニ得セシメタル利益ト相殺スルコトヲ得ス但其事件ノ互ニ連絡シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百三十二條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ヲ選任セサルカ爲メニ業務ヲ取扱フ社員ハ自己ノ業務ニ於ケルト同一ノ注意ヲ加ヘサルトキニ非サレハ其過失ノ責ニ任セ

第二百三十三條 各社員ハ會社資本中ニ於テ使用スルコトヲ得ル金額ナキトキハ會社

ノ所屬物ニ關スル必要及ヒ保持ノ費用ヲ自己ノ權利ノ割合ニ應シテ分擔スル責ニ任ス

第三百二十四條 業務擔當人タルト否トナ問ハス各社員ハ會社ヲシテ自己ノ出資外ニ會社ノ爲メ有益ニ立替ヘタル金額ヲ返還セシメ又ハ會社ノ利益ノ爲メ善意ニテ負擔シタル義務ヲ認諾セシメ又ハ會社ノ營業ノ爲メ自己ノ財産ニ受ケタル避ケルヲ得サル損害ヲ賠償セシムルコトヲ得

第三百二十五條 會社營業ノ爲メ社員ノ立替ヘタル金額ハ其使用ノ日ヨリ當然利息ヲ生ス

之ニ反シテ各社員ハ自己ノ營業ノ爲メ會社資本中ヨリ引出シタル金額ニ付テハ當然會社ニ對シテ其利息ヲ負擔シ尙ホ損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス

第三百二十六條 社員ハ會社解散ノ際ニ現在スル資本ニ於ケル各自ノ持分ヲ會社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ隨意ニ定ムルコトヲ得但第三百二十八條ニ掲ケタル二箇ノ場合ハ此限ニ在ラス

第三百二十七條 社員ハ其一人又ハ數人ノ持分カ利益及ヒ損失ニ於テ同一ナラサルヲ合意スルコトヲ得

然レトモ利益ノミヲ豫見シテ右ノ持分ヲ定メタルトキハ損失ニ付テモ同一ノ定方ヲ合意シタリトノ推定ヲ受ケ

如何ナル場合ニ於テモ受ケタル損失ヲ控除シ會社ノ貸方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ配當ス可キ利益ト看做サス又右貸方ヲ場シタル後借方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ損失ト看做サス
然レトモ會社ノ存立中ニ詐害ナクシテ既ニ爲シタル利益又ハ損失ノ一分ノ配當ハ

之ヲ變更セス

第三百二十八條 會社資本ノ全部又ハ會社ノ得タル利益ノ全部ヲ社員中ノ一人ニ歸ス可キ約款ハ無効ナリ

技術又ハ勞力ヲ出資ト爲シタル社員ニ非サル社員ニ全ク損失ノ負擔ヲ免カレシム可キ約款モ亦同シ

會社契約ニ右ノ約款ヲ附記シタルトキハ其約款ハ契約全ク無効ナラシム又日後ニ右ノ約款ヲ追加シタルトキハ其約款ハ契約ノ存立ヲ妨ケスシテ會社ノ清算ハ第四百四十一條ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三百二十九條 社員ハ自己ノ選任セシ又ハ選任ス可キ社員又ハ外人タル一人若クハ數人ノ仲裁人ヲシテ會社解散ノ際各自ノ持分ヲ定メシムルコトヲ會社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ合意スルコトヲ得

仲裁人ノ爲シタル定方ハ仲裁人カ仲裁ノ適法ノ方式又ハ仲裁契約ヲ以テ授ケラレタル條件ヲ履行セサルカ又ハ明カニ公平ヲ失シタルトキニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ス

右定方ノ無効ノ請求ハ此ニ因リテ害ヲ受ケタリト主張スル社員ニ在テハ其社員カ定方ノ執行ニ加ハリタルトキ又ハ其定方ヲ知リタルヨリ三個月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十條 會社契約ヲ以テ持分ノ定方ヲ仲裁人ニ委任ス可キコトヲ定メタル場合ニ於テ少ナクトモ社員ノ過半數カ仲裁人ヲ選任スルコトニ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ其選任ヲ爲ス選任セラレタル仲裁人カ定方ヲ爲スコトヲ欲セス又ハ之ヲ爲スコト能ハサルニ當リ社員カ其改選ニ付キ一致セサルトキモ亦同シ

第四百十一條 社員自身ニテ若クハ仲裁人ヲ以テ持分ノ定方ヲ爲サス又ハ仲裁人ノ定方ノ無効ト爲リタルトキハ會社資本及ヒ利益又ハ損失ハ社員ノ出資額ノ割合ニ應シテ之ヲ配當ス

社員ノ出資ト爲シタル技術又ハ勞力ノ評價ナキトキハ裁判所ハ各般ノ事情ヲ斟酌シテ其出資ノ價額ヲ定ム

技術又ハ勞力ト財產トヲ出資ト爲シタル社員ハ前項ニ定メタル價額ノ外尙ホ其財產ノ價額ニ從ヒテ計算シタル持分ノ配當ヲ受ク

第四百十二條 各社員ハ自己ノ持分ニ第三者ヲ組合サシムルコトヲ得又其持分ヲ質入シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得然レトモ此等ノ行爲ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス但會社契約ヲ以テ社員ニ此權利ヲ認許シタルトキハ此限ニ在ラズ此場合ニ於テ會社カ社員ノ讓渡サント欲スル持分ヲ消却スル爲メ先買權ヲ留保シタルトキハ自己ノ持分ヲ讓渡サントスル社員ハ會社カ其先買權ヲ行フカ拋棄スルカニ付キ之ヲ遲滯ニ付スルコトヲ要ス

第四百十三條 業務擔當人カ會社ノ名ヲ以テ又ハ會社ノ營業ノ爲メ有效ニ負擔シタル義務ハ會社カ法人ヲ成セルトキハ各社員ノ一身上ノ債權者ニ先タチ會社資本ヲ以テ之ヲ擔保ス

會社資本ノ不十分ナル場合又ハ訴追債權者ニ其資本ヲ示ササル場合ニ於テハ總社員ハ連帶シテ會社ノ義務ヲ負擔ス會社カ法人ヲ成ササルトキモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ各社員間ノ決算ハ第三百三十六條乃至第四百十一條ニ規定シタル貸方及ヒ借方ニ於ケル各自ノ持分ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三節 會社ノ解散

第四百十四條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ當然解散ス

第一 會社契約ヲ以テ指定シタル期間ノ滿了又ハ解除條件ノ成就

第二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

第三 會社資本ノ全部又ハ半額以上ノ損失

第四 社員ノ一人ノ技術、勞力又ハ收益ヲ以テスル繼續ノ出資ヲ爲スノ不能

第五 社員ノ一人ノ死亡、禁治產、破產又ハ顯然ノ無資力但第四百十七條ノ規定ヲ妨ケス

第四百十五條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ之ヲ解散スルコトヲ得

第一 如何ナル場合ヲ問ハス社員ノ一致ノ意思

第二 會社ニ明示又ハ默示ノ一定ノ期間ナキ場合ニ於テ惡意ニ非ス又ハ不都合ノ時期ニ非スシテ解散ノ請求ヲ爲ストキハ社員一人ノ意思

第三 會社ニ一定ノ期間アルトキト雖モ社員ノ一人ノ義務不履行ニ基キタル解除ノ訴又ハ正當ノ理由ニ基キタル解散ノ請求

第四百十六條 社員ハ會社ノ期間ノ滿了前ニ明示又ハ默示ニテ其期間ヲ伸長スルコトヲ得

默示ノ伸長ハ一定ノ期間ノ滿了後ニ於テ社員ノ一人タモ故障ヲ爲サスシテ會社營業ノ繼續シタル事實ヨリ生スルコトヲ得此場合ニ於テ會社ハ前條第二號ニ從ヒ社員ノ一人ノ意思ヲ以テ之ヲ解散スルコトヲ得

第四百十七條 社員ハ第四百十四條第五號ニ掲ケタル原因ニ由リテ會社ヲ解散セス且闕員ノ持分ヲ定メ他ノ社員ニテ之ヲ繼續スルヲ合意スルコトヲ得

又社員ハ死亡シタル社員ノ相續人又ハ無能力ト爲リタル社員ト共ニ會社ヲ繼續ス

ルヲ合意スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ和續人又ハ無能力者ノ合式ノ代人ノ新ナル承諾ヲ要ス

第四節 會社ノ清算及ヒ分割

第四百十八條 會社ノ解散シタルトキハ社員ノ各自又ハ其承繼人ヨリ清算ヲ請求スルコトヲ得

清算ハ分割前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但社員ノ多數カ全部又ハ一分ノ分割ヲ先ニスルコトヲ請求シタルトキハ此限ニ在ラス

又會社ノ各債權者ハ清算前ニ分割ヲ爲スコトニ付キ故障ヲ申立ツルコトヲ得

第四百十九條 清算ハ左ノ諸件ヲ包含ス

- 第一 著手シタル業務ノ成就
- 第二 會社ノ債務ノ辨濟及ヒ其債權ノ取立
- 第三 各社員ト會社トノ間ノ特別ナル計算
- 第四 分割ス可キ貸方又ハ負擔ス可キ借方ニ於ケル各社員又ハ其代人ノ持分ノ指定

第五百十條 會社契約ニ清算人ノ選任及ヒ其權限ニ關スル約款ナキトキハ清算ハ或ハ總社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一致ヲ以テ委任シタル一人若クハ數人ノ社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一致ヲ以テ選任シタル第三者之ヲ爲ス

社員カ清算人ノ選任ニ付キ一致セザルトキハ裁判所ニ於テ之ヲ選任ス

第五百十一條 清算人ハ如何ナル場合ヲ問ハス速ニ毀損又ハ滅盡ス可キ物ヲ讓渡スコトヲ要ス

滿期ト爲リタル債務ノ辨濟ノ爲メ必要ナルトキハ此他ノ動産ヲ讓渡スコトヲ得

不動産ニ付テハ清算人ハ社員ノ特別ナル委任ヲ受クルニ非サレハ之ヲ抵當トシ又ハ讓渡スコトヲ得ス

前項ノ讓渡ハ競賣競落ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但協議上ノ讓渡ヲ許シタル場合ハ此限ニ在ラス孰レノ場合ニ於テモ社員ノ過半数ヲ以テ決スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ名ヲ以テ原告又ハ被告トシテ訴訟ヲ爲スコトヲ得

清算人カ會社ノ債務又ハ債權ニ付キ承諾シタル和解及ヒ仲裁ハ第三者ト通謀シタル詐欺ノ爲メニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ス

第五百十二條 清算ニ於ケル總計算ハ社員ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

右ノ計算ヲ認可スルニハ社員ノ過半数ノ議決ヲ以テ足レリトス

此議決ハ總計算ニ付キ之ヲ爲シ又ハ計算ノ或ル部分ニ付キ各別ニ之ヲ爲スコトヲ得

認可ヲ得サル計算ニシテ仕直スコトヲ得ヘキモノナルトキハ清算人其費用ヲ以テ之ヲ爲ス若シ仕直スコトヲ得サルトキハ清算人ハ代理ノ規則ニ從ヒ其過失ニ因リテ加ヘタル損害ノ責ニ任ス

清算人ノ受任シタル權限ニ依リ又ハ前條ニ從ヒテ爲シタル行爲ハ善意ナル第三者ニ對シ之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百十三條 會社ノ清算後ハ不分ニテ存スル財産ノ分割ハ社員ノ各自又ハ其承繼人ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得但當事者カ財産編第三十九條ニ從ヒ不分ニテ存スルコトヲ會社ノ解散後ニ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百十四條 分割部分ノ定方又ハ其配付ニ付キ當事者ノ一致セザルトキハ財産共

通ノ分割ノ爲メ別ニ定メタル規則ニ從フ

第一百五十五條 會社資本中ノ物ニシテ分割ニ因リ各社員ニ歸シタルモノニ關スル其社員ノ權利ハ會社解散ノ日ニ遡リテ效力ヲ有シ又清算中他ノ社員ヨリ其物ニ付キ

第一百五十六條 分割者ハ分割ニ因リテ取得ス可キ權利ノ上ニ受クルコト有ル可キ妨礙及ヒ追奪ニ付キ其各自ノ部分ニ應シテ相互ニ擔保ヲ爲ス
分割者ノ一人カ無資力トナルトキハ其一人ノ負擔シタル賠償ノ部分ハ被擔保人ヲ併セテ他ノ共同分割者ノ間ニ之ヲ分ツ

第七章 射倅契約

總則

第五十七條 射倅契約トハ當事者ノ雙方若クハ一方ノ損益ニ付キ其效力カ將來ノ不確定ナル事件ニ繫ル合意ヲ謂フ

第五十八條 射倅契約ニハ其性質ニ因ルモノ有リ當事者ノ意思ニ因ルモノ有リ博戲、賭事、終身年金權其他終身權利ノ設定、陸上、海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ性質ニ因ル射倅ノモノナリ
此他成立又ハ效力ヲ停止又ハ解除ノ偶成ノ條件ニ繫ラシムル契約ハ當事者ノ意思ニ因ル射倅ノモノナリ

第五十九條 陸上、海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第一節 博戲及ヒ賭事

第六十條 博戲ハ博戲者ノ勇氣、力量、巧技ヲ發達ス可キ性質ナル體操運動ヲ目的トスルニ非サレハ其義務履行ノ爲メ訴訟權ヲ許サス

賭事ニ基ク訴訟權ハ右ノ如キ體操運動ヲ爲ス人ノ爲メ又ハ賭者ノ直接ニ關係スル農工商業ノ進歩ノ爲メニ非サレハ亦之ヲ許サス
右ノ博戲又ハ賭事ニ於テ諾約シタル金額又ハ有價物カ事情ニ照シテ過度ナリト見ユルトキハ裁判所ハ之ヲ減少スルコトヲ得スシテ全ク其請求ヲ棄却スルコトヲ要ス

第六十一條 前條ノ場合ノ外博戲及ヒ賭事ハ自然義務ヲモ生セス且其債務ノ追認更改又ハ保證ハ總テ無効ナリ
然レトモ右博戲又ハ賭事ニ因ル有能力者ノ任意ノ辨濟ハ之ヲ取戻スコトヲ許サス但勝者ニ於テ詐欺又ハ欺瞞アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六十二條 官許ヲ得サル富講ハ訴訟權ナキ博戲及ヒ賭事ト同視ス
商品又ハ公ノ證券ノ投機ノ定期賣買ニ付テモ初ヨリ當事者カ諾約シタル金額又ハ有價物ノ引渡及ヒ辨濟ヲ實行スルニ意ナク單ニ相場昂低ノ差額ヲ計算スルノミチ目的トシタルコトヲ被告ノ證スルトキモ亦同シ

第六十三條 前二條ノ場合ニ於テ被告ヨリ無効ノ抗辯ヲ申立テサルトキハ判事ハ職權ヲ以テ其無効ヲ言渡スコトヲ得但契約又ハ請求ニ於テ博戲富講又ハ相場差額ノ賭事カ債務ノ原因タルコトヲ明言セシトキニ限ル

第二節 終身年金權

第一款 終身年金權ノ設定

第六十四條 終身年金權ハ動產若クハ不動産ナル元本ノ讓渡ノ報酬又ハ既往若クハ將來ノ勤勞ノ報酬トシテ有償ニテ之ヲ設定スルコトヲ得
又贈與又ハ遺贈ヲ以テ無償ニテ之ヲ設定スルコトヲ得

又終身年金權ハ有償又ハ無償ニテ讓渡シタル元本ノ上ニ留存シテ之ヲ設定スルコトヲ得

第六十五條 終身年金權ハ對價物ノ供與者ニ非サル人ノ利益ノ爲メ之ヲ要約スルコトヲ得

此場合ニ於テハ要約者ト諾約者トノ間ニ在テハ有償契約ノ規則ニ從ヒ要約者ト得益者トノ間ニ在テハ贈與ノ規則ニ從フト雖モ贈與ノ方式ニ從フコトヲ要セス

第六十六條 終身年金權ハ債權者若クハ債務者ノ終身ナ期シ又ハ第三者ノ終身ナ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得

此末ノ場合ニ於テ契約カ有償ナルトキハ其成立ニ付キ第三者ノ承諾ヲ必要トス然レトモ此承諾前ニ辨濟シタル年金ハ之ヲ取戻スコトヲ得ス

第六十七條 終身年金權ハ同時又ハ順次ニ數人ノ債權者ノ終身ナ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得

此場合ニ於テハ財産編第百條ノ用益權ニ關スル規定ヲ適用ス

第六十八條 有償ノ終身年金權ノ契約ハ其設定ノ爲メ終身ナ期セラレタル人カ合意ノ當時ニ於テ既ニ死亡シタルトキハ當事者雙方其死亡ヲ知ラスト雖モ無効ナリ右ノ人カ合意ノ當時ニ於テ既ニ罹レル疾病ノ爲メ六十日內ニ死亡シタルトキハ其契約ハ當然之ヲ解除ス

第六十九條 無償ノ終身年金權ハ設定者ニ於テ之ヲ讓渡スコトヲ得又且差押フルコトヲ得サルモノト定ムルコトヲ得

右約款ハ設定證書ニ記入シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス發料トシテ無償ニテ設定シタル終身年金權ハ當然讓渡スコトヲ得又且差押フルコトヲ得サルモノナリ

トヲ得サルモノナリ

本條ノ規定ハ贈與者ノ利益ノ爲メ贈與財産上ニ留存シタル終身年金權及ヒ支拂時期ノ至リタル年金ニ之ヲ適用セス

第七十條 終身年金權ノ讓渡及ヒ差押ノ禁止ハ其一事ノミヲ要約シタルトキト雖モ二事共ニ存立ス

第二款 終身年金權ノ契約ノ効力

第七十一條 債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ナ期セラレタル人ノ生存中ハ其年金權ノ年金ヲ支拂フコトヲ要シ且買戻ヲ爲スコトヲ得ス但其買戻ニ付キ特別ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第七十二條 年金ハ毎月又ハ此ヨリ長キ時期ニ於テ其支拂ヲ爲スコトキト雖モ債權者日割ヲ以テ之ヲ取得ス

然レトモ年金ヲ前拂スコトキハ債務者ハ既ニ支拂時期ノ始マリタル全一期分ヲ負擔ス

第七十三條 債權者ハ解除ノ權利ヲ留保セサルトキハ年金支拂ノ欠缺ノ爲メ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得ス只其債務者ノ財産中ニ於テ年金ヲ受クルニ足ル可キ部分ヲ差押ヘ之ヲ賣却セシメ其賣却代金ヨリ生スル利息ヲ以テ年金ノ支拂ニ充ツルコトヲ得但他ノ債權者ノ競取ヲ拒ムコトヲ得ス

終身年金權ヲ無償ニテ設定シ又ハ贈與若クハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタルトキモ亦右ト同一ニ處辨ス

第七十四條 終身年金權ノ債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ナ期セラレタル人カ支拂ノ時期ニ生存セシコトヲ債權者ヨリ生存認證書ヲ以テ證セサルトキハ其年金

ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得

此認證書ハ其人ノ現住地ノ受持公證人又ハ身分取扱人之ヲ交付ス

第三款 終身年金權ノ消滅

第七十五條 有償ノ終身年金權ノ債務者カ年金支拂ノ爲メ諾約シタル擔保ヲ供セ
又ハ供シタル擔保ヲ減少スルトキハ債權者ノ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得但
既ニ取得シタル年金ヲ返還スル責ナシ
贈與又ハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタル終身年金權ノ債權者モ亦右ト同一ノ權利ヲ
有ス

右ノ解除ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ナ期セラレタル人カ確定判決前ニ死亡シタル
トキハ之ヲ宣告セス

第七十六條 普通法ニ於テ許シタル銷除及ヒ廢罷ノ原因ハ終身年金權ニ之ヲ適用
ス

終身年金權ハ此他尙ホ更改、合意上ノ免除、混同、時効及ヒ要約シタル受戻ニ因リ
テ消滅ス

然レトモ終身年金權カ第六十九條及ヒ第七十條ニ從ヒ法律又ハ人爲ニ依リテ
讓渡スコトヲ得ヌ又ハ差押フルコトヲ得サルモノナルトキハ其年金權ハ時効ニ罹
ラス

如何ナル場合ニ於テモ年金ハ支拂時期後五個年ニシテ時効ニ罹ル

第七十七條 終身年金權ハ其設定ノ爲メ終身ナ期セラレタル人ノ死亡ニ因リテ消
滅ス但第六十八條ノ規定ヲ妨ケス
然レトモ終身ナ期セラレタル人カ債務者ノ責ニ歸ス可キ不正ノ原因ニ由リテ死亡

シタル場合ニ於テ其年金權ヲ有償ニテ又ハ贈與若クハ遺贈ノ負擔トシテ設定シタ
ルトキハ其契約又ハ惠與ハ之ヲ解除ス且債務者ハ既ニ支拂ヒタル年金ヲ取戻サス
シテ其取得シタル財産ヲ返還スルコトヲ要ス
右ト同一ノ死亡ノ場合ニ於テ其年金權ヲ直接ニ贈與シ又ハ遺贈シタリシトキハ年
金ノ支拂ハ裁判所カ終身ナ期セラレタル人ノ生命ノ繼續期ト推測スル期間之ヲ繼
續セシム

第八章 消費貸借及ヒ無期年金權

第一節 消費貸借

第七十八條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ代替物ノ所有權ヲ他ノ一方ニ移轉シ他ノ
一方カ或ル時期後ニ同數量及ヒ同品質ノ物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ

第七十九條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ裁判所ハ當事者ノ意思ヲ推
測シ且事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム
返還ノ場所ノ定マラサリシトキハ無利息ノ貸借ニ付テハ貸主ノ住所又利息附ノ貸
借ニ付テハ借主ノ住所ニ於テ其返還ヲ爲ス

第八十條 不可抗力ニ因リテ借用物ヲ返還スルコト能ハサルトキハ借主ハ其物
ノ不可抗力ニ罹リシ日及ヒ場所ノ相場ニ從ヒテ算定シタル其物ノ價額ヲ負擔ス

第八十一條 貸主ニ屬セサル物ノ貸借ハ無効ナリ其貸借カ利息附ニシテ且借主カ
善意ナリシトキハ貸主ハ借主ニ對シテ擔保ノ責ニ任ス
然レトモ此貸借ハ左ノ場合ニ於テハ有効ナリ

- 第二 借主カ善意ニテ借用物ヲ消費シタルトキ
- 第二 借主カ時効ニ因リ眞所有者ノ回復ノ請求ヲ排却シタルトキ

第三

眞所有者カ貸借ヲ認諾シタルトキ

第百八十二條 貸借物ニ借主ノ了知セシテ貸主ノ了知シタル限レタル瑕疵アリテ借主爲ノニ損害ヲ受ケタルトキト雖モ貸主ハ無利息ノ貸借ニ付テハ其損害ノ責ニ任セス但貸主ニ詐欺アリ又ハ加害ノ意思アリタルトキハ此限ニ在ラス
此貸借カ利息附ナルトキハ貸主ノ了知セサリシ限レタル瑕疵ト雖モ之ヲ了知スルコトヲ得ヘキトキハ其責ニ任ス
此他賣買廢却訴權ニ關スル第九十四條乃至第一百一條ノ規定ハ之ヲ消費貸借ニ適用スルコトヲ得

第百八十三條 財産編第四百六十三條乃至第四百六十六條ハ正貨又ハ強制通用ノ紙幣ニテ爲シタル消費貸借ニ之ヲ適用ス

然レトモ貸主カ財産編第四百六十五條ノ許セル金貨若クハ銀貨ヲ以テ指定シタル價額ノ辨濟ヲ受ケ又ハ此等ノ正貨ノ一ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ要約スルニハ同性質ノ正貨又ハ他ノ正貨若クハ紙幣ヲ以テ對當ノ價額ヲ實際ニ貸付スルコトヲ要ス

第百八十四條 貸借ヲ金銀塊ニテ爲シタルトキハ借主ハ他ノ商品ノ貸借ノ如ク同一ノ性質、重量及ヒ品格ノ金銀塊ヲ返還スルコトヲ要ス

第百八十五條 金錢、日用品又ハ商品ノ借主ハ使用ノ報酬トシテ元本ノ外ニ利息ノ名目ヲ以テ借用物ノ割合ニ應スル金額又ハ有價物ノ辨濟ヲ約スルコトヲ得

第百八十六條 利息ハ要約シタルニ非サレハ借主ニ對シテ之ヲ要求スルコトヲ得ス借主ヨリ利息ヲ辨濟ス可キノ合意アリテ其額ノ定ナキトキハ其割合ハ法律上ノ利息ニ從フ

要約セラレサル利息ヲ法律ノ制限内ニテ任意ニ辨濟シタル借主ハ之ヲ取戻シ又ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得ス

第百八十七條 合意上ノ利息ハ法律上ノ利息ヲ超ユルコトヲ得但法律ヲ以テ特ニ定メタル合意上ノ利息ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

法律ノ制限ヲ超エテ顯然ニ利息ヲ定メタルトキハ之ヲ法律ノ制限ニ減却シ此制限ヲ超エテ爲シタル辨濟ハ之ヲ元本ノ辨濟ニ充當シ又ハ之ヲ取戻スコトヲ得
債權者カ實際ニ貸付シタル元本ヲ超ユル元本ヲ認メシメ又ハ其他ノ方法ヲ以テ不正當ノ利息ヲ隱秘シタルトキハ債務者ハ其不正當ノ利息ヲ辨濟スルコトヲ要セス若シ辨濟シタルトキハ之ヲ取戻スコトヲ得

第百八十八條 貸主ハ支拂時期ノ至リタル利息ニ付キ異議ヲ爲サスシテ元本ノ全部又ハ一分ヲ受取リタルトキハ其利息ヲ受取リ又ハ之ヲ拋棄シタルトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第百八十九條 十年ヲ超ユル期間ヲ以テ利息附ノ貸借ヲ爲シタルトキハ借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ十年後ハ常ニ辨濟ヲ爲ス權能ヲ有ス
然レトモ年賦金ヲ以テ利息ノ外尙ホ元本ノ幾分ヲ漸次ニ辨濟ス可キトキハ其取越辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十條 第百八十六條乃至第百八十九條ノ規定ハ消費貸借ヨリ生スル義務ヲ除ク外金錢又ハ定量物ノ義務及ヒ合意上法律上ノ利息ニ之ヲ適用ス

第百九十一條 貸主ハ元本ノ要求ヲ爲スコトヲ自ラ禁止シ年金ノミヲ受取ルコトヲ要約スルコトヲ得之ヲ無期年金權ノ設定ト謂フ

此禁止ハ明示ナルカ又ハ明カニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス

第九十二條 無期年金ノ債務ヲ負擔スル借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ常ニ其受取リタル元本ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得

然レトモ借主ハ十個年ヲ超エサル或ル時期前ニ辨濟ヲ爲ササルヲ約スルコトヲ得右期間ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ亦十個年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヲ超ユルトキハ十個年ニ短縮ス

辨濟ハ反對ノ合意アラサルトキハ全部タルコトヲ要ス

債務者ハ六个月前ニ辨濟ヲ爲ス意思ヲ債務者ニ豫告スルコトヲ要ス但當事者ニ於テ他ノ期間ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

債務者ハ自己ノ定メタル時期ニ於テ辨濟ヲ爲ササルトキハ其損害賠償ノ責ニ任ス然レトモ辨濟ノ強要ヲ受クルコト無シ但更改アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十三條 債務者ハ財産編第四百五條第一號乃至第三號ニ依リテ尋常ノ債務者カ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ場合又ハ合式ノ付遲滞ヲ受ケタル後引續キ二個年間年金ノ辨濟ヲ缺キタル場合ニ於テハ元本辨濟ノ強要ヲ受ク

此末ノ場合ニ於テ裁判所ハ財産編第四百六條ニ從ヒ債務者ニ恩惠上ノ期限及ヒ分割辨濟ヲ許與スルコトヲ得

第九十四條 前二條ノ規定ハ不動産讓渡ノ代價若クハ條件トシテ設定シ又ハ無償ニテ設定シタル無期年金權ニ之ヲ適用ス

右孰レノ場合ニ於テモ辨濟ハ當事者ノ評定シタル元本ヲ以テ之ヲ爲シ元本又ノ評定ナキトキハ法律上ノ利息ノ割合ニ從ヒテ計算シタル年金ヲ生ス可キ元本ヲ以テ之ヲ爲ス

日用品ヲ以テ年金ニ充ツルトキハ辨濟ハ特別ノ合意アルニ非サレハ前十個年間ノ其平均代價ニ基キ計算シタル元本ヲ以テ之ヲ爲ス

第九章 使用貸借

第一節 使用貸借ノ性質

第九十五條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ使用ノ爲メ之ニ動産又ハ不動産ヲ交付シ明示又ハ默示ニテ定メタル時期ノ後他ノ一方カ其借受ケタル原物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ

此貸借ハ本來無償ナリ

第九十六條 借主ハ使用ノ物權ヲ取得セス單ニ貸主及ヒ其相續人ニ對シテ人權ヲ取得ス

借主ノ權利ハ其相續人ニ移轉セス但其相續人カ當事者ノ意思ノ之ニ異ナルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス又其相續人カ他ヨリ同種ノ物ノ使用ヲ得ル爲メ裁判所ヨリ返還猶豫ノ期間ヲ受クルコトヲ妨ケス

第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務

第九十七條 借主ハ借用物ノ性質又ハ合意ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ且貸借期間ニ非サレハ其物ヲ使用スルコトヲ得ス

借主ハ其他ノ使用又ハ期限後ノ使用ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ勿論又其使用ニ際シ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル滅失又ハ毀損ニ付テモ其責ニ任ス

第九十八條 借主ハ自己ノ物ヲ用キテ借用物ノ滅失又ハ毀損ヲ免カレシムルコトヲ得ヘキトキ又ハ自己ノ物ト借用物トカ同時ニ危険ヲ受クルニ際シ自己ノ物ノ

ミテ救護シタルトキモ亦意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ノ責ニ任ス

第九十九條 借主ハ借用物保持ノ通常費用ヲ負擔シ貸主ニ對シテ其償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第二百條 借主ハ合意セシ時期ニ於テ借用物ヲ返還スルコトヲ要ス其時期前ト雖モ許サレタル使用ヲ終リシトキハ亦同シ但第二百三條第二項ノ規定ヲ妨ケス
返還ノ時期ヲ定メス且物ノ使用ヲ繼續ス可キモノナルトキハ裁判所ハ貸主ノ請求ニ因リテ返還ノ爲メ相應ナル時期ヲ定ム

第二百一條 借主カ借用物ノ第三者ニ屬スルコトヲ了知スルトキト雖モ貸主又ハ其代人ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス但第三者カ其返還ニ付キ合式ニ故障ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

此末ノ場合ノ外返還ハ貸主又ハ其代人ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス
第二百二條 數人連合シテ同時又ハ交互ニ用ユル爲メ一箇ノ物ヲ借用シタルトキハ各自連帶ニテ上ノ義務ヲ負擔ス

第二百三條 貸主ハ明示又ハ默示ニテ借主ニ許シタル期限前ニ貸付物ノ返還ヲ要求スルコトヲ得ス

然レトモ其物ニ付キ急迫ニシテ且豫期セサル費用ノ生シタルトキハ貸主ハ裁判所ニ請求シテ期限前ニ一時又ハ永久ノ返還ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四條 貸主ハ借主カ借用物保存ノ爲メ支出シタル必要且急迫ナル費用ヲ之ニ辨償スル責ニ任ス
又貸主ハ貸付物ノ瑕疵ノ爲メニ借主ノ受ケタル損害ニ付テハ第八十二條第一項

ノ規定ヲ適用ス

第二百五條 借主ハ前條ニ依リテ自己ノ受ク可キ賠償ヲ得ルマテ借用物ニ付キ留置權ヲ行フコトヲ得

第十章 寄託及ヒ保管

第一節 寄託

第二百六條 寄託ハ一人カ動産ヲ交付シ他ノ一人カ之ヲ看守シ要求次第直チニ原物

ヲ返還スル契約ナリ

寄託ハ本來無償ナリ

寄託ニハ任意ノモノ有リ急迫ノモノ有リ

第一款 任意寄託

第二百七條 任意ノ寄託ハ寄託者カ寄託ノ時日場所及ヒ受寄者ヲ自由ニ選擇スルコ

トヲ得ル場合ニ於テ成ルモノナリ

第二百八條 寄託ハ所有者ノミナラス尙ホ物ノ看守及ヒ保存ニ付キ利害ノ關係アル

人又ハ其代理人之ヲ爲スコトヲ得

又寄託ハ無能力者ノ法律上ノ代人之ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 寄託ハ契約ヲ爲ス完全ノ能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ

得ス

然レトモ無能力者ハ猶ホ自己ノ手ニ存スル寄託物ノ返還又ハ寄託ニ因リテ得タル

利益ノ返還ニ付キ民事上其責ニ任ス但背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケス

第二百十條 受寄者ハ寄受物ノ看守及ヒ保存ニ付テハ自己ノ財産ニ加フルト同一ノ

注意ヲ爲スコトヲ要ス

然レトモ受寄者カ自ラ求メテ寄託ヲ受ケ又ハ單ニ自己ノ利益ヲ目的トシ要用ニ從ヒ受寄物ヲ使用スルノ許諾ヲ得テ寄託ヲ受ケタルトキハ受寄者ハ善良ナル管理人ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス但此末ノ場合ニ於テ受寄者カ其物ヲ使用シタルトキハ第九十八條ノ規定ヲ適用ス

第二百一十一條 受寄物返還ノ遲滞ニ付セラレタル受寄者ハ普通法ニ從ヒ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ル滅失ノ責ニ任ス

第二百一十二條 寄託者カ受寄者ニ受託物ノ性質ヲ隱秘シタルトキハ受寄者之ヲ知ラント探求スルコトヲ得ス又其性質ヲ受寄者ノミニ知ラシメタル場合ニ於テモ受寄者之ヲ他人ニ漏泄スルコトヲ得ス若シ之ヲ漏泄シタル爲メ損害アルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第二百一十三條 受寄者ハ受寄物ヲ使用シ又ハ其果實ヲ消費スルコトヲ得ス但此カ爲メ寄託者ノ明示又ハ明示ノ許諾アリタルトキハ此限ニ在ラス

此許諾ハ寄託ニ使用貸借ノ性質ヲ與フルニ足ラス

第二百一十四條 受寄者ハ其收取シタル果實及ヒ產出物ト又之ヲ金錢ニ換ヘサルヲ得サリシトキハ其代金ト共ニ原物ヲ返還スルコトヲ要ス但前條ノ規定ヲ妨ケス

受寄者カ受寄物ニ付キ或ル償金又ハ或ル權利若クハ利益ヲ取得シタルトキハ之ヲ寄託者ニ移轉スルコトヲ要ス

又受寄者カ故意ニテ受寄物ヲ消費シ讓渡シ又ハ隱匿シタルトキハ遲滞ニ付セラレルコト無クシテ當然損害賠償ノ責ニ任ス但背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケス

第二百一十五條 受寄者ノ相續人カ受寄物ナルコトヲ知ラスシテ其物ヲ消費シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ其相續人ハ此ニ因リテ得タル利益ノ額ニ滿ツルマテ賠償ノ責

ニ任ス

右ノ規定遺忘又ハ錯誤ニ因リ自己ノ物トシテ受寄物ヲ處分シタル受寄者ニ之ヲ適用ス

第二百一十六條 寄託物ノ返還ハ寄託者又ハ其法律上若クハ合意上ノ代人ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百一十七條 返還ニ付キ場所ヲ定メサリシキハ受寄者カ受寄物ヲ移置シタルモ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還ス但寄託者ヲ詐害スル意思アルトキハ此限ニ在ラス

第二百一十八條 寄託者ノ要求次第物ヲ返還ス可キ受寄者ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一 受寄者カ其物ノ自己ニ屬スルコトヲ證スルコトヲ得ルトキ

第二 受寄者カ次條ニ從ヒテ留置權ヲ行フコトヲ得ルトキ

第三 受寄者カ拂渡差押ノ合式ノ告知ヲ受ケタルトキ

第四 受寄者カ受寄物ノ盜品ナルコトヲ覺知シ且其所有者ヲ知リタルトキ但此場合ニ於テ受寄者ハ所有者ニ其寄託ヲ受ケタルコトヲ通知シ且指定セル相應ノ期間ニ寄託者ト立會ノ上ニテ其物ヲ要求ス可ク若シ此期間ヲ過ク

ルモ立會ハサルトキハ寄託者ニ返還ヲ爲ス可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

第二百一十九條 寄託者ハ寄託物ノ保存ノ爲メ受寄者ノ支出シタル必要ノ費用ト其物ノ爲メニ受寄者ノ受ケタル損害トヲ賠償スルコトヲ要ス

右賠償ノ皆濟ヲ受クルマテ受寄者ハ受寄物ノ上ニ留置權ヲ行フコトヲ得

第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託

第二百二十條 寄託者カ火災洪水難船地震又ハ暴動ノ如キ不測ニシテ且不可抗ノ

事變ニ因リ已ムヲ得ス寄託ヲ爲ストキハ之ヲ急迫ノ寄託ト謂フ
急迫ノ寄託ハ諸般ノ方法ニ依リ又ハ事情ヨリ生スル事實ノ推定ニ依リテ之ヲ證ス
ルコトヲ得

此他急迫寄託ハ任意寄託ノ規則ニ從フ

第二百二十一條 旅店及ヒ下宿屋ノ主人ハ其止宿セシムル旅人ノ携帶シタル手荷物
ノ受託ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス

舟車運送人其他水陸運送ノ營業人モ亦其運送ヲ任セテラタル荷物ニ付テハ之ヲ急
迫ノ受寄者ト看做ス

然レトモ本條ノ受寄者ハ有償合意ヨリ生スル通常ノ義務ヲ負擔ス

第二節 保管

第二百二十二條 保管トハ數人ノ間ニ於テ爭論ノ目的タル物ヲ第三者ニ寄託スルヲ
謂フ

保管ハ動産又ハ不動産ヲ目的トスルコトヲ得

保管ニハ合意上ノモノ有リ裁判上ノモノ有リ

第二百二十三條 合意上ノ保管ハ其保管ニ付テモ保管人ノ選定ニ付テモ當事者ノ承
諾アルコトヲ要ス

裁判上ノ保管人ハ當事者カ其選定ニ付キ一致セサルトキニ非サレハ裁判所ハ職權
ヲ以テ之ヲ選定スルコトヲ得ス

裁判所ハ當事者ノ一人ヲ保管人ニ選任スルコトヲ得

第二百二十四條 合意上ト裁判上トヲ問ハス保管人ハ報酬ヲ受クルコトヲ得此場合
ニ於テ保管人ハ善良ナル管理人ノ通常ノ注意ヲ保管物ニ加フル責ニ任ス

第二百二十五條 裁判上ノ保管人ハ財産編第一百九條ニ從ヒテ保管物ヲ貸スルコ
トヲ得然レトモ合意上ノ保管人ハ當事者ノ特別ノ委任ヲ受クルニ非サレハ貸付ス
ルコトヲ得ス

裁判上又ハ合意上ノ保管人ハ其占有ヲ保持シ又ハ之ヲ回收スル爲メ占有訴權ヲ行
フコトヲ得

保管人ノ占有ハ爭訟ニ於テ確定ニ勝テ得タル當事者ヲ利ス

第二百二十六條 保管ニ付シタル物ハ勝テ得タル當事者ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス

然レトモ保管人ハ自己ノ責任ヲ免カルル爲メ當事者ノ許諾又ハ裁判所ノ命令ヲ求
ムルコトヲ得

第二百二十七條 右ノ外合意上及ヒ裁判上ノ保管ハ尋常ノ寄託ノ規則ニ從フ

第二百二十八條 差押物ニ於ケル裁判上ノ保管及ヒ債務者カ辨濟ニ提供シテ債權者
ノ受取ルコトヲ拒ミタル金錢若クハ有價物ノ供託ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第十一章 代理

第一節 代理ノ性質

第二百二十九條 代理ハ當事者ノ一方カ其名ヲ以テ其利益ノ爲メ或ル事ヲ行フコト
ヲ他ノ一方ニ委任スル契約ナリ

代理人カ委任者ノ利益ノ爲メニスルモ自己ノ名ヲ以テ事ヲ行フトキハ其契約ハ仲
買契約ナリ

仲買契約ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二百三十條 代理ハ默示ニテ之ヲ委任シ及ヒ之ヲ受諾スルコトヲ得

第二百三十一條 代理ハ無償ナリ但反對ノ明示又ハ默示ノ合意アルトキハ此限ニ在

ラス

第二百三十二條 代理ニハ總理ノモノ有リ部理ノモノ有リ

總理代理ハ爲ス可キ行爲ノ限定ナキ代理ニシテ委任者ノ資産ノ管理ノ行爲ノミチ包含ス

代理カ或ハ管理或ハ處分或ハ義務ニ關シテ一箇又ハ數箇ノ限定セル行爲ヲ目的トスルトキハ其代理ハ部理ナリ

第二百三十三條 凡ソ代理ハ總理ナルト部理ナルトナ同ハス其目的タル行爲ヨリ必然ニ生ス可キ事柄ヲ暗ニ包含ス

然レトモ元本ヲ諾約スル委任ハ其辨濟ヲ爲ス委任ヲ包含セス

元本ヲ要約スル委任ハ其辨濟ヲ受クル委任ヲ包含セス

訴訟ヲ爲ス委任ハ仲裁人ヲ選任シ請求ニ承服シ訴訟ヲ取下ケ又ハ和解ヲ爲ス委任ヲ包含セス

和解ヲ爲ス委任ハ仲裁人又ハ裁判所ヲシテ爭論ヲ裁決セシムル委任ヲ包含セス

仲裁人ヲ選任スル委任ハ和解ヲ爲シ又ハ裁判所ヲシテ其爭論ヲ裁決セシムル委任ヲ包含セス

第二百三十四條 代理ハ無能力者ニモ有効ニ之ヲ委任スルコトヲ得然レトモ其代理人ハ委任者ニ對シテハ無能力者ノ制限アル責任ノミチ負擔ス

第二百三十五條 代理人ハ其ノ管理行爲ノ全部又ハ一分ニ付キ他人ヲシテ自己ニ代ハラシムルコトヲ得但此ヲ明示ニテ禁止セサルトキ又ハ事件ノ性質ニ因リテ專ラ代理人ノミニ委任シタリト看做ス可カラサルトキニ限ル此場合ニ於テ代理人ハ自己ノ管理ニ於ケル如ク其復代人ノ管理ノ責任ニ任ス

委任者カ復代人ヲ指定シタルトキハ代理人ハ其指定ニ從フコト能ハサル場合ニ於テモ他人ヲ選任スルコトヲ得ス代理人カ其指定ニ從ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ復代人ハ其復代人ノ無能又ハ不誠實ニ付キ委任者ニ之ヲ告知スルコトヲ怠リ又ハ復代人ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其責任ニ任セス

委任者ノ禁止シタルニ拘ハラス復代人ヲ選任シ又ハ其許諾セサル人ヲ選任シタル場合ニ於テハ復代人ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル損害ニ付テモ其責任ニ任ス但此復代人ノ選任ヲ爲サレハ其損害ノ生セサル可カリシトキニ限ル

第二百三十六條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ委任者ハ復代人ニ對シ其管理ニ關スル訴權ヲ直接ニ行フコトヲ得又之ニ對シ直接ニ責任ヲ負擔ス

同條第三項ノ場合ニ於テ委任者ハ直接訴權ト代理人ノ名ヲ以テスル間接訴權トノ間ニ選擇權ヲ有ス然レトモ直接訴權ヲ行ヒタルトキハ其復代人ノ選任ヲ認諾シタルモノト看做ス

第二節 代理人ノ義務

第二百三十七條 代理ノ終了セサル間ハ代理人ハ委任ノ本旨ニ從ヒ且明示ナキモ自己ノ了知シタル委任者ノ意思ヲ斟酌シテ委任事件ヲ成就スル責任ニ任ス此ニ違フトキハ損害賠償ヲ負擔ス

全部ノ履行ヲ爲スヲ得サルトキハ委任者ニ有益ナルニ非サレハ代理人ハ一分ノ履行ヲ爲ス責ナク且之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百三十八條 指定ノ代價ニテ物ヲ買入ルル委任ヲ受ケタル代理人カ其指定ヲ超ユル代價ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ得ル能ハサリシトキハ代理人ハ其超過額ヲ拋棄シテ買入ノ認諾ヲ委任者ニ要求スルコトヲ得又委任者ハ代理人ノ辨濟シタル代

價ヲ以テ物ノ引渡ヲ要求スルコト得

物ヲ賣却スル委任ヲ受ケタル場合ニ於テ代理人カ指定ノ代價以下ニテ之ヲ賣却シタルトキ代理人ハ代價ノ差額ヲ補足シテ其賣却ヲ認諾セシムルコトヲ得

第二百二十九條 代理人ハ委任事件ヲ成就セシムルコトニ付テハ善良ナル管理人タルノ注意ヲ爲ス責ニ任ス

然レトモ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ過失ハ較ヤ寛大ニ之ヲ査定ス

第一 代理人カ無償ニテ代理ヲ爲ストキ

第二 代理人カ自ラ求メテ代理ヲ爲シタルニ非サルトキ

第三 委任者カ代理人ノ不熟練ナルコトヲ了知シ又ハ之ヲ推量シタルトキ

第四 代理人カ管理ノ或ル行爲ニ付キ委任者ヲシテ其豫期セサリシ利益ヲ得セシメタルトキ

第二百四十條 代理人ハ代理ノ終了シタルトキハ證據書類ヲ添ヘテ其計算ヲ爲ス責ニ任ス其終了前ト雖モ委任者ノ之ヲ求メタルトキハ亦同シ

第二百四十一條 代理人ハ委任者ノ名ヲ以テ又ハ管理ニ關シ自己ノ名ヲ以テ受取リタル金額若クハ有價物ヲ委任者ニ返入スルコトヲ要ス又委任者カ正當ニ受取ルコトヲ得ス又ハ代理人ニ受取ルコトヲ託セサリシ金額若クハ有價物ト雖モ之ヲ受取

リタルトキハ亦同シ然レトモ次節ニ從ヒテ委任者ヨリ受取ル可キ金額ヲ控除ス

代理人ハ自己ノ收取スルコトヲ怠リ又ハ自己ノ過失ニ因リテ滅失セシメタル金額若クハ有價物ノ價額ヲ前數條ニ依リテ負擔スル損害賠償ト共ニ前項ノ返還中ニ附加ス

第二百四十二條 委任者ノ許諾ヲ受ケスシテ其元本ヲ自己ノ利益ニ用キタル代理人

ハ其使用ノ日ヨリ當然利息ヲ負擔ス其他損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス

計算殘餘ノ金額ニ付テハ代理人ハ其遲滞ニ付セラレタル日ヨリ利息ヲ負擔ス

第二百四十三條 一箇ノ事件ニ付キ數人ノ代理人アルトキハ唯一ノ證書ヲ以テ之ヲ委任シタルト各別ノ證書ヲ以テ之ヲ委任シタルトヲ問ハス各代理人ハ自己ノ過失ニ付テノミ其責ニ任シ連帶ヲ要約シタルトキ又ハ過失ノ連合ナルトキニ非サレハ其間ニ連帶ヲ成サス

第二百四十四條 代理人カ委任者ノ爲メ委任者ノ名ヲ以テ第三者ト爲シタル行爲ノ履行ニ付テハ代理人ハ其第三者ニ對シテ責ニ任セス但代理人カ明示ニテ履行ノ責ニ任シ又ハ第三者ニ對シテ已レノ有セサル權限ヲ有スルモノノ如ク示シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百四十五條 委任者ハ代理人ニ對シテ左ノ義務ヲ負擔ス

第一 代理人カ代理ノ履行ノ爲メ支出シタル立替金又ハ正當ノ費用ノ辨償及ヒ其支出シタル日以來ノ法律上ノ利息ノ辨償

第二 合意シタル謝金ノ辨償

第三 代理人カ其管理ニ因リ又ハ其管理ヲ爲スニ際シ自己ノ過失ニ非スシテ受ケタル損害ノ賠償但豫見シタル損害ニシテ其全部又ハ一分ニ付キ特ニ謝金ヲ諾約スル理由ト爲リタルモノハ此限ニ在ラス

第四 代理人カ其管理ニ因リテ負擔シタル一身上ノ義務ノ解脫又ハ其賠償

第二百四十六條 代理人ハ前條ニ掲ケタル支出ヲ爲スコトヲ約セサルトキハ其責ニ任セス然レトモ委任者ヨリ必要ナル資金ヲ供スルコトヲ拒絕シ又ハ遲延セシコト

ハ此限ニ在ラス

第三節 委任者ノ義務

第二百四十五條 委任者ハ代理人ニ對シテ左ノ義務ヲ負擔ス

第一 代理人カ代理ノ履行ノ爲メ支出シタル立替金又ハ正當ノ費用ノ辨償及ヒ

其支出シタル日以來ノ法律上ノ利息ノ辨償

第二 合意シタル謝金ノ辨償

第三 代理人カ其管理ニ因リ又ハ其管理ヲ爲スニ際シ自己ノ過失ニ非スシテ受ケタル損害ノ賠償但豫見シタル損害ニシテ其全部又ハ一分ニ付キ特ニ謝

金ヲ諾約スル理由ト爲リタルモノハ此限ニ在ラス

第四 代理人カ其管理ニ因リテ負擔シタル一身上ノ義務ノ解脫又ハ其賠償

第二百四十六條 代理人ハ前條ニ掲ケタル支出ヲ爲スコトヲ約セサルトキハ其責ニ任セス然レトモ委任者ヨリ必要ナル資金ヲ供スルコトヲ拒絕シ又ハ遲延セシコト

ノ證據ナキニ於テハ支出ヲ約セサル爲メ代理ノ履行ヲ遅延スルコトヲ得ス

第二百四十七條 謝金ハ代理ノ全部履行アリタル後ニ非サレハ委任者之ヲ負擔セス但二分ツツ辨濟ス可キコトヲ諾約シタルトキハ此限ニ在ラス

代理ノ責ニ歸セサル原因ニ由リテ全部ノ履行ニ妨碍アリタルトキハ謝金ハ其履行ノ割合ニ應シテ委任者之ヲ負擔ス

第二百四十八條 委任者カ義務ヲ辨濟スルニ至ルマテ代理人ハ代理ニ依リテ所持シ且債權者ト爲レル原因タル物ノ上ニ留置權ヲ有ス

第二百四十九條 數人カ唯一ノ證書又ハ各別ノ證書ヲ以テ共同事件ノ爲メ代理ヲ委任シタルトキハ委任者ノ各自ハ連帶シテ上ノ義務ヲ負擔ス但反對ノ要約アルトキハ此限ニ在ラス

第二百五十條 委任者ハ代理人カ委任ニ從ヒ委任者ノ名ニテ約束セシ第三者ニ對シテ負擔シタル義務ノ責ニ任ス

委任者ハ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ權限外ニ爲シタル事柄ニ付テモ亦其責ニ任ス
第一 委任者カ明示又ハ默示ニテ代理人ノ行為ヲ認諾シタルトキ
第二 委任者カ代理人ノ行為ニ因リテ利益ヲ得タルトキ但其利益ノ限度ニ從フ
第三 第三者カ善意ニシテ且代理人ニ權限アリト信スル正當ノ理由ヲ有シタルトキ

第四節 代理ノ終了

第二百五十一條 代理ノ履行又ハ其履行ノ不能及ヒ代理ニ付シタル期限ノ到來又ハ條件ノ成就ノ外尙ホ代理ハ左ノ諸件ニ因リテ終了ス

第一 委任者ノ爲シタル廢罷

第二 代理人ノ爲シタル拋棄

第三 委任者又ハ代理人ノ死亡、破産、無資力若クハ禁治産

第四 委任者カ代理ヲ委任シ又ハ代理人カ之ヲ受諾セシ原因タル資格ノ絶止

第二百五十二條 委任者ノミノ利益ノ爲メニ委任セシ代理ノ廢罷ハ謝金ヲ諾約シタルトキト雖モ委任者ハ何時ニテモ隨意ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十三條 廢罷ハ將來ニ向ヒテノミ有効ナリ且其廢罷前ニ有効ニ爲シタル事柄ヲ害セス

第二百五十四條 數人ノ委任者アルトキハ其中ノ一人ノ爲シタル廢罷ハ他ノ人ノ代理ヲ終了セシメス

第二百五十五條 代理ノ廢罷ハ默示タルコトヲ得默示ノ廢罷ハ同一ノ事件ニ付キ新代理人ノ選任又ハ委任者ノ管理ノ回復其他ノ事情ヨリ生スルモノナリ

第二百五十六條 代理ノ拋棄カ委任者ニ損害ヲ生セシメタルトキハ代理人ハ其賠償ノ責ニ任ス但正當又ハ己ムヲ得サル原因ニ基キタルトキハ此限ニ在ラス

代理ノ拋棄モ亦默示ニテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十七條 代理終了ノ原因ハ委任者ヨリ出テタルト代理人ヨリ出テタルトト問ハス當事者カ其告知ヲ受ケタルカ又ハ確實ニ之ヲ知リタルトキニ非サレハ當事者互ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

當事者ノ一方ノ死亡シタル場合ニ於テハ其相續人ヨリ告知スルコトヲ要ス

第二百五十八條 委任者カ代理人ヨリ委任狀ヲ取戻シタルトキト雖モ懈怠ナシニ代理ノ終了ヲ知ラスシテ代理人ト約束シタル第三者ニハ代理終了ノ原因ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二百五十九條 代理カ上ニ掲ケタル原因ノ一ニ由リテ終了セシトキハ代理人又ハ其相續人ハ委任者又ハ其相續人カ既ニ生シタル利益ヲ自ラ處理シ又ハ新代理人ヲシテ之ヲ處理セシムルコトヲ得ルニ至ルマテ其利益ヲ處理スルコトヲ要ス
此規定ハ代理ノ終了カ代理人ノ拋棄ニ因レルトキハ委任者ノ廢罷ニ因レルトキヨリモ一層嚴ニ之ヲ適用ス

第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約

第一節 雇傭契約

第二百六十條 使用人、番頭、手代、職工其他ノ雇傭人ハ年、月又ハ日ヲ以テ定メタル給料又ハ賃銀ヲ受ケテ勞務ニ服スルコトヲ得

雇傭ハ地方ノ慣習ニ因リ定マリタル時期ニ於テ又ハ確定ノ慣習ナキトキハ何時ニテモ一方ヨリ豫メ解約申入ヲ爲スニ因リテ終了ス但其解約申入ハ不利ノ時期ニ於テ之ヲ爲サス又惡意ニ出テサルコトヲ要ス

第二百六十一條 雇傭ノ期間ハ使用人、番頭、手代ニ付テハ五ヶ年職工其他ノ雇傭人ニ付テハ一ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス但習業契約ニ關スル下ノ規定ヲ妨ケス
此ヨリ長半時期ヲ約シタルニ於テハ當事者ノ一方ノ隨意ニテ右ノ時期ニ之ヲ短縮ス但更新ヲ爲ス權能ヲ妨ケス

第二百六十二條 雇傭ハ時期ヲ定メタルトキト雖モ當事者ノ一方ノ義務不履行ニ因ル解除ノ爲メ又ハ一方ヨリ出テタル正當ニシテ且己ムヲ得サル原因ノ爲メ其定期前ニ於テ終了ス
如何ナル場合ニ於テモ主人ノ一身ニ關スル雇傭ハ其死亡ノ爲メ當然終了ス

第二百六十三條 雇傭ヲ終了セシムル正當ノ原因カ主人ヨリ出テ且地方ノ慣習ニ從

ヒ雇傭ノ新契約ヲ爲スニ困難ナル季節ニ生シタルトキハ裁判所ハ專情ニ從ヒテ定ムル償金ヲ雇傭人ニ付與セシムルコトヲ得

第二百六十四條 如何ナル場合ニ於テモ雇傭人ノ死亡ハ契約ヲ終了セシム但其相續人ハ給料又ハ賃銀ノ取越額ヲ返還ス

第二百六十五條 上ノ規定ハ角力、俳優、音曲師其他ノ藝人ト座元興行者トノ間ニ取結ヒタル雇傭契約ニ之ヲ適用ス

第二百六十六條 醫師、辯護士及ヒ學藝教師ハ雇傭人ト爲ラス此等ノ者ハ其患者、訴訟人又ハ生徒ニ諾約シタル世話ヲ與ヘ又ハ與ヘ始メタル世話ヲ繼續スルコトニ付キ法定ノ義務ナシ又患者、訴訟人又ハ生徒ハ此等ノ者ノ世話ヲ求メテ諾約ヲ得タル後其世話ヲ受ケル責ニ任セス

然レトモ實際世話ヲ與ヘタルトキハ相互ノ分限ト慣習及ヒ合意トヲ酌量シテ其謝金又ハ報酬ヲ裁判上ニテ要求スルコトヲ得

此等ノ者ノ世話ヲ受ケルコトヲ諾約シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ受ケルコトヲ拒絕シタル者ハ其拒絕ヨリ此等ノ者ニ金錢上ノ損害ヲ生セシメタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

之ニ反シテ世話ヲ與フルコトヲ諾約シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ拒絕シタル者ニ因リテ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第二節 習業契約

第二百六十七條 工業人、工匠又ハ商人ハ習業契約ヲ以テ習業者ニ自己ノ職業上ノ知識ト實驗トヲ傳授シ習業者ハ其人ノ勞務ニ助力スルヲ約スルコトヲ得
未成年者ハ其父、後見人其他自己ニ對シテ權力ヲ有スル人ノ保佐又ハ名代ニ依ル

ニ非サレハ習業契約ヲ取結フコトヲ得ス

第二百六十八條 合式ニ保佐ヲ受クル未成年者又ハ其代人ノ取結ヒタル習業契約ハ其未成年ノ時期ヲ超ユルコトヲ得ス但習業者カ成年ニ達シタル後其契約ヲ更新シ又ハ之ヲ伸長スルコトヲ妨ケス

第二百六十九條 習業契約ハ當事者相互ノ義務ノ性質及ヒ廣狹ヲ定ム

習業契約ノ不備ハ師匠又ハ親方ノ其職業ヲ行フ地方ノ慣習ニ從ヒテ之ヲ補完スルコトヲ得

第二百七十條 師匠又ハ親方ハ習業者ニ衣食及ヒ職業ノ器具ヲ與ヘ且日常ノ使用ヲ足ラシムルコトヲ要ス但反對ノ合意ナク且地方ノ慣習ノ此ニ異ナラサルトキニ限ル

師匠又ハ親方ハ習業者ニ其習業契約ノ目的タル職業ヲ學ブコトヲ得セシムル爲メ必要ナル時間ヲ與ヘ世話ヲ爲シ及ヒ諸般ノ便利ヲ圖ルコトヲ要ス

未成年ノ習業者カ未タ算筆ヲ知ラサルトキハ師匠又ハ親方ハ何等ノ反對ノ合意アルモ習業者ニ算筆修習ノ爲メ休憩時間外ニ於テ毎日少ナクトモ一時間ヲ與フルコトヲ要ス

第二百七十一條 習業者ハ其習ハント欲スル職業ニ關シ日日ノ時間及ヒ勞務ヲ師匠又ハ親方ニ供スルコトヲ要ス

第二百七十二條 習業者カ自己又ハ其親屬ノ疾病其他ノ不可抗ノ原因ニ由リテ一个月以上引續キ勞務ヲ供スルコト能ハサルトキハ習業者ハ其成年ニ達シタル後ト雖モ習業契約ノ期限滿了後ニ於テ前契約ニ同シキ相互ノ條件ヲ以テ休業シタル時間ヲ補足スルコトヲ要ス

第二百七十三條 習業契約ハ左ノ諸件ニ因リテ當然終了ス

第一 師匠、親方又ハ習業者ノ死亡

第二 師匠、親方又ハ習業者ノ陸海軍ノ現役

第三 師匠、親方又ハ習業者ノ重罪又ハ三ヶ月ヲ超ユル禁錮ノ處刑

第四 合意又ハ法律ヲ以テ定メタル期間ノ滿了

第二百七十四條 左ノ原因アルトキハ解除ノ利益ヲ得ル一方ノ當事者ノ請求ニ因リ裁判所ハ契約ノ解除ヲ宣告スルコトヲ得

第一 相互ノ義務ノ不履行但ノ原因ニ由ルトキモ亦同シ

第二 習業者ニ對スル師匠又ハ親方ノ苛酷ナル取扱

第三 習業者ノ平常ノ不品行

第四 前條ニ掲ケタル場合ノ外師匠、親方又ハ習業者ノ犯罪

第五 契約ヲ履行ス可キ土地外ニ師匠又ハ親方ノ轉居

本條ニ依リテ解除ノ宣告ヲ受ケタル當事者ノ一方ハ自己ニ過失アルトキハ他ノ一方ニ對シテ尙ホ其損害ヲ賠償ス可キノ言渡ヲ受ク前條ニ掲ケタル處刑言渡ノ場合ニ於テモ亦同シ

第三節 仕事請負契約

第二百七十五條 工技又ハ勞力ヲ以テスル或ル仕事ヲ其全部又ハ一分ニ付キ豫定代價ニテ爲スノ合意ハ注文者ヨリ主タル材料ヲ供スルトキハ仕事ノ請負ナリ若シ請負人ヨリ主タル材料ト仕事トヲ供スルトキハ仕事ヲ爲ス可キ條件附ノ賣買ナリ

第二百七十六條 前條ニ掲ケタル二箇ノ場合ニ於テ物ノ全部又ハ一分ニ付キ既ニ仕事ヲ爲シタル後ニ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ其物ノ滅失セシトキハ材料ノ滅

失ハ其材料ノ屬スル者之ヲ負擔シ請負人ハ仕事賃ヲ損失ス
當事者ノ一方カ其所爲ニ因リテ滅失ヲ來タシタルカ又ハ引渡若クハ受取ニ付キ遲
滯ニ在ルトキハ其一方ノミ材料及ヒ仕事賃ニ付キ其滅失ヲ負擔ス但損害アルトキ
ハ其賠償ノ責ニ任ス

請負人ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テ一分ノ滅失又ハ單一ナル毀損カ物ニ其價額
ノ半以上ヲ失ハシムルトキハ之ヲ全部ノ滅失ト同視ス又其減價カ半以下ニ在ルト
キハ財産編第四百六條第四百九條第三項及ヒ第四百二十條ノ規定ヲ適用ス
注文者ヨリ材料ヲ供シタルトキハ注文者ハ滅失又ハ毀損ノ後存在スル材料ノ部分
ノ増價シタル限度ニ從ヒテ仕事賃ヲ辨濟スル責ニ任ス

第二百七十七條 注文者ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テハ仕事完成ノ後ニ非サレハ
引渡ヲ實行セサル可キト雖モ一分宛仕事ヲ調査シ且之ヲ受取ルヲ合意スルコ
トヲ得

此場合ニ於テ注文者カ既成ノ仕事ヲ調査シテ受取リタルトキ又ハ之ヲ調査スルコ
トノ遲滯ニ在ルトキハ請負人ハ既成ノ仕事ニ付キ其危險ノ責ヲ免カ
ル
仕事中ニ注文者ヨリ前金又ハ内金ヲ供シタルモ此ヲ以テ既成ノ仕事ヲ受取リタ
ト看做サス然レトモ物カ注文者ノ明白ナル受取又ハ其付遲滯ノ以前ニ滅失シタル
トキハ注文者ハ既成ノ仕事ヲ起ユル部分ニ非サレハ前金又ハ内金ヲ取戻スコトヲ
得ス

第二百七十八條 注文者カ異議ヲ留メスシテ工作物ヲ受取リタルモ後日其物ノ使用
ニ不適當ナル隠レタル瑕疵ヲ發見スルトキハ注文者ハ其受取ヲ取消シテ代價ノ減
殺又ハ其一分ノ返還ヲ請求スル權利ヲ失ハス

此權利ニ基キタル訴權ハ注文者ニ屬スル動産又ハ不動産ノ上ニ施シタル仕事ニ付
テハ全部ノ工作物ヲ受取リタル後ノ三ヶ月ニテ消滅ス

職工ヨリ材料ヲ供シタル製作物ニ付テハ第九十九條ノ規定ヲ適用ス

第二百七十九條 建物、牆壁其他地上ニ於ケル大ナル工作物ヲ請負ニテ築造シタル
トキハ請負人ハ築造ノ瑕疵又ハ地盤ノ瑕疵ヨリ生シタル其工作物ノ全部若クハ一
分ノ滅失又ハ重大ナル損壞ノ責ニ任ス但請負人カ他人ノ土地ニ築造シタルト自己
ノ土地ニ築造シタルト材料ヲ供シタルト否トヲ區別セス
右責任ハ左ノ時期ノ間繼續ス

第一 牆壁其他土工ニ付テハ其受取後二個年

第二 木造ノ建物ニ付テハ三個年

第三 石又ハ煉瓦ノ建物及ヒ土藏ニ付テハ十個年

第二百八十條 右ノ責任ニ基キタル賠償訴權ハ左ノ時期ヲ以テ時効ニ權ル

第一 物ノ全部ノ滅失ノ場合ニ於テハ其滅失ノ時ヨリ一個年

第二 物ノ一分ノ滅失又ハ重大ノ毀損ノ場合ニ於テハ請負人ノ責ニ任ス可キ期
間ノ滿了ノ時ヨリ六個月

第二百八十一條 經畫ノ變更ヨリ代價ノ増減ヲ生ス可キモ書面ヲ以テ之ヲ定メサル
トキハ其變更ヲ口實トシテ請負人ハ原代價ノ増加ヲ請求シ注文者ハ其減少ヲ請求
スルコトヲ得ス

請負中ニ包含シタル建築ト全ク別ナル建築ヲ爲シ又ハ請負中ノ區分アル建築ヲ廢
セシトキハ此規定ヲ適用セス此場合ニ於テ當事者ノ間ニ一致ヲ得サルトキハ裁判
所原代價ノ増減ヲ定ム

請負人ハ經畫又ハ其變更カ注文者ノ指圖ニ出テタルコトヲ口實トシテ第二百七十九條ニ定メタル責任ヲ免カルルコトヲ得ス但請負人カ書面ヲ以テ此責任ヲ免カルルコトヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十二條 請負人カ仕事ノミヲ供スルト材料ヲ併セ供スルトヲ問ハス注文者ハ常ニ自己ノ意思ノミヲ以テ契約ヲ解除スルコトヲ得然レトモ注文者ハ請負人ノ既成ノ仕事ノ賃銀及ヒ準備ノ材料ニ受ケタル損失其他ノ損害ヲ賠償シ且其契約ニ因リテ得ヘキ正當ナル利益ノ全部ヲ辨濟スル義務ヲ負擔ス

第二百八十三條 他人ノ材料ヲ以テ仕事ノ全部ニ供シタルト一分ニ供シタルト又其仕事ヲ實行シタルト契約ヲ解除シタルトヲ問ハス請負人ハ仕事ノ爲メ又ハ解除ノ賠償ノ爲メ自己ノ受ク可キ金額ノ皆濟ニ至ルマテ其材料ヲ留置スルコトヲ得但此留置權ハ動產物ノミニ之ヲ適用ス

第二百八十四條 注文者カ請負人其者ノ仕事ヲ主眼トシテ契約ヲ取結ヒタルトキハ其契約ハ請負人ノ死亡又ハ其仕事ノ不能ニ因リテ之ヲ解除スルコトヲ得

右二箇ノ場合ニ於テ注文者ハ自己ノ期望セシ目途ニ付キ利シタル仕事又ハ材料ノ價額ノミヲ請負人又ハ其相續人ニ辨濟スル責ニ任ス

第二百八十五條 仕事ノ一分ニ任シタル下請負人ト請負人トノ關係ニ付テハ上ノ規定ニ從フ

請負人カ下請負人ニ對シ負擔スル金額ヲ辨濟セサルトキハ下請負人ハ自己ノ名ヲ以テ直接ニ注文者ニ對シ其注文者ノ猶ホ請負人ニ辨濟ス可キ債務ノ限度ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得

職工モ亦己レヲ雇ヒタル者カ賃銀ヲ辨濟セサルトキハ注文者ニ對シテ右ト同一ノ

權利ヲ有ス

朕民法中財産取得編人事編ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治廿三年十月六日

法律第九十八號

民法財産取得編目錄

第十三章 相續

總則

第一節 家督相續

第一款 家督相續ノ通則

第二款 家督相續人ノ順位

第三款 隱居家督相續ノ特別規則

第二節 遺産相續

第三節 國ニ屬スル相續

第四節 相續ノ受諾及ヒ拋棄

第一款 單純ノ受諾

第二款 限定ノ受諾

第三款 拋棄

第四款 相續人ノ欠缺セル相續財産ノ處分

●民法△財産取得編

第十四章 贈與及ヒ遺贈

總則

第一節 贈與又ハ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力

第二節 贈與

第一款 贈與ノ方式

第二款 贈與ノ廢罷

第三節 夫婦間ノ贈與ノ特例

第四節 遺贈

第一款 遺言ノ方式

第二款 遺言ノ特別方式

第三款 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財産ノ部分

第四款 遺言ノ効力及ヒ執行

第五款 遺言ノ廢罷及ヒ失効

第五節 包括ノ贈與又ハ遺贈ニ基ク不分財産ノ分割

第一款 分割

第二款 分割ノ効力及ヒ擔保

第三款 分割ノ銷除

第十五章 夫婦財産契約

第一節 總則

第二節 法定ノ制

民法

財產取得編

第十三章 相続

總則

第二百八十六條 相続ニ二種アリ家督相続及ヒ遺產相続是ナリ

第一節 家督相続

第二百八十七條 家督相続トハ戶主ノ死亡又ハ隱居ニ因ル相続ヲ謂フ

第一款 家督相続ノ通則

第二百八十八條 家督相続ヲ爲スハ一家一人ニ限ル

何人ト雖モ二家以上ノ家督相続ヲ爲スコトヲ得ス

第二百八十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リ他家ニ入りテ其家ニ在ル者ハ實家其他ノ

家ノ家督相続ヲ爲スコトヲ得ス

第二百九十條 一人ニシテ數家ノ家督相続人ニ指定セラレ又ハ選定セラレタル者

ハ其中ノ一ヲ選定スルコトヲ得

第二百九十一條 推定家督相続人ハ他家ノ家督相続人ニ指定セラレ又ハ選定セラレ

タルモ其指定又ハ選定ハ無効トス

第二百九十二條 被相続人ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタ

ル者ハ相続ヨリ除外セラル但過失ニ因ルモノハ此限ニ在ラス

第二百九十三條 相続除外ノ訴權ハ被相続人ノ明示ノ宥免ニ因リテ消滅ス

第二百九十四條 家督相続人ハ姓氏、系統、貴號及ヒ一切ノ財産ニ相続シテ戶主ト爲

ル